

オーナーズマニュアル

PANIGALE V4



オーナーズマニュアル

日本語

PANIGALE V4 S

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。

所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。

本取扱説明書は大切に保管してください。損傷や紛失した場合は、速やかに Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに新しい取扱説明書をご請求ください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで(書面による)許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

概要 8

安全性ガイドライン 8

本マニュアルで使用されている警告シンボル 9

用途 10

ライダーの義務 11

ライダーの教育 13

服装 13

安全のための"ベストプラクティス" 14

燃料の補給 16

最大積載時の運転 17

車両への積載に関する注意 17

危険物 - 警告 18

車両識別番号 20

エンジン識別番号 21

インストルメントパネル(ダッシュボード) 22

インストルメントパネル 22

取扱説明書内で使用される頭字語および略語 25

技術用語集 25

機能ボタン 29

パラメーターの設定および表示 32

主な機能とサブ機能 37

エンジン回転数表示 (RPM) 39

車両スピード 40

ギア 41

時計 42

エンジンクーラント温度 43

ライディングモード (RIDING MODE) 44

パラメーターとレベル変更メニュー 50

DTC 53

DWC 59

DSC 65

EBC 69

ABS 74

DES 80

DQS 81

機能メニュー 83

オドメーター (TOT) 85

トリップメーター 1 (TRIP 1) 86

平均燃費 (CONS.AVG 1) 87
平均スピード (SPEED AVG 1) 89
トリップタイム (TRIP 1 TIME) 91
外気温 (T-AIR) 93
燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL) 94
トリップメーター 2 (TRIP 2) 95
瞬間燃費 96
ラップタイム (LAP Off / On) 97
プレーヤー操作 (PLAYER Off / On) 98
通話操作 (LAST CALLS) 99
設定メニュー (SETTING MENU) 100
ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode) 103
ライディングモードのパーソナライズ : DAVC 106
ライディングモードのパーソナライズ : DTC レベルの設定 109
ライディングモードのパーソナライズ : DWC レベルの設定 112
ライディングモードのパーソナライズ : DSC レベルの設定 115
ライディングモードのパーソナライズ : エンジンの調整 117
ライディングモードのパーソナライズ : ABS の調整 119
ライディングモードのパーソナライズ : EBC レベルの設定 122

ライディングモードのパーソナライズ : DQS 起動/解除 124
ライディングモードのパーソナライズ : 表示モード設定 (Info Mode) 126
ライディングモードのパーソナライズ : DES の調整 128
ライディングモードのパーソナライズ : デフォルト設定の回復 143
ライディングモードのパーソナライズ : デフォルト設定の回復 (All Default) 145
Pin Code 146
PIN CODE の変更 151
Lap 157
バックライトの設定 (Backlight) 163
日付の設定 (Date and Clock) 165
時計の設定 (Date and Clock) 168
単位の設定 (Units) 171
サービス期限の表示 (Service) 176
タイヤおよび減速比のキャリブレーション (Tire Calibration) 177
DRL モード設定 (DRL) 181
Bluetooth デバイス設定 (Bluetooth) 183
DDA 193
ターンインジケーター自動解除の操作 (Turn indicators) 197
情報 (Info) 199

ローンチコントロール (DPL) 201
ラップタイム (LAP Time) 209
インフォテインメント 211
DRL 自動モード表示 219
OIL SERVICE ゼロの表示 220
OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE 表示 221
OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE カウントダウン表示 222
注意 / 警告 (WARNING) 223
エラー表示 228
サイドスタンドの状態の表示 229
ライトコントロール 230
イモビライザーシステム 237
キー 238
キーの複製 239
PIN CODE による車両の解除 240

運転時に必要なコマンド 242
コマンド類の配置 242
イグニッションスイッチ / ステアリングロック 243
ハンドルバー左側スイッチ 244
クラッチレバー 249
ハンドルバー右側スイッチ 250

スロットルグリップ 252
フロントブレーキレバー 253
リアブレーキペダル 254
ギアチェンジペダル 255
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整 256

主要構成部品 / 装備 259
車両上の配置 259
燃料フィラープラグ 260
シートロック 261
サイドスタンド 263
Bluetooth コントロールユニット 265
ステアリングダンパー 267
フロントフォーク調整 268
リアショックアブソーバーの調整 269

運転の方法 270
慣らし運転の方法 270
走行前の点検事項 273
エンジンの始動 277
車両の発進 280
ブレーキ操作 280
ABS システム 281

車両の停止 282
パーキング 283
燃料の補給 284
付属アクセサリー 286

主な整備作業とメンテナンス 287

フェアリングの取り外し 287
エアフィルターの交換 288
クーラントレベルの点検および補充 289
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検 290
ブレーキパッドの摩耗点検 292
バッテリーの充電 293
冬季のバッテリー充電およびメンテナンス 300
トランスマッisionチェーン張力の点検 303
チェーンの潤滑 305
ハイビーム/ロービーム電球の交換 310
リアターンインジケーター 310
ヘッドライトの光軸調整 311
リアビューミラーの調整 313
チューブレスタイヤ 314
エンジンオイルレベルの点検 317
車両の清掃 319
スパークプラグの清掃と交換 321
長期間の保管 322
重要注意事項 323

メンテナンスプログラム 324
メンテナンスプログラム：ディーラーでおこなうメンテナンス 324
メンテナンスプログラム：お客様がおこなうメンテナンス 328

テクニカル仕様 329

重量 329
サイズ 330
補給 331
エンジン 333
タイミングシステム 334
性能データ 335
スパークプラグ 335
燃料供給 335
ブレーキ 335
トランスマッision 336
フレーム 337
ホイール 337
タイヤ 337
サスペンション 337
エキゾーストシステム 338
カラーバリエーション 338
エレクトリカルシステム 339

定期点検メモ 346

定期点検メモ 346

概要

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様を ドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しめることだと思います。

Ducati モーター・ホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーター・ホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。

本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。

お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセ

ンターで実施していただくことを強くお薦めしますページ 324 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかつたり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願ひいたします。

モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。正しい使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳

しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

警告

これらの注意事項が守られない場合、ライダーまたは他の人の重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。

重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

本モーターサイクルはアスファルト舗装、または平らで整備された路面状態の道路においてのみ使用してください。未舗装道路やオフロードでは本モーターサイクルを使用することはできません。

警告

オフロード走行に使用すると車両のコントロールを失い、車両の損傷、身体の傷害または死亡事故にいたるおそれがあります。

警告

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

警告

ライダー、荷物、オプションパーツを含む車両総重量が 370kg を超えないようにしてください。

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

ライダーの義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。

!**警告**

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

!**警告**

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

!**警告**

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

!**警告**

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

!**警告**

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

⚠ 警告

事故が起ったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

⚠ 警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

!**警告**

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツになります。

- ヘルメットはページ 11 に記載されている要件を満たしていかなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のものを着用してください。

- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- ジェケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。

!**重要**

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆつたりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

!**重要**

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

!**重要**

慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。

この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

!**警告**

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本冊子が定める点検を必ず実施してください(ページ 280 を参照)。

!**警告**

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーに重大な傷害を招くおそれがあります。

!**警告**

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

走行中は適切な姿勢を保ってください。

!**重要**

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

!**重要**

走行中、ライダーは必ず足をペダルに乗せてください。

!**重要**

私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などの交差点では十分に注意してください。

!**重要**

相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

! 重要

右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

! 重要

モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

! 重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。
トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

! 警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

! 警告

モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。

給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

!**警告**

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料(E10)のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

!**警告**

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹼で洗ってください。

!**警告**

燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。



警告

最大許容重量を超えないようにしてください。
また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意



重要

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。



重要

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。



重要

バッグなどの荷物は車体にしっかりと固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。



重要

車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。



警告

タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

ページ 314 の "タイヤ" の段落を参照してください。

危険物 - 警告

使用済みエンジンオイル



警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹼で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード



警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。



警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。



警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかかるないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント(エチレングリコール)は皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。クーラントは加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。

クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー



警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

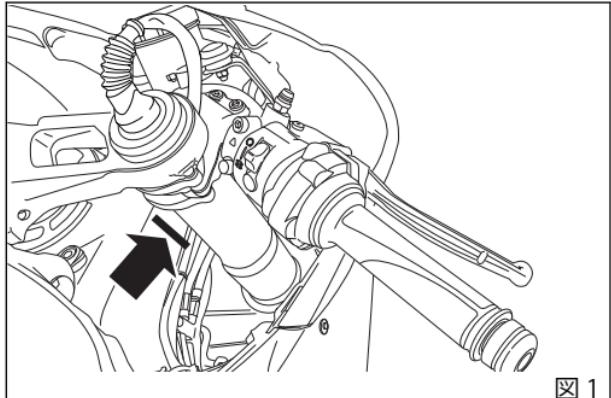
車両識別番号



参考 これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム N.



エンジン識別番号



これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

エンジン識別番号は車体フロント側、スターターモーターとジェネレーターカバー付近のホリゾンタルシリンダ下側に記載されています。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン N.

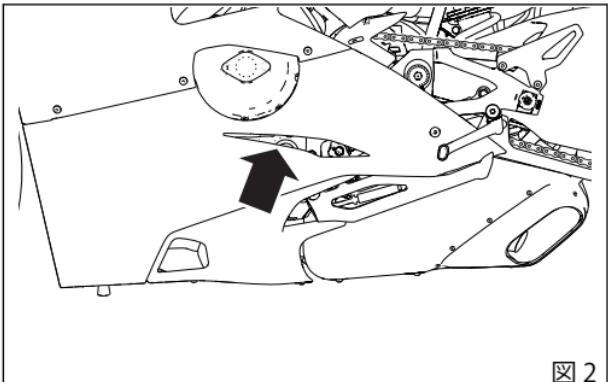


図 2

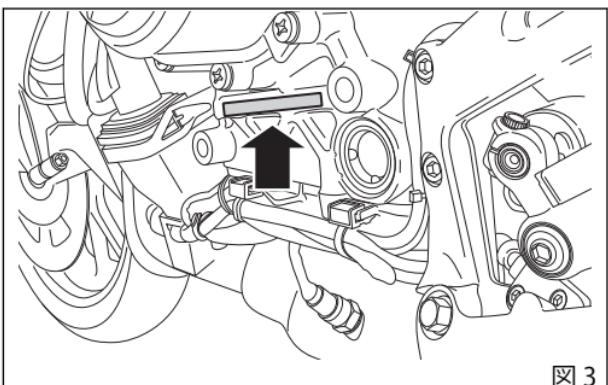


図 3

インストルメントパネル(ダッシュボード)

インストルメントパネル

- 1) ディスプレイ
- 2) ニュートラルランプ N (緑)
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。
- 3) 一般的エラー警告灯 △ (琥珀色)
車両に関連するエラーがあると点灯、エンジンコントロールユニットとは異なるコントロールユニットに起因するエラーに対して点灯します。
- 4) ハイビーム表示灯 ⚡ (青)
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。
- 5) リザーブ燃料警告灯 🔍 (琥珀色)
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します(「補給」をご覧ください)。
- 6) ターンインジケーター表示灯 ⇄ (緑)
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。
- 7) エンジンオイル圧警告灯 ⚡ (赤)

エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。
"KEY-ON" 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。



重要

エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

8) DAVC ランプ (琥珀色)

DTC / DWC / DSC システムの起動または解除を表示します。

- ランプ OFF : DTC / DWC / DSC 機能作動中
- ランプ ON 点滅 : DTC / DWC / DSC は起動しているが、性能が制限されている
- ランプ ON : コントロールユニット不具合のため、DTC / DWC / DSC は解除されているか作動していない

9) "エンジン診断 - MIL" ランプ 🔍 (琥珀色)

エンジンに関連するエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。

10) ABS ランプ (琥珀色) ABS 機能の状態を示します。

- ランプ OFF : ABS 機能作動中
- ランプ ON 点滅 : ABS は自己診断中あるいは起動しているが、性能が制限されている
- ランプ ON : ABS コントロールユニット不具合のため、ABS が解除されているか作動していない

11) DES ランプ (琥珀色)

- ランプ消灯 : DES システムが作動
- ランプ点滅 : DES システムが機能制限モードにあるか、初期化中の状態
- ランプ点灯 : DES システムの不具合発生

12) DRL ランプ (緑)

DRL の状態を示します(中国、カナダ、日本バージョンには装備されません)。

- ランプ消灯 : DRL 消灯
- ランプ点灯 : DRL 作動
- ランプ点滅 : DRL エラー

13) DTC 介入 (琥珀色)

- ランプ消灯 : 介入なし
- ランプ点灯 : 進角カットまたは燃料噴射カット

14) OVER REV / イモビライザー停止

オーバーレブ :

- ランプ消灯 : 介入なし
- ランプ点灯 : リミッター



参考

エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションでリミッター値の設定が異なる場合があります。

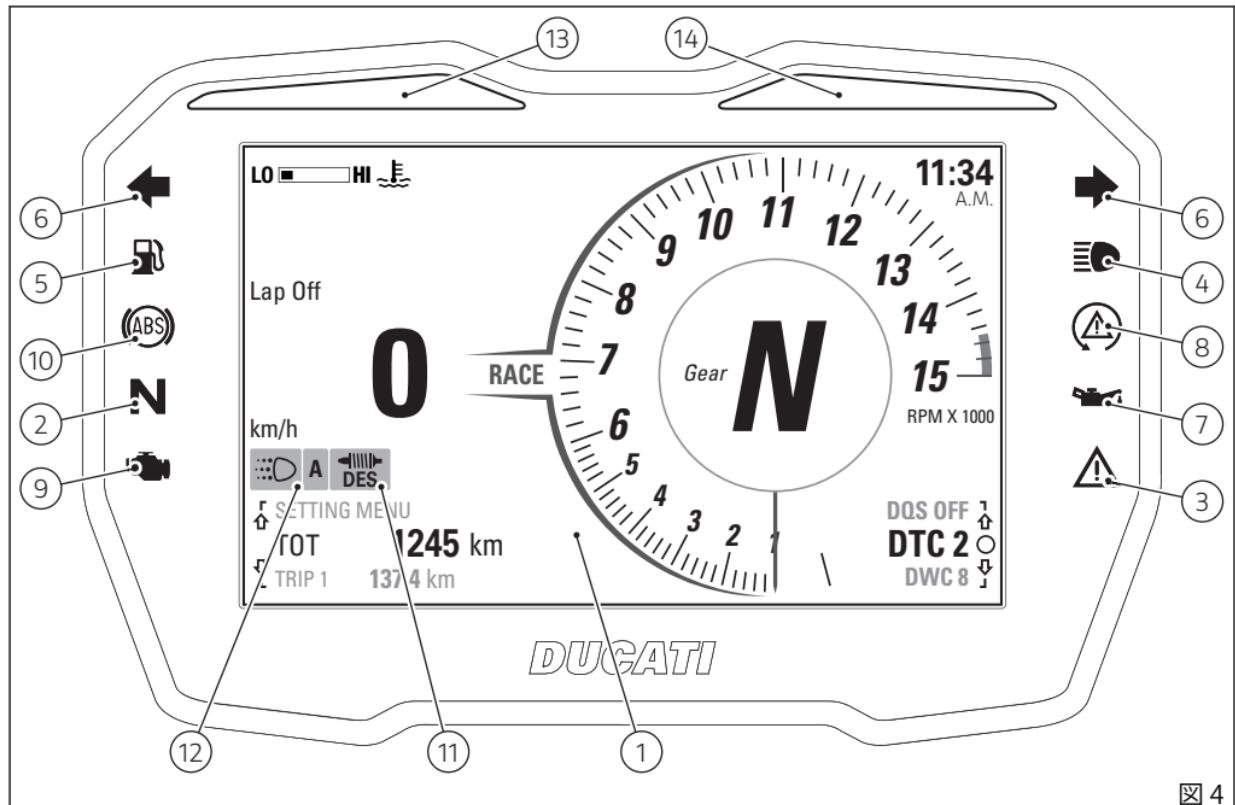
イモビライザー :

- ランプ消灯 : 車両 Key-ON 状態、または 12 時間以上 Key-OFF 状態
- ランプ点滅 : 車両 Key-OFF 状態



重要

ディスプレイに “TRANSPORT MODE” の文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。



取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS

アンチロックブレーキシステム

BBS

ブラックボックスシステム

CAN

コントローラーエリアネットワーク

DDA

ドゥカティデータアナライザー

DES

ドゥカティエレクトロニックサスペンション

DPL

ドゥカティパワーローンチ

DQS

ドゥカティクイックシフト

DSB

インストルメントパネル

DSC

ドゥカティスライドコントロール

DTC

ドゥカティトラクションコントロール

DWC

ドゥカティウィリーコントロール

EBC

ドゥカティエンジンブレーキコントロール

ECU

エンジンコントロールユニット

GPS

グローバルポジショニングシステム

IMU

慣性計測ユニット

技術用語集

エンジンブレーキコントロール (EBC)

エンジンブレーキ調整システム (EBC) はアンチホッピングクラッチと連動して機能し、急激なシフトダウンの際のリアホイールのブロックを防止します。

3 レベルのオペレーションシステムを装備し、EBC は 3 つのライディングモードに組み込まれています。

ライディングモード

Panigale V4 ではライダーは 3 つの初期設定 (ライディングモード) からライディングのスタイルや道路状況に最も適したモードを選択することができます。ライディングモードでエンジン出力 (パワーモード)、ABS、DTC、DQS、EBC、DWC の各介入レベル、インストルメントパネルの表示を瞬時に変更することができます。

Panigale V4 で使用できる設定は、RACE、SPORT、STREET です。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

パワーモード

パワーモードは、ライダー自身のライディングスタイルと路面状況に合わせて出力レベルとパワーデリバリーを選択できるエンジンマッピングです。

Panigale V4 には 3 つのパワーモードがあり、それがライディングモードと連動しています。

- LOW、穏やかなパワーデリバリー
- MEDIUM、穏やかなパワーデリバリー
- HIGH、瞬間的なパワーデリバリー

ライドバイワイヤ (RbW)

ライドバイワイヤシステムはスロットル開閉をコントロールする電子制御装置です。スロットルグリップとスロットルボディが機械的に接続されておらず、エンジンコントロールユニットがスロットルの開度をコントロールし、出力を調整します。

ライドバイワイヤにより選択したライディングモード(パワーモード)に合わせて出力とパワーデリバリーを変更することが可能になります。また、エンジンブレーキ(EBC)のタイムリーな管理が可能になるため、リアホイールのスリップ制御(DTC)に貢献します。

サスペンションコントロールユニット (SCU)

Panigale V4 には、セミアクティブサスペンションおよび電子制御ステアリングダンパー(DES)を装備するÖhlins Smart EC システムが搭載されています。

このシステムが Bosch 慣性センサーとのインターフェースとなり、変化する道路やライディング条件にダイナミックに対応して、サスペンション本来の性能を引き出し、確実な車両コントロールを可能にします。次の 2 通りの動作モードがあります。Fixed(固定) モード。アクティブモードではなく、フロント / リアサスペンションのコンプレッションダンピングおよびリバウンドダンピング、ステアリングダンパーのプリロードをライダーが特定レベルに設定することができます。一度設定したレベルは、従来型アジャスタブルサスペンションシステムと同様に、ライダーが新たに設定し直すまで維持されます。もうひとつは「Event Based」、イベントベースモードが用意されています。セミアクティブモードで、サスペンションの「拳動」レベルをライダーがハードからソフトまで選択することができます。このモードでは、ライダーが選択した「拳動」を維持しながら、システムは道路状況に応じてダンパーのコンプレッションダンピング、リバウンドダンピングをダイナミックに調整します。

ドゥカティトラクションコントロール (DTC)

ドゥカティトラクションコントロール(DTC)はリアホイールのスリップ制御を行い、8つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用サーキット走行向けのレベル1は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

ドゥカティスライドコントロール (DSC)

ドゥカティスライドコントロール (DSC) システムは、リアタイヤのドリフトや横滑りを制御しやすくすることを目的とし、カーブ立ち上がりの加速時にライダーを支援します。タイヤの進行方向でのスリップを制御するDTC機能の介入と併せて、このシステムが極限状態の走行コンディションにおいてより完成度の高い支援を実現します。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

Panigale V4 が搭載するABS は、バイクを倒していない直立走行中のブレーキング時に、設定レベルに応じた異なるストラテジーを適用して車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。ストラテジーのアクティブプレゼンスと介入レベルは選択レベルに準

じます。ABS には3通りの介入レベルが用意されており、それぞれライディングモードと連動しています。さらに、Panigale V4 が搭載するABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。コーナリング機能は全 ABS レベルで作動します。Panigale V4 の ABS 設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御を有効にでき、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

ドゥカティクイックシフト (DQS)

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。レバーの作動機構内に統合された双方向マイクロスイッチから成り、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオーブニングを制御します。

ドゥカティウィリーコントロール (DWC)

ドゥカティウィリーコントロール(DWC)はウィリー制御を行い、8つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されて

います。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル1ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

ドゥカティデータアナライザー (DDA+)

DDA+はドゥカティデータアナライザーの最新モデルで、GPS信号を読み取り "バーチャルフィニッシュライン"を作成します。システムはライダーの操作なしに自動的にラップの終了を検知し、ストップウォッチ測定を中断します。GPS信号を使用することでサーキットのマップ上に走行軌跡だけでなく、スロットル開度、スピード、エンジン回転数、ギア、エンジン温度、DTC介入といった車両の主要パラメーターを表示することができます。

ドゥカティパワーローンチ (DPL)

ドゥカティパワーローンチ (DPL) システムは、車両の出力を制御することを目的として、停止状態からの急発進時にライダーの微妙な操縦を可能してくれます。

DPLシステムは3つの介入レベルを基に機能します。各レベルでスタート時のアシストに対して異なる値が設定されています。

機能ボタン

1) コントロールボタン UP "▲"

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン "▲"。

2) コントロールボタン DOWN "▼"

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン "▼"。

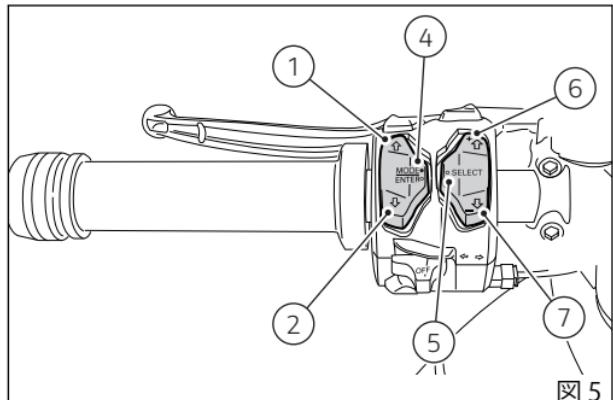
3) フラッシュヤーランプボタン

フラッシュヤーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。

4) メニュー決定 / ライディングモード変更ボタン
決定する、ライディングモード変更メニューに入る、設定メニューに入る時に使用するボタン。

5) クイックセレクトボタン "SELECT"

レベルのクイック変更の選択および決定に使用するボタン。



- 6) クイックセレクトボタン UP "▲" (図 5)
レベルのクイック変更の UP 選択に使用するボタン。
- 7) クイックセレクトボタン DOWN "▼" (図 5)
レベルのクイック変更の DOWN 選択に使用するボタ
ン。
- 8) ハザードボタン
4つのターンインジケーターの起動 / 解除に使用する
ボタン (ハザード機能)。
- 9) DRL ボタン
DRL の停止/作動に使用するボタン (中国、カナダ、日
本バージョンには装備されません)。

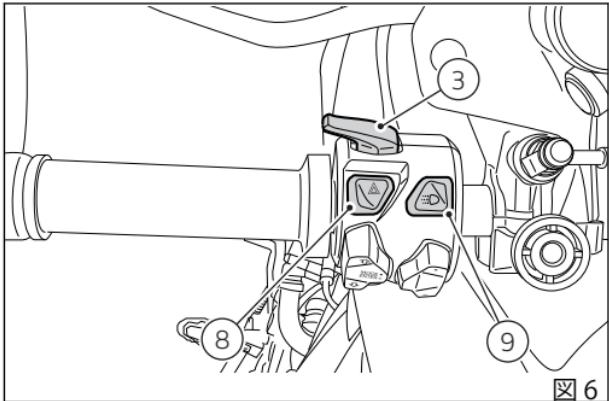


図 6

⚠ 警告

走行中にクイックセレクトボタン(6)または(7)ボタンを操作すると、トラクションコントロール(DTC)、ドゥカティウィリーコントロール(DWC)、エンジンブレーキコントロール(EBC)などボタンに連動する機能の介入値が直ちに変更されるため、危険な状況を招くおそれがあります。ボタン操作はスロットルコマンドの位置とは関係なく行うことができます。そのため危険な状況を招かないよう、操作は慎重に行ってください。一般道の走行中は、絶対に UP ボタンや DOWN ボタンを操作しないでください。お客様や第三者が行った運転補助機能の手動による解除や設定に起因するいかなる損害についても、ドゥカティ社は一切の責任を負いません。

パラメーターの設定および表示

起動時、インストルメントパネルにDUCATIのロゴが表示され、LED ランプのチェックを順番に実行します。

点検終了時、インストルメントパネルにはKey-OFF前に使用していた設定モード(TRACK、ROAD)のメインスクリーンが表示されます。

点検中に車両速度が 5 km/h (3 mph) (実速度) を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。

- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

メインスクリーンのレイアウトには次の2種類があります。TRACK、ROAD。

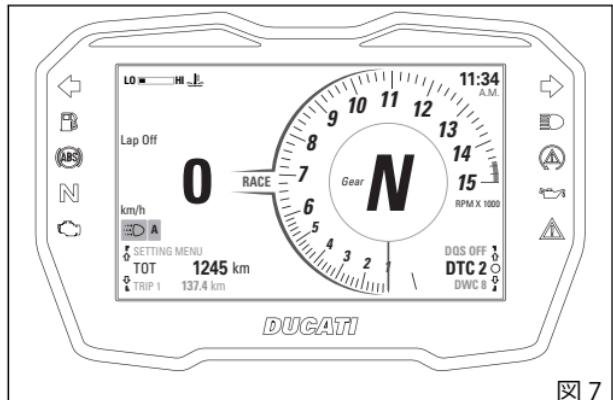
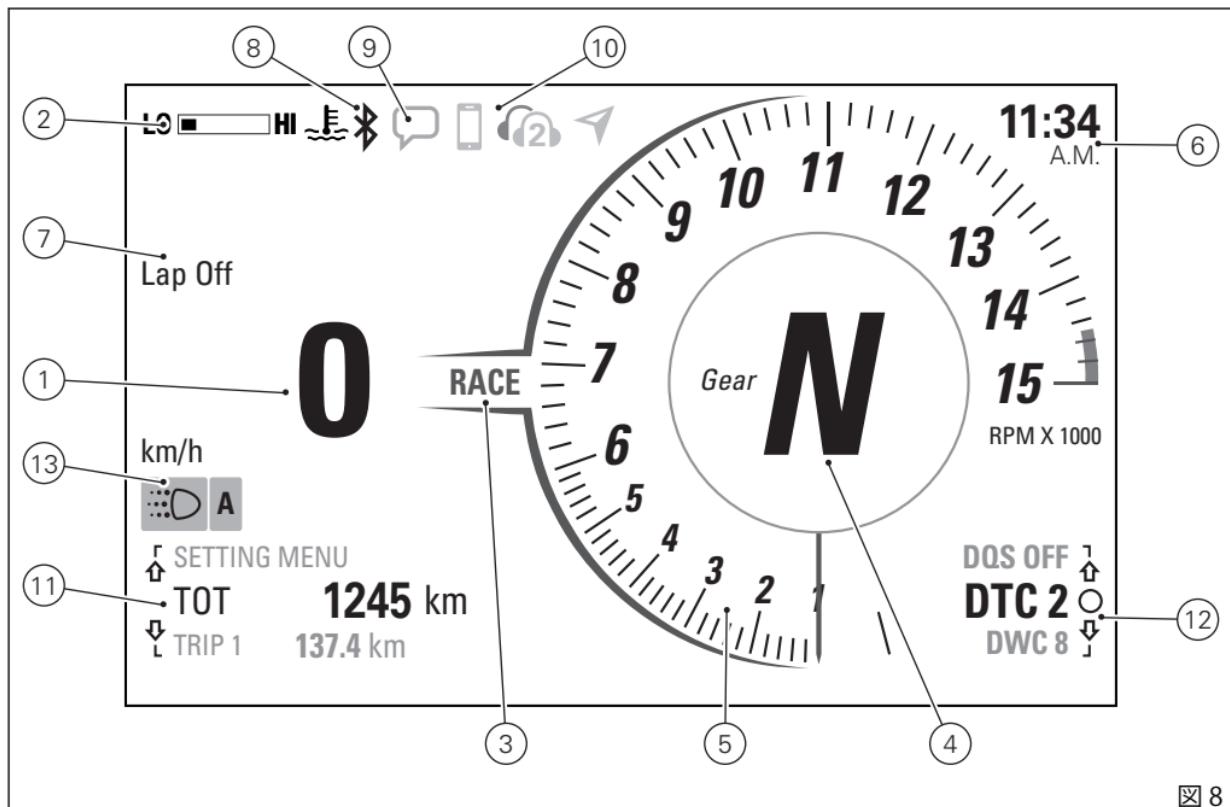


図 7

TRACK表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

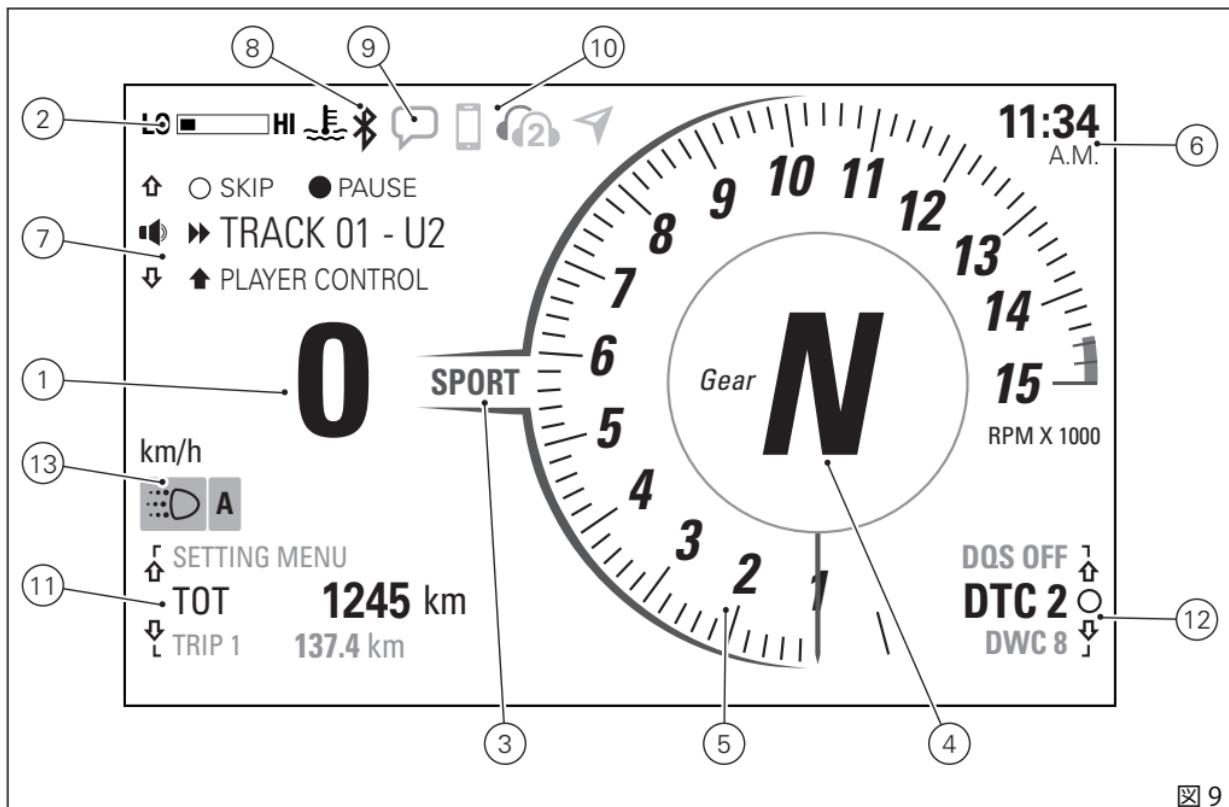
- 1) 車両スピード
- 2) エンジンクーラント温度
- 3) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 4) ギア表示
- 5) タコメーター
- 6) 時計
- 7) ラップタイム (Lap) (起動時のみ)
- 8) Bluetooth 表示 (Bluetooth が搭載されており、起動している時のみ)
- 9) 不在着信、またはSMS/MMS/Eメール受信表示 (Bluetooth が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- 10) 接続デバイス表示 (Bluetooth が搭載されており、起動している時のみ)
- 11) 機能メニュー
- 12) パラーメーターとレベル変更メニュー
- 13) DRL (Auto、マニュアル、停止)/ロービームライト (点灯 / 消灯) の状態：このエリアは、DRL とロービームライトの表示灯が交互に表示されます(中国、カナダ、日本バージョンにはDRLは装備されません)。



ROAD 表示モードのメイン画面には以下の情報が表示されます。

- 1) 車両スピード
- 2) エンジンクーラント温度
- 3) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 4) ギア表示
- 5) タコメーター
- 6) 時計
- 7) インフォテインメント — プレーヤー (音量 / 曲選択 / 曲操作) (Bluetooth が起動し、スマートフォンが接続されプレーヤーが起動している場合のみ)
- 8) Bluetooth 表示 (Bluetooth が起動している時のみ)
- 9) 不在着信、またはSMS/MMS/Eメール受信表示 (Bluetooth が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- 10) 接続デバイス表示 (Bluetooth が搭載されており、起動している時のみ)
- 11) 機能メニュー
- 12) パラメーターとレベル変更メニュー

13) DRL (Auto、マニュアル、停止) / ロービームライト (点灯 / 消灯) の状態：このエリアは、DRL とロービームライトの表示灯が交互に表示されます (中国、カナダ、日本バージョンには DRL は装備されません)。



主な機能とサブ機能

スタンダードスクリーンに表示される機能

メイン機能

- タコメーター
- 車両スピード
- エンジンクーラント温度
- 時計
- 設定ライディングモード (Riding Mode)
- ギア表示
- パラーメーターとレベル変更メニュー：
 - DTC
 - DWC
 - DSC
 - EBC
 - ABS
 - DES
 - DQS

機能メニュー：

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP 1)
- 平均燃費 (CONS.AVG 1)
- 平均速度 (SPEED AVG 1)
- トリップタイム (TRIP 1 TIME)
- 外気温 (T-AIR)
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
- トリップメーター 2 (TRIP 2)
- 瞬間燃費 (CONS.I.)
- ラップタイム ON/OFF (LAP) (TRACK モードのみ)
- プレーヤー操作 ON/OFF (PLAYER) (ROAD モードで Bluetooth が起動しており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- 通話操作 (LAST CALLS) (ROAD モードで Bluetooth が起動しており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- 設定メニュー (SETTING MENU)

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモードのパーソナライズ:パーソナライズメニューから以下の設定が可能です。
 - DTC/DWC/DSC レベルの設定 (DAVC)
 - エンジン調整 (Engine)
 - ABS レベルの設定 (ABS)
 - EBC レベルの設定 (EBC)
 - DQS レベルの設定 (DQS)
 - 表示モードのパーソナライズ (Info Mode)
 - エレクトロニックサスペンション調整 (DES)
 - デフォルト設定の回復 (DEFAULT)
 - PIN CODE の起動および変更 (Pin Code)
 - ラップタイム (Lap)
 - バックライトの設定 (Backlight)
 - 日時の設定 (Date and Clock)
 - 単位の設定 (Units)
 - サービス期限の表示 (Service)
 - タイヤ設定 (Tire Calibration)
 - DRL 設定 (DRL) (中国、カナダ、日本バージョンには DRL は装備されません)。
 - ペアリングデバイスの表示、デバイスのペアリング、デバイスの削除、Bluetooth バージョン表示 (Bluetooth)
 - ターンインジケーター自動解除の停止 (Turn indicators)
 - DDA
- 情報 (Info)
 - バッテリー表示 (BATTERY)
 - エンジン回転数表示 (RPM)

サブ機能

- Bluetooth インフォテインメント
- ラップタイム LAP
- DPL レベル
- SERVICE 表示
- SERVICE カウントダウン表示
- 注意 / 警告表示 (Warning)
- サイドスタンドの状態 (Side Stand)

エンジン回転数表示 (RPM)

インストルメントパネルがエンジン回転数の情報を受信すると、そのデータを針式タコメーターでディスプレイに表示します。

タコメーターは、TRACK 表示では(A) モードで表示され、ROAD 表示では(B) モードで表示されます。

タコメーターの針の動きに沿って、DAY モード (C) ではグレーの軌跡、NIGHT モードでは白色の軌跡が表示されます。

回転数が 13,000 rpm を超えると、針の軌跡はオレンジ色に変わります (Performance エンジンコントロールユニットでは、起点値は 12,500 rpm)。一方、リミッターが第一起点 (オーバーレブ) に達すると、針の軌跡は赤色に変わり、警告灯 13 ("インストルメントパネル" 参照) が点灯します。リミッター (オーバーレブ) が作動すると、赤色の軌跡が点滅に変わります。

回転数が 1,000 rpm を下回っている場合は、針の軌跡は表示されません。

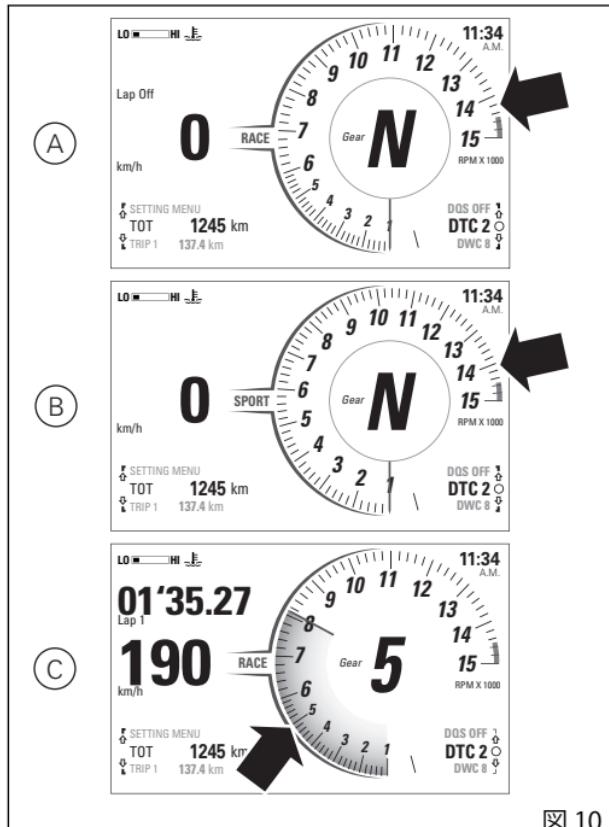


図 10

車両スピード

インストルメントパネルは車両の実速度 (km/h で算出) 情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位 (km/h または mph) で表示します。

以下の場合には "---" と単位が表示されます。

- スピード = 299 km/h (186 mph) の場合、または インストルメントパネルがスピード情報を受信しない場合 ("---" 点灯)
- リアスピードセンサーに異常がある場合 ("---" 点滅)



参考 インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

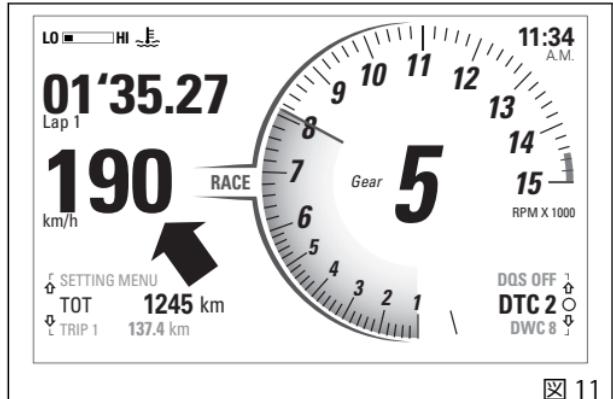


図 11

ギア

インストルメントパネルは車両のギアに関する情報を受信し、ディスプレイにその値を表示します。

ギアが挿入されている時は1から6の値が表示され、ニュートラルの時は"N"の文字が表示され、ニュートラルランプ(ランプ2、“インストルメントパネル”参照)が点灯します。

ギアセンサーホーの場合は、線“-”が表示され、ニュートラルランプ(ランプ2、“インストルメントパネル”参照)が点滅します。

参考

線“-”が点灯し、ニュートラルランプが消えている場合は、ギアが機械的に安定した位置にない可能性があります。その場合は、ギアが正しく表示されるまで、ギアを操作してください。

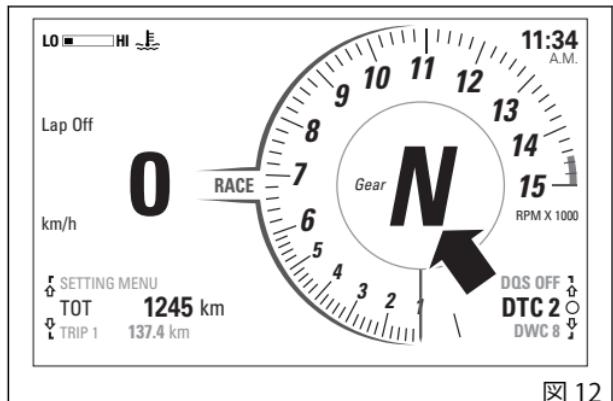


図 12

時計

インストルメントパネルは時間を次のように表示します。

- A.M.(12:00 から 11:59)、または P.M.(12:00 から 11:59)。
- hh (時間) : mm (分)

電源供給が中断された場合 (Battery OFF) は、次回の Key-ON 時に4本の点線"--:--"が表示されます。設定メニューから時計が設定されるまで "A.M." の文字が点灯して中央のコロンが点滅します。

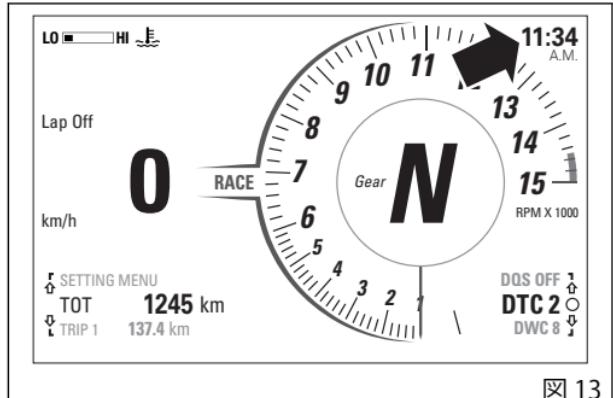


図 13

エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報を受信し、ディスプレイにデータを5つの目盛りと“LO”、“HI”マークで表示します。

エンジン温度の表示範囲は $+40^{\circ}\text{C} \sim +125^{\circ}\text{C}$
($+104^{\circ}\text{F} \sim +257^{\circ}\text{F}$)です。

温度が $+125^{\circ}\text{C}$ ($+257^{\circ}\text{F}$)を超えると、目盛りの代わりに“HIGH”的文字が赤色で点滅します。



警告

過熱状態の時は、冷却システムがエンジン温度を下げることができるよう、できるだけ低速で走行してください。低速で走行できない交通状況の時は、停車してエンジンを切ってください。

エンジンが過熱した状態で車両を使用し続けると、深刻な損傷を引き起こすおそれがあります。

エンジンが通常の温度に戻ってから、インストルメントパネルの警告灯を確認しながら走行してください。

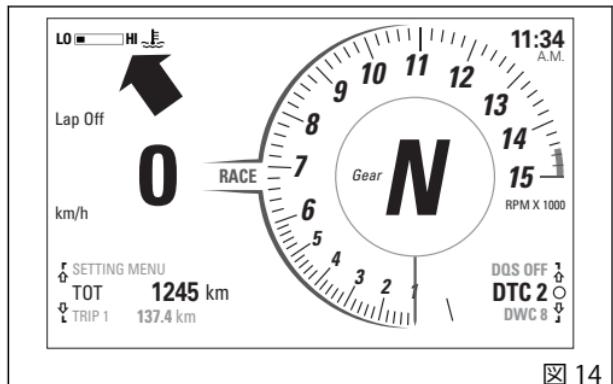


図 14

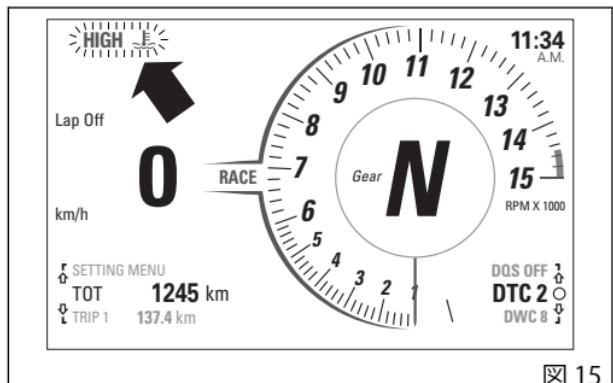


図 15

ライディングモード (RIDING MODE)

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定された3通りのライディングモードは RACE、SPORT、STREET です。

選択、設定されたライディングモードが、ディスプレイ中央の速度とタコメーターの間に表示されます。



警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください(低速での変更をお勧めします)。

それぞれのライディングモードには以下のドゥカティが設定したパラメーター、またはユーザーが設定機能ページから変更したパラメーターが連動しています。

- スロットル作動を変更するエンジン出力 (HIGH、MEDIUM、LOW)
- DTC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)
- ABS システムのキャリブレーション (1、2、3)
- DWC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)

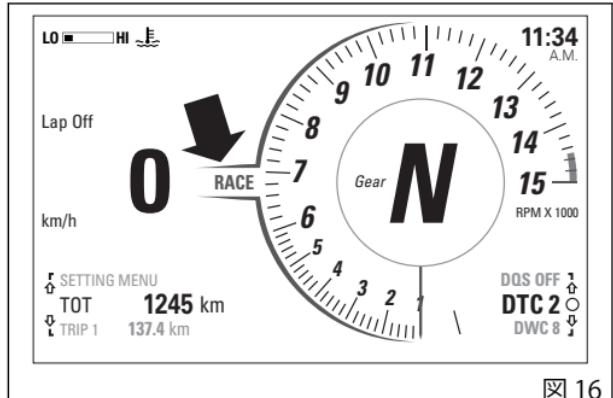


図 16

- DSC リアホイールスライドコントロールの介入レベル (1、2、3、OFF)
- EBC エンジンブレーキコントロールシステムの介入レベル (1、2、3、OFF)
- DQS レベル (UP/DOWN、OFF)
- DES エレクトロニックサスペンションの介入モード (FIXED、DYNAMIC)

各ライディングモードには情報を表示する標準画面がそれぞれ設定されています (TRACK、ROAD)。標準画面はドゥカティ社の初期設定、もしくはユーザーが設定機能ページから変更することができます。ドゥカテ

イ社が設定する表示モードは以下の各ライディングモードと連動しています。

- ライディングモード RACE 用 TRACK 表示モード
(
- ライディングモード SPORT 用 ROAD 表示モード
(
- ライディングモード STREET 用 ROAD 表示モード
(

ライディングモード変更機能

この機能では、車両の静止時および走行時にライディングモードを変更することができます。カスタマイズ可能な4つのライディングモードは、RACE、SPORT、STREETです。

ライディングモードを選択するには、ボタン(4)を1秒間押してライディングモードメニューに入ります。インストルメントパネルには速度が表示(ディスプレイの右側)されたまま、ライディングモード名(ディスプレイの左側)が表示されます。

- RACE
- SPORT
- STREET

最後に保存した現在使用中のライディングモード名が強調表示されます。さらに"EXIT"の文字が表示されます。この表示を選択している時にメニュー決定ボタン(4)を押すと、新しいライディングモードを保存せずに終了します。

強調表示されたライディングモードには、それに運動したいくつかの以下のパラメーターに関連する情報が表示されます。

- エンジン出力(ENGINE)："Engine"の文字に続いて設定エンジン出力(High、Medium、Low)。

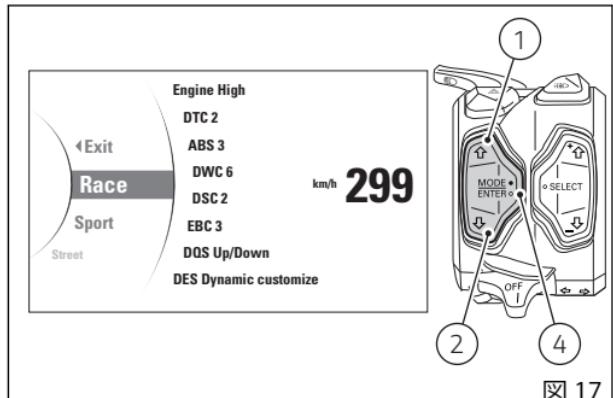


図 17

- DTCシステム：DTCシステムがONの場合は"DTC"の文字に続いて設定介入レベル("1"、"2"、"3"、"4"、"5"、"6"、"7"、"8")、DTCシステムがOFFの場合は"DTC"の文字に続いて"off"の文字。
- ABSシステム："ABS"の文字に続いてキャリブレーション設定レベル("1"、"2"、"3")。
- DWCシステム：DWCシステムがONの場合は"DWC"の文字に続いて設定介入レベル("1"、"2"、"3"、"4"、"5"、"6"、"7"、"8")、DWCシステムがOFFの場合は"DWC"の文字に続いて"off"の文字。

- DSC システム：DSC システムが ON の場合は "DTC" の文字に続いて設定介入レベル ("1"、"2"、"3")、DTC システムが OFF の場合は "DTC" の文字に続いて "off" の文字。
- EBC システム：EBC システムが ON の場合は "EBC" の文字に続いて介入レベル ("1"、"2"、"3")、EBC システムが OFF の場合は "off" の文字。
- DQS システム：DQS システムが ON の場合は "DQS" の文字に続いて設定介入レベル ("Up/ Down")、DQS システムが OFF の場合は "DQS" の文字に続いて "off" の文字。
- DES システム："DES" の文字に続いて設定モード "Fixed Suspension" または "Dynamic Suspension")

表示される情報は、各ライディングモード毎に記憶されている値です。保存されている値はドゥカティが設定した値、またはユーザーがカスタマイズした値です。

この時点で、ボタン (1) またはボタン (2) を 1 回押すごとに、ライディングモード (RACE、SPORT、STREET) と "◀ EXIT" 表示をスクロールします。例えば、最初のライディングモードが RACE の場合、ボタン (2) を押すと SPORT、STREET、"◀ EXIT" の順に強調表示が切り替わり、再び RACE に戻ります。一方ボ

タン (1) を押すと "◀ EXIT"、STREET、SPORT の順に強調表示が切り替わり、RACE に戻ります。

希望のライディングモードを選択したら、ボタン (4) を押してライディングモードを保存します。

走行速度 5 km/h (3 mph) 以下の時、インストルメントパネルはスロットルグリップの位置だけを点検します。

- スロットルグリップが閉じている場合、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認します。ライディングモード名が 3 秒間点滅してから、スタンダードスクリーンに戻ります。
- スロットルグリップが開いている場合、インストルメントパネルは "CLOSE THROTTLE" (スロットルを開じてください)(A) と表示します。スロットルグリップが閉じられた場合にのみ、選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。

走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えている場合、インストルメントパネルはスロットルグリップ位置、フロントブレーキおよびリアブレーキの圧力を確認します。

- スロットルグリップが閉じており、ブレーキがかっていない、または車両が停止している場合、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認します。ライディングモード名が 3 秒間点滅してから、"スタンダードスクリーン" に戻ります。



図 18

- スロットルグリップが開いている場合、インストルメントパネルは "CLOSE THROTTLE" (スロットルを閉じてください)(A) と表示します。スロットルグリップが閉じられた場合にのみ、選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。
- スロットルグリップが閉じているもののブレーキがかかっている場合、"RELEASE BRAKES" (ブレーキを放してください)(B) と表示します。ブレーキが放された場合にのみ、選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。
- スロットルグリップが開いている、あるいはブレーキがかかっている状態で車両が動いている場合、インストルメントパネルは "CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES" (スロットルを閉じてブレーキを放してください)(C) と表示します。すべての条件が確認された場合にのみ(ガスグリップが閉じており、ブレーキがかかっていないか車両が停止している)、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認し、"スタンダードスクリーン" に戻ります。

"CLOSE THROTTLE"、"RELEASE BRAKES" または "CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES" の表示が現れてから 5 秒以内にライディングモード変更を有効に

する上記の条件が満たされなかつた場合は、選択手順は中止されます。インストルメントパネルは設定を変更せずに前の表示、ライディングモード選択入口画面に戻ります。

ボタン(4)(図 17)を押して "EXIT" 表示を選択した場合は、新しい設定(新しいライディングモード)を保存せずにメイン画面に戻ります。

パラメーターとレベル変更メニュー

メイン画面の右下の角に、「パラメーターとレベル変更メニュー」が表示されます。

このメニューには次の2つのモードがあります。

- パラメーターの表示
- レベル変更

参考

次回のKey-ON時、「パラメーターとレベル変更メニュー」は前回のKey-OFF前に使用していたモードを表示します。

参考

バッテリーが中断された場合、電源回復後のKey-ON時に、「パラメーターとレベル変更メニュー」は「パラメーターの表示」モードを表示します。

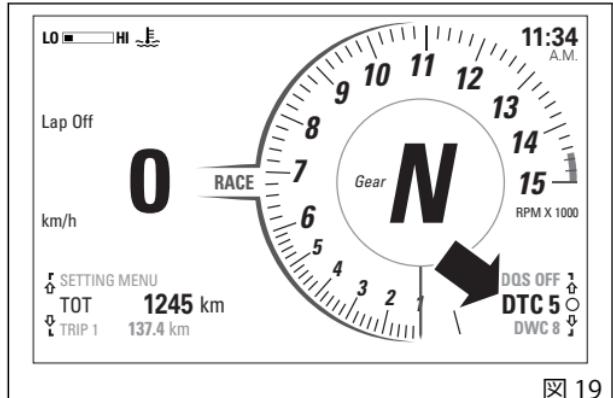


図 19

パラメーターの表示

「パラメーターとレベル変更メニュー」のこのモードは、以下のパラメーターと現在の設定値を表示します。

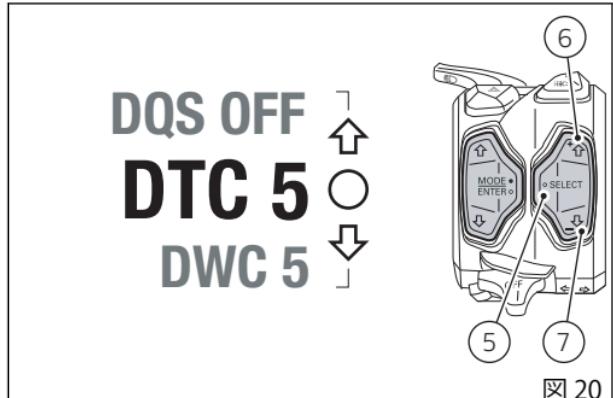
- DTC
- DWC
- DSC
- EBC
- ABS
- DES
- DQS

ボタン(6) ↑ とボタン(7) ↓ を使って、パラメーターをスクロールさせることができます。

パラメーターの右側に丸印 ○ が現れると、ボタン(5) ○ を押してパラメーターのレベルを変更できることを示します。



参考
設定メニュー(例:DTC、DWC、DSC、EBC)からパラメーターが「OFF」に設定されている場合は、「OFF」ステータスが表示され、クイック変更は実行できません。



レベル変更

「パラメーターとレベル変更メニュー」のこのモードは、選択したパラメーターと現在の設定値を表示し、新しいレベルを設定することができます。

以下のパラメーターについてレベルのクイック変更を実行できます。

- DTC (レベル 1 からレベル 8)
- DWC (レベル 1 からレベル 8)
- DSC (レベル 1 からレベル 2)
- EBC (レベル 1 からレベル 3)

「パラメーターの表示」モード内で、上記いずれかのパラメーターの表示中にボタン(5)を押すと、
○ レベルのクイック変更モードに入ります。

メニュー内には、左側にパラメーターが表示され、ボタン(6)↑とボタン(7)↓を使って好みのレベルを選択することができます。

例えば、レベルのクイック変更を実行したいパラメーターが“DTC”で、現在のレベル“5”的場所：

- ボタン(7)↓を押す度に、レベル“1”までレベルが1づつ下がります。
- ボタン(6)↑を押す度に、レベル“8”までレベルが1づつ上がります。

6
↑
○
↓
4

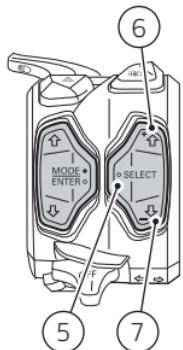


図 21

表示されたレベルは、インストルメントにより該当するパラメーターに直ちに設定されます。



参考 クイック変更からは、パラメーターレベルを「off」に設定して機能を停止することはできません。

ボタン(5)○を押すと、「パラメーターと値の表示」モードに戻ります。

DTC

インストルメントパネルはディスプレイにDTC機能の状態を「パラメーターとレベル変更メニュー」ページ0で以下のように表示します。

- DTCがONの場合、"DTC"の文字と設定介入レベル1から8までの数値。
- DTCがONの時に機能制限モードである場合は、"DTC"の文字と1から8までの数値が点滅、さらにDAVCランプ(ランプ8、"インストルメントパネル"参照)が点滅します。
- DTCエラーの場合は、"DTC"の文字と"Err"の文字が赤色で表示されます。
- DTCがOFFの場合は、"DTC"と"Off"の文字が点灯、さらにDAVCランプ(ランプ8、"インストルメントパネル"参照)が点灯します

!**警告**

システム異常の場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

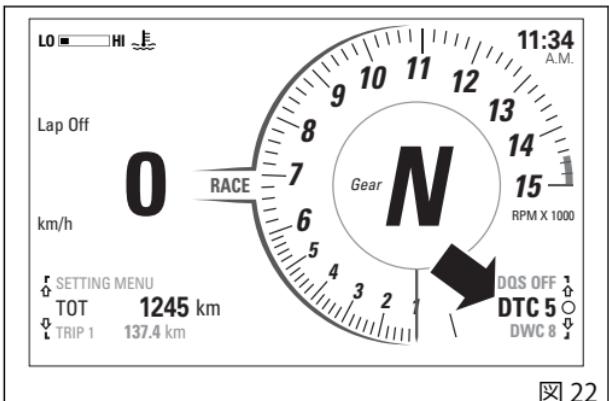


図 22



警告

DTCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時、サーキット走行時のどちらでも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく扱うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で

確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたる、合理的に許容されるスピードを超えたるするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDTC介入レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
OFF		DTC システムは解除されています。	NO
1	TRACK プロフェッショナル	このレベルは熟練ライダー向けサーキット走行専用として設定されており、ピレリ製 SC1 コンパウンドタイヤに合わせて最適化されています。 このモードにおいて DTC はスリップを許容します。	NO
2	TRACK	このレベルは熟練ライダー向けサーキット走行専用に設定されており、標準装備の OEM タイヤに合わせて最適化されています。 このモードにおいて DTC はスリップを許容します。	NO
3	SPORT / TRACK	このレベルは上級ライダー向けサーキット走行用に設定されています。 このモードにおいて DTC はスリップを許容します。	ライディングモード "RACE" のデフォルトレベル

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
4	SPORT / TRACK	このレベルはサーキット走行用(および上級ライダー用ストリート走行用)に設定されています。	
5	SPORT	このレベルは、ENGINE LOWを使用したストリートおよびサーキット走行用に設定されています。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
6	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、グリップの良好なストリート走行用に設定されています。	ライディングモード "STREET" のデフォルトレベル
7	RAIN	このレベルは濡れた路面でレインタイヤを装着するサーキット走行専用に設定されています。	NO
8	HEAVY RAIN	このレベルは濡れたアスファルトや滑りやすい路面でのストリート走行用に設定されています。このレベルが最善に機能するためには、ENGINE LOWを使用してください。	NO

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着し、標準装備の最終減速比を装備している場合においてのみ、DTCシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Diablo Supercorsa SPのサイズ：フロント120/70ZR17、リア200/60ZR17になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低下することがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合(サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

レベル8を選択すると、DTCはリアタイヤのわずかなスピンにも介入します。レベル8とレベル1の間には、その他に6つのレベルが存在します。DTCの介入度はレベル8から1に向かい減少します。

レベル1は標準装備タイヤとは異なるSC1コンパウンドタイヤ(Pirelli Diablo Supercorsa SC1)を装着したサーキット走行専用に開発されています。特徴の異なるタイヤでこのレベルを使用すると、システムの機能特性が異なることがあります。

正しいレベルの選択は、3つの観点から行います。

- 1) グリップ(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
- 2) レイアウト/行程(同じような、または全く異なるスピードでのカーブ)
- 3) ライディングスタイル(より"スムーズ"に、またはより"シャープ"に)

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています(後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照)。グリップが弱い場合には、DTCが確実に介入するより高いレベルを使用する必要があります。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当な DTC 介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし "シャープ" に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して "スムーズ" に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、タイヤを温める間の数周はレベル 6 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 6、5、4 と変えながら最適な DTC レベルに達するまで調整します。

過度な介入が起こる 1 つか 2 つの緩いカーブを除けば納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し "シャープ" なライディングスタイルで走行してみてください。

一般道での使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、レベル 8 に設定することをお勧めします。DTC が介入しすぎると感じる場合には、レベルを 5、4 と変えながら、最適なレベルに達するまで調整します。

グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更した時に、設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例: レベル 7 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 6 に、レベル 7 では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 8 に変更します)。

DWC

インストルメントパネルはディスプレイに DWC 機能の状態を「パラメーターとレベル変更メニュー」ページ 0 で以下のように表示します。

- DWC が ON の場合、"DWC" の文字と設定介入レベル 1 から 8 までの数値。
- DWC が ON の時に機能制限モードである場合は、"DWC" の文字と 1 から 8 までの数値が点灯し、さらに DAVC ランプ(ランプ 8、"インストルメントパネル" 参照)が点滅します。
- DWC エラーの場合は、"DWC" の文字と "Err" の文字が赤色で表示され、さらに DAVC ランプ(ランプ 8、"インストルメントパネル" 参照)が点灯します。
- DWC が OFF の場合、"DWC" と "OFF" の文字。

!**警告**

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

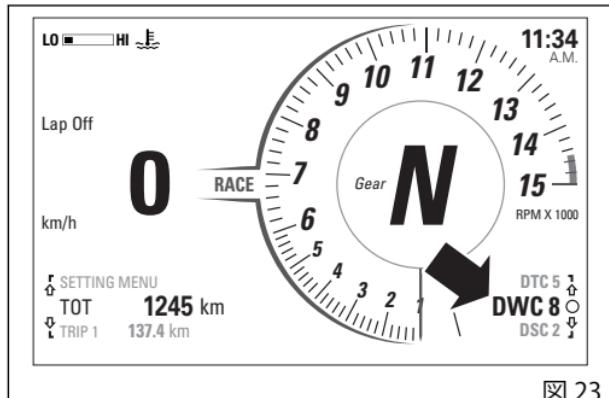


図 23



参考

DTC が OFF に設定されている場合は、DWC も強制的に OFF に設定されます。

ドゥカティウィリーコントロール(DWC)はウィリー制御を行い、8つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル 1 ではウィリー防止を

最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

警告

DWCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサークット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく扱うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたとき、合理的に許容されるスピードを超えたときのような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDWC介入レベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DWC	用途		DEFAULT
OFF		DWCシステム解除	NO
1	HIGH PERFORMANCE	熟練ライダー向けサーキットでの使用。 ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	NO
2	MEDIUM PERFORMANCE	熟練ライダー向けサーキットでの使用。 ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	NO
3	PERFORMANCE	熟練ライダー向けサーキットでの使用。 ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	ライディングモード "RACE" のデフォルトレベル
4	PERFORMANCE	すべてのライダー向け、サーキッドでの使用。 ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
5	SPORT	すべてのライダー向けレベルシステムは ウィリーが発生する傾向を抑え、 ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	ライディングモード "STREET" のデフォルトレベル
6	SPORT	すべてのライダー向けレベルシステムは ウィリーが発生する傾向を抑え、 ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO

DWC	用途		DEFAULT
7	MEDIUM SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムは ウィリーが発生する傾向を抑え、 ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO
8	HIGH SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムは ウィリーが発生する傾向を最小限に抑 え、 ウィリー発生時には大幅な介入を行 います。	NO

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備の最終減速比を装備し、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DWCシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Diablo Supercorsa SP のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 200/60ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合(サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

DWCのレベル8を選択すると、システムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。レベル8からレベル1の順にDWCシステムの介入レベルが小さくなります。レベル1、2、3ではウィリーをしやすくなっていますが、同時にウィリー時の減速を行います。これらのレベル

の使用は、自らウィリーを制御することができる熟練ライダーがサーキットで使用する場合にのみ推奨されます。その場合システムはウィリーの発生を助けるというよりも、ウィリーが発生する速度を抑えることでライダーを補助します。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- ライダーの経験
- レイアウト/行程(低速ギアでの立ち上がり、もしくは高速ギアでの立ち上がり)

ライダーの経験

使用するレベルはウィリーを自ら制御するライダーの経験度と密接に関連しています。レベル1、2、3を適切に利用するためには高い能力が求められます。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に低速ギアで立ち上がる速度の低いカーブが存在する場合、より低いレベルを選択する必要があります。逆に高速サーキットなどではより高いレベルを選択することが可能です。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するため、最初の数周はレベル8に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを7、6と変えながら最適なDWCレベルに達するまで調整します(タイヤを温めるため、各レベルごとに数周します)。

一般道での使用時のアドバイス

DWCを起動した後、レベル8を選択し、好みのスタイルで運転します。DWCが介入しすぎると感じる場合は、レベルを7、6と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。行程タイプが変化したため設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例: レベル7ではDWCが介入しすぎると感じる場合はレベル6に、レベル7ではDWCの介入が全くないと感じる場合はレベル8に変更します)。

DSC

インストルメントパネルはディスプレイにDSC機能の状態を「パラメーターとレベル変更メニュー」ページ0で以下のように表示します。

- DSCがONの場合、"DSC"の文字と設定介入レベル1から2までの数値。
- DSCがONの時に機能制限モードである場合は、"DSC"の文字と1から2までの数値が点滅、さらにDAVCランプ(ランプ8、"インストルメントパネル"参照)が点滅します。
- DSCエラーの場合は、"DSC"の文字と"Err"の文字が赤色で表示されます。
- DSCがOFFの場合は、"DSC"と"OFF"の文字が点灯、さらにDAVCランプ(ランプ8、"インストルメントパネル"参照)が点灯します

!**警告**

システム異常の場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

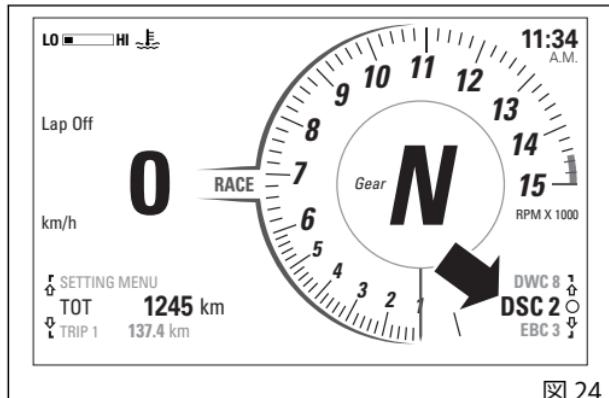


図 24



参考

DTCがOFFに設定されている場合は、DSCも強制的にOFFに設定されます。

ドゥカティスライドコントロール(DSC)システムは、リアタイヤのドリフトや横滑りを制御しやすくすることを目的とし、カーブ立ち上がりの加速時にライダーを支援します。タイヤの進行方向でのスリップを制御するDTC機能の介入と併せて、このシステムが極限状態の走行コンディションにおいてより完成度の高い支援を実現します。

DSCは2通りのレベルで動作します。各レベルはDTCの特定レベルと組み合わせてタイヤの横滑りに介入する異なる値が設定されています。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えていたり、合理的に許容されるスピードを超えていたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下表は、各運転タイプに適したDSC介入レベルを示します。選択したDTCレベルに応じて、各レベルは指定のタイヤおよびDTCレベルに対して最適になるように設定されています。

DSC	用途	DEFAULT
OFF	DSCシステム解除	NO
1	ベースの介入レベルは、選択するDTCレベルに依存します。DSCシステムは横滑りを制限するために控えめな介入を行います。	NO
2	ベースの介入レベルは、選択するDTCレベルに依存します。システムは横滑りを制限するためによりはつきりと介入します。	ライディングモード "RACE"、"SPORT"、"STREET" のデフォルトレベル。

警告

DSCシステムは、リアタイヤの横滑りを制限することでドリフト状態でのカーブの立ち上りに加速しやすいようにユーザーを支援します。ユーザーが危険を伴うドリフト角に達するのをシステムは防止できませんので、安全のために運転中は常に十分に注意して本システムを使用してください。

レベルの選択に際しての注意事項

運転スタイルに応じて、カーブの立ち上がりがほぼ鋭角のコース取りができ、大きめか小さめのドリフト角を伴うことがあります。以下の記載に従ってご自身のライディングに最適な介入レベルを見つけてください。

そのためにはまず、DTC システムの解説の記載内容に従って、最適な DTC レベルを決定することが推奨されます。次に、よりはっきりした介入を行う DSC レベル 2 を選択し、システムの特性を理解するためにコースを数周してください。サイドグリップへの介入が多くすぎると感じる時は、軽い介入を行う DSC レベル 1 を試してください。

標準装備の OEM タイヤ以外のもので、標準装備のタイヤとはサイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合は、システムの機能が影響を受ける可能性があります。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。



警告

DSC はライダーをアシストするシステムです。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超したり、合理的に許容されるスピードを超えたたりするような運転に寄与するシステムではありません。

EBC

インストルメントパネルはディスプレイにEBC機能の状態を「パラメーターとレベル変更メニュー」ページ0で以下のように表示します。

- EBCシステムがONの場合、"EBC"の文字と設定介入レベル1から3までの数値。
- EBCがONの時に機能制限モードである場合は、"EBC"の文字と1から3までの数値が点滅。
- EBCエラーの場合は、"EBC"の文字と"Err"の文字が赤色で表示されます。
- EBCがOFFの場合、"EBC"と"Off"の文字。

エンジンブレーキコントロール(EBC)は走行中アクセルが完全に閉じた時に掛かるエンジンブレーキ制御を行います(ブレーキを掛けているかいないかに関わらず、シフトダウン時やギアは変えずにアクセルだけを戻した時)。このシステムは独立してスロットルバルブを調整し、走行中のホイールからエンジンへのバックトルクを一定に保ちます。

このエンジンブレーキ調整システムではエンジンブレーキが最大になるOFF設定のほか、レベルを上げるごとにエンジンブレーキが徐々に軽減するレベル設定が可能です。

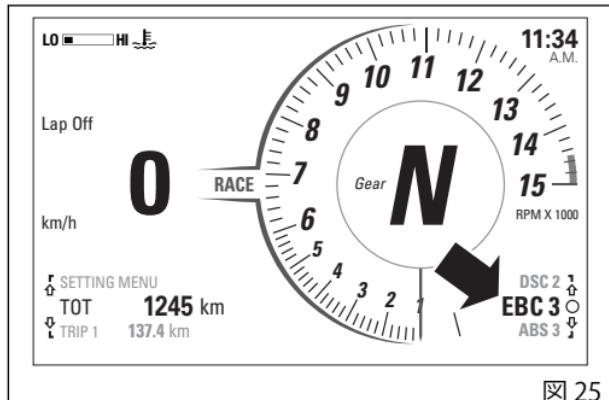


図 25

システムの影響はエンジンの高回転域で特に顕著で、回転数が下がっていくにつれ徐々に小さくなっています。



警告

EBCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーフィット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

下記の表は、各ライディングタイプに適したEBC介入レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

EBC	特徴	DEFAULT
OFF	EBCシステム解除エンジンブレーキは最大になります。	NO
1	このレベルではある程度強いエンジンブレーキが発生しますが、EBC OFF 時のエンジンブレーキより小さくなります。	NO
2	このレベルではエンジンブレーキは非常に小さくなります。このレベルは、減速時のエンジンブレーキを小さくしたいライダーに適します。	ライディングモード "RACE" と "SPORT" のデフォルトレベル
3	このレベルではエンジンブレーキは最小になります。このレベルは、減速時のエンジンブレーキを最小限に抑えたいライダーに適します。	ライディングモード "STREET" のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着し、標準装備の最終減速比を装備している場合においてのみ、EBCシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Diablo Supercorsa SP のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 200/60 ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合(サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

レベル3を選択すると、EBCはエンジンブレーキの機能を最小限に抑えます。レベル3からレベル1の順に

エンジンブレーキレベルが大きくなります。EBC OFFでエンジンブレーキレベルは最大になります。主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- グリップ(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
- レイアウト/行程(類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる)
- ライディングスタイル

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています。

レイアウトタイプからのレベル選択

同じようなブレーキングで走行できるレイアウト/行程の場合(すべて非常に激しい、またはすべて非常に緩やか)、それぞれのブレーキングで満足できる干渉レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なブレーキングがレイアウト/行程にある場合、EBCシステムの妥当な介入レベルが必要になります。

ABS

インストルメントパネルはディスプレイにABS機能の状態を「パラメーターとレベル変更メニュー」ページ0で以下のように表示します。

- "ABS"の文字と設定介入レベル1から3までの数値。
- 異常が発生したためABSシステムが機能制限モード(「コーナリング」機能がない)である場合は、"ABS"の文字と設定介入レベル1から3までの数値が点滅、さらにABSランプ(ランプ10、が点滅します。
- ABSエラーの場合は、"ABS"の文字と"Err"の文字が赤色で表示され、さらにABSランプ(ランプ10、が点灯します。

警告

システム異常の場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。

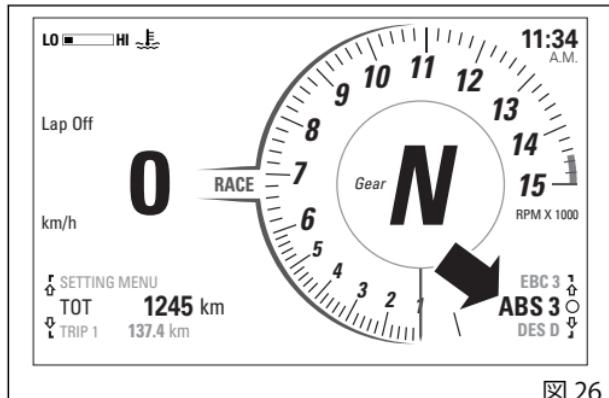


図 26

す。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。ABSは電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持し

ます。続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。

Panigale V4 が搭載する ABS は、設定レベルに応じた異なるストラテジーを適用して車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。ストラテジーのアクティブプレゼンスと介入レベルは選択レベルに準じます。ABS には 3 通りの介入レベルが用意されており、それぞれライディングモードと連動しています。

さらに、Panigale V4 が搭載する ABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。コーナリング機能は全 ABS レベルで作動します。

Panigale V4 の ABS 設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御を有効にでき、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

ABS のレベル 1 はライディングモード RACE に連動しています。システムはフロントブレーキディスクにのみ作用し、サーキット走行においてさらに高いパフォ

ーマンスを保証します。このモードでもコーナリング機能は作動します。コーナリング機能の介入レベルについては後述します。

ABS のレベル 2 はライディングモード SPORT に連動しており、このレベルでは DSC が作動します(ブレーキング時のスライド制御)。一定の起動条件下で、ライダーの安全を最大限に確保しながらも、ABS システムは車両のヨーイングまたはスライドを可能にするリアの大幅なスリップを許可し、コーナーに高速で進入できるようにします。フロントブレーキを激しくかけている時に、リアブレーキも操作した場合にこのコントロールが作動します。このシステムの作動中、リーンアングルに応じて安全なレベル内に維持するため、ABS は車両のスリップまたはスライドレベルを監視します。車両のスリップまたはスライドレベルが高くなりすぎると、ABS は通常機能に戻り車両を再調整して安全を確保します。

⚠ 警告

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能が低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

下記の表は、各ライディングタイプに適したABSレベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
1	TRACK	このレベルは上級ライダー向けサーキット走行専用に設定されています(ストリートでの使用は推奨されません)。このレベルでは、ABSはフロントホイールにのみ作用し、リアホイールのロックは許容されます。このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行いません。コーナリング機能は作動します。	ライディングモード"RACE"のデフォルトレベル
2	SPORT	このレベルは、グリップの良好なサーキットおよびストリート走行用に設定されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用し、コーナリング機能が作動します。このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行いません。このキャリブレーションは制動力を優先し、ライダーがホイールのリフトアップを管理できるようになっています。このレベルではDSC(ブレーキング時のスライド制御)も作動します。	ライディングモード"SPORT"のデフォルトレベル

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
3	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用し、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能が作動します。	ライディングモード "STREET" のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備または
ドゥカティ社が推奨するブレーキシステムとタイヤを
装着している場合においてのみ、ABSシステムの最適
な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備
タイヤ、Pirelli Diablo Supercorsa SP のサイズ：フロ
ント 120/70 ZR17、リア 200/60 ZR17 になります。標
準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用
すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安
全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異
なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル3を選択すると、ABSシステムは非常に安定し
たブレーキングとリフトアップ制御を行い、全てのブ
レーキングにおいて高い車体安定性を維持します。レ
ベル3において、ABSシステムのコーナリング機能が
作動します。この機能により、バイクを倒している時
に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範
囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。
レベル2を選択すると、ABSシステムは安定性やリフ
トアップ制御よりみブレーキ力を優先します。リフト
アップ制御はレベル2では作動しません。レベル2に
おいて、ABSシステムのコーナリング機能が作動しま

す。この機能により、バイクを倒している時に、車両
と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車
輪のロックおよびスリップを防止します。さらにレベ
ル2ではDSC機能が作動します(このレベルでのみ利
用できます)。

ABSシステムのレベル1の使用はサーキット走行専用
になります。パフォーマンスを重視してABSはフロン
トホイールにのみ作用します。このレベルではリフト
アップ制御は作動しませんが、コーナリング機能は作
動を続けます。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選
択します。

- 1) タイヤ/路面のグリップ(タイヤタイプ、タイヤの
磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
- 2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離
を最小限に抑えるためリフトアップを制御するこ
とができるですが、経験の少ないライダーには、急
なブレーキングでも車体の安定性が維持できるよ
うレベル3の使用が推奨されます。

DES

インストルメントパネルはディスプレイにDES機能の状態を「パラメーターとレベル変更メニュー」ページ0で以下のように表示します。

- DESがDynamicモードの場合は、"DES D"の文字
- DESがFixedモードの場合は、"DES F"の文字
- DESが機能制限モードにある場合は、Dynamicモードの時は"DES D"の文字が点滅し、Fixedモードの時は"DES F"の文字が点滅します。
- DESエラーの場合は、"DES"の文字と"Err"の文字が赤色で表示されます。
- DESが初期化中の場合は、"DES -"が点滅

このシステムがBosch慣性センサーとのインターフェースとなり、変化する道路やライディング条件にダイナミックに対応して、サスペンション本来の性能を引き出し、確実な車両コントロールを可能にします。次の2通りの動作モードがあります。Fixed(固定)モード。アクティブモードではなく、フロント/リアサスペンションのコンプレッションダンピングおよびリバウンドダンピング、ステアリングダンパーのプリロー

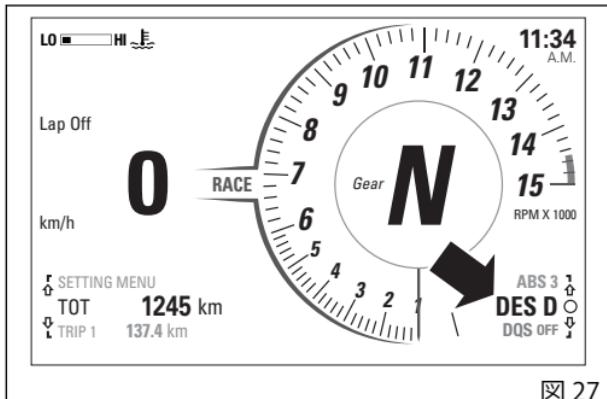


図 27

ドをライダーが特定レベルに設定することができます。一度設定したレベルは、従来型アジャスタブルサスペンションシステムと同様に、ライダーが新たに設定し直すまで維持されます。もうひとつは「Event Based」、イベントベースモードが用意されています。セミアクティブモードで、サスペンションの「拳動」レベルをライダーがハードからソフトまで選択することができます。このモードでは、ライダーが選択した「拳動」を維持しながら、システムは道路状況に応じてダンパーのコンプレッションダンピング、リバウンドダンピングをダイナミックに調整します。

DQS

インストルメントパネルはディスプレイにDQS機能の状態を「パラメーターとレベル変更メニュー」ページ0で以下のように表示します。

- DQSシステムが起動している場合は、“DQS U-D”(シフトアップおよびシフトダウン)の文字。
- DQSシステムが性能制限モードにある場合は、“DQS”的字が点滅。
- DQSシステムエラーまたはコントロールユニットエラーの場合は、“Err”的字が赤色で表示されます。
- DQSシステムが解除されている場合は、“DQS Off”的字。

UP/DOWN機能を備えるDQSシステムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。

ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからなり、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。

システムは、ギアチェンジとシフトダウンで別々に作用します。

この機能を最大限に活用するためのいくつかのヒントを以下に示します。

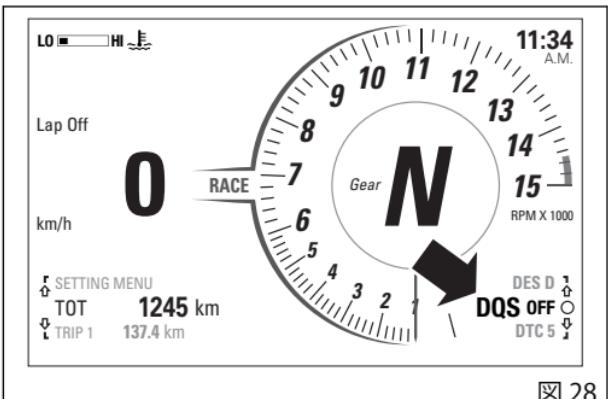


図 28

- ドゥカティクイックシフトでは、このシステムを搭載ない車両と同様にギアチェンジペダルの操作を必要とします。ドゥカティクイックシフトはギアチェンジを自動で行うためのシステムではありません。

- ギアをチェンジする時(シフトアップまたはシフトダウン)は、ギアチェンジペダルを停止している位置からシフトしたい方向に動かしてください。その際、スプリングの反発力に抵抗してペダルを一定距離動かし、ギアが完全に締結されるまでその位置を維持してください。ギアチェンジが完了したら、ドゥカティクイックシフトで次のギアチェンジができるようにペダルを完全に放してください。ドゥカティクイックシフトのリクエスト時にギアチェンジペダルをストロークエンドまで確実に動かさないと、ギアが完全に入らない場合があります。
- クラッチレバーを操作する場合には、ドゥカティクイックシフトのアシストは作動しません。クラッチレバーを引いたとき、ドゥカティクイックシフトは起動しません。
- スロットルが完全に閉じている場合にのみ、ドゥカティクイックシフトはシフトダウンを実行します。
- 万ードゥカティクイックシフトのストラテジーが作動しない場合でも、クラッチレバーを操作してギアチェンジを完了することができます。
- ギアチェンジペダルを上下いずれかの方向に30秒以上押し続けると(誤って操作した場合でも)、不正なエラーとしてコントロールユニットに記録され、ドゥカティクイックシフトの機能が停止することがあります。こうした場合にシステムを再起動するには、インストルメントパネルを一旦切ってからもう一度起動してください。
- ドゥカティクイックシフトは、エンジン回転数2,500 rpm 以上で作動するように設計されています。
- ドゥカティクイックシフトを使ったシフトダウン機能は、すべてのギアにおいて定義された回転数の限界値以下でのみ作動します。これは、シフトダウンした時にエンジンの最高回転数を超えてしまうのを防ぐためです。

機能メニュー

左側スイッチのボタン(1)またはボタン(2)を押すと、メイン画面の機能メニュー内の機能をスクロール表示することができます。

ボタン(1)を押すごとに、「位置」が増えていきます(最初の位置から最後の位置までいくと、また最初の位置に戻ります)。ボタン(2)を押すごとに、「位置」が減っていきます(最後の位置から最初の位置までいくと、また最後の位置に戻ります)。

各種機能がスクロール表示できる時は、機能メニュー枠内の左側に UP ↑ および DOWN ↓ 矢印が現れます。矢印はそれぞれ左側スイッチのボタン(1)とボタン(2)に相当します。丸印 ○ の表示は、左側スイッチのボタン(4)を押して表示する機能と統合できることを示します。例えばトリップメーター1(TRIP 1、ページ 86)のリセットです。

設定されているインフォモードとライディングモードに応じて、機能メニューには異なる機能が表示されます。

機能メニューには以下の機能が表示されます。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP 1)
- 平均燃費 (CONS. AVG 1)
- 平均スピード (SPEED AVG 1)

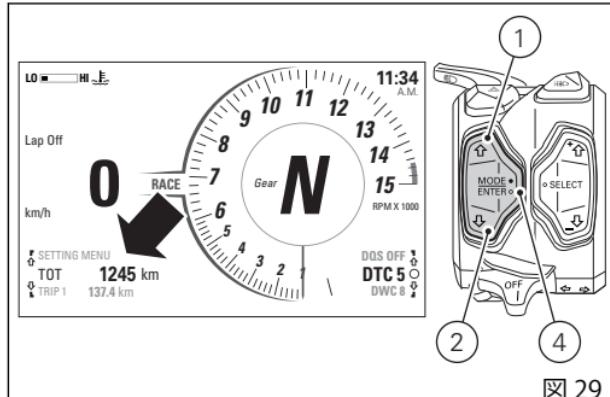


図 29

- トリップタイム (TRIP 1 TIME)
- 外気温 (T AIR)
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
- トリップメーター 2 (TRIP 2)
- 瞬間燃費 (CONS. I.)
- ラップタイムの停止/起動 (LAP Off / On)
モードの情報内でのみ表示されます。 (
- プレーヤー操作の停止/起動 (PLAYER Off / On)
Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ、ROAD モードの情報内でのみ表示されます。 (

- 通話操作 (LAST CALLS)
Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ、ROAD モードの情報内でのみ表示されます。 (
- 設定メニュー (SETTING MENU)

オドメーター (TOT)

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目“TOT”を表示します。

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。

オドメーターに対応する数値(キロまたはマイル)は、“TOT”的文字と単位で表示されます。最大値(199999 km または 199999 mi)に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。

オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

電源の供給が中断(バッテリー OFF)してもデータは消去されません。



オドメーター機能で点線 “----” が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

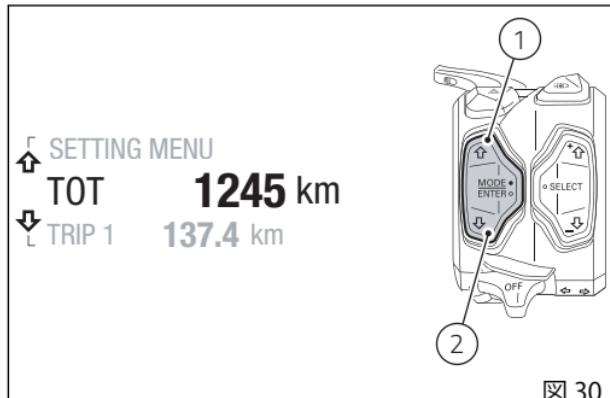


図 30

トリップメーター 1 (TRIP 1)

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目 "TRIP 1" を表示します。

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示し、平均燃費、平均スピード、トリップタイムの算出に使用されます。TRIP 1 の値(キロまたはマイル)は、"TRIP 1" の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン(4)を押すと、データと単位の代わりに "TRIP 1 RESET?" (TRIP 1 をリセットしますか) と表示されます。この表示が起動しているときは、機能メニューのスクロールはできません。

ボタン(1)またはボタン(2)を押すと、データをリセットせずに TRIP 1 の表示に戻ります。

一方ボタン(4)を押した場合は、TRIP 1 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは TRIP 1 の表示に戻り、"0.0" と設定単位を表示します。

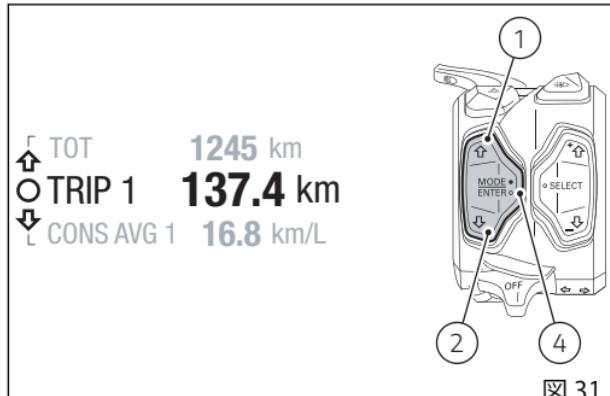


図 31

TRIP 1 がリセットされると、平均燃費(CONS. AVG 1)、平均スピード(SPEED AVG 1)、トリップタイム(TRIP 1 TIME)のデータもリセットされます。

以下のような場合には、TRIP 1 カウンターが自動的にリセットされます。

- トリップタイム(TRIP 1 TIME)がリセットされた時
- 平均燃費(CONS.AVG 1)がリセットされた時
- 電源供給が中断された時(Battery Off)
- システムの単位を手動で変更した場合

平均燃費 (CONS.AVG 1)

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目 "CONS. AVG 1" を表示します。

インストルメントパネルは平均燃費を算出して表示します。

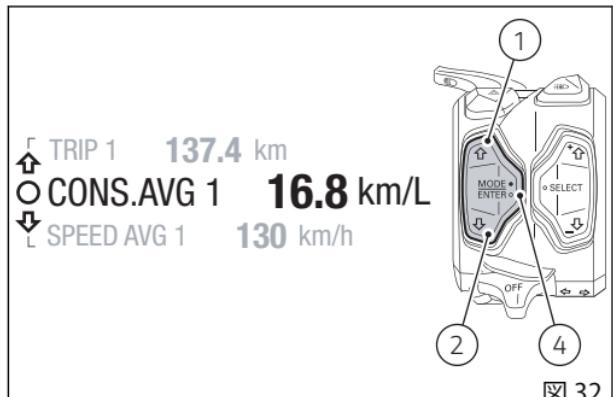
平均燃費は "CONS. AVG 1" の文字と共に単位 (km/L、L/100 km または mpg UK、mpg USA) で表示されます。

TRIP 1 が最後にリセットされてからの消費燃料と走行距離から計算されます。

TRIP 1 がリセットされるとデータがリセットされ、最初のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は 3 本の破線 "---" が平均燃費として固定表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます。車両が停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません。

平均燃費の表示中にボタン(4)を押すと、データと単位の代わりに "CONS.AVG 1 RESET ?" (CONS.AVG 1 をリセットしますか) と表示されます。この表示が起動しているときは、機能メニューのスクロールはできません。



ボタン(1) またはボタン(2) を押すと、データをリセットせずに CONS.AVG 1 の表示に戻ります。

一方ボタン(4) を押すと、CONS.AVG 1 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは CONS.AVG 1 の表示に戻り、"0.0" と設定単位が表示されます。

平均燃費がリセットされると、数値が表示されない最初の 10 秒間は 3 本の破線 "---" が表示されます。

CONS. AVG 1 のデータがリセットされると、トリップメーター 1 (TRIP 1)、平均スピード (SPEED AVG 1)、トリップタイム (TRIP 1 TIME) のデータもリセットされます。

以下のような場合には、CONS. AVG 1 カウンターが自動的にリセットされます。

- トリップタイム(TRIP 1 TIME)がリセットされた時
- トリップメーター 1 (TRIP 1) がリセットされた時
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)
- システムの単位を手動で変更した場合



設定メニューの UNITS 機能から、燃費の単位を変更することができます(平均燃費、瞬間燃費を同時に変更)。

平均スピード (SPEED AVG 1)

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目 "SPEED AVG. 1" を表示します。

インストルメントパネルは平均スピードを算出して表示します。

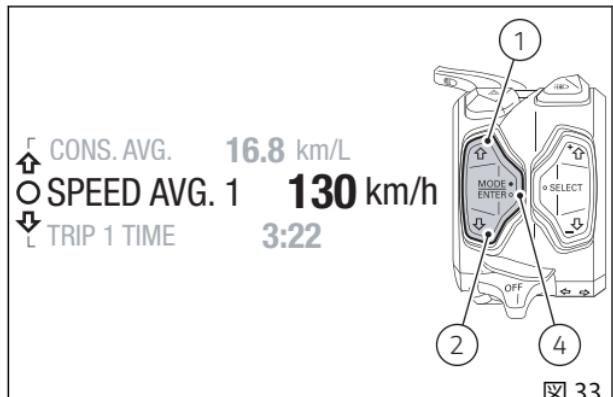
平均スピードの値は、“SPEED AVG. 1” の文字と共に単位 (km/h または mph) で表示されます。

平均スピードは車両スピードの表示と同様に、実速度に 5 %上乗せした値が表示されます。

TRIP 1 が最後にリセットされてからの走行距離と時間から計算されます。TRIP 1 がリセットされるとデータがリセットされ、最初のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は 3 本の破線 “---” が平均スピードとして固定表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます。車両が停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません。

平均スピードの表示中にボタン(4)を押すと、データと単位の代わりに "SPEED AVG 1 RESET ?" (SPEED AVG 1をリセットしますか) と表示されます。この表示が起動しているときは、機能メニューのスクロールはできません。



ボタン(1) またはボタン(2) を押すと、データをリセットせずに SPEED AVG. 1 の表示に戻ります。

一方ボタン(4)を押すと、SPEED AVG. 1 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは SPEED AVG. 1 の表示に戻り、“0”と設定単位が表示されます。

平均スピードがリセットされると、数値が表示されない最初の 10 秒間は 3 本の破線 “---” が表示されます。

SPEED AVG. 1 がリセットされると、トリップメーター 1 (TRIP 1)、平均燃費 (CONS. AVG 1)、トリップタイム (TRIP 1 TIME) のデータもリセットされます。

以下のような場合には、SPEED AVG. 1 カウンターが自動的にリセットされます。

- トリップタイム(TRIP 1 TIME)がリセットされた時
- トリップメーター 1 (TRIP 1) がリセットされた時
- 平均燃費(CONS.AVG 1) がリセットされた時
- 電源供給が中断された時(Battery Off)
- システムの単位を手動で変更した場合

トリップタイム (TRIP 1 TIME)

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目 "TRIP 1 TIME" を表示します。

インストルメントパネルは走行時間を計算して表示します。

"hh:mm" 形式のデータを "TRIP 1 TIME" の文字と共に表示します。

トリップメーター 1 (TRIP 1)、平均燃費 (CONS. AVG 1)、平均スピード (SPEED AVG 1) が最後にリセットされてからの走行時間から計算されます。

車両が停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます停車中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間計測を再開します。

表示時間が "511:00" (511 時間 00 分) を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップタイムの表示中にボタン(4)を押すと、時間の代わりに "TRIP 1 TIME RESET ?" (TRIP 1 TIME をリセットしますか) と表示されます。この表示が起動しているときは、機能メニューのスクロールはできません。

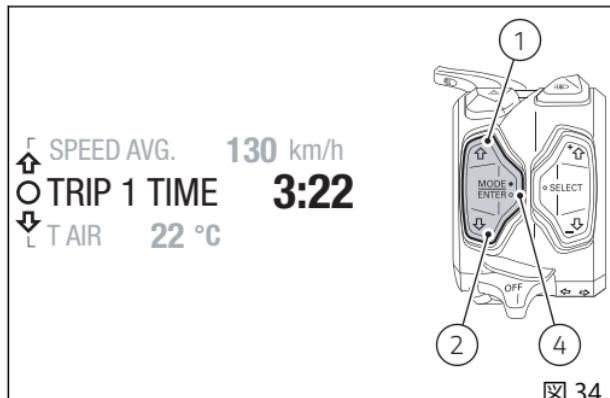


図 34

ボタン(1)またはボタン(2)を押すと、データをリセットせずに TRIP 1 TIME の表示に戻ります。

一方ボタン(4)を押した場合は、TRIP 1 TIME のデータがリセットされます。インストルメントパネルは TRIP 1 TIME の表示に戻り、"0:00" を表示します。

TRIP 1 TIME がリセットされると、トリップメーター 1 (TRIP 1)、平均スピード (SPEED AVG 1)、平均燃費 (CONS. AVG 1) もリセットされます。

以下のような場合には、CONS. AVG 1 カウンターが自動的にリセットされます。

- トリップメーター 1 (TRIP 1) がリセットされた時

- 平均燃費 (CONS.AVG 1) がリセットされた時
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)
- システムの単位を手動で変更した場合

外気温 (T-AIR)

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目 "T AIR" を表示します。

インストルメントパネルは外気温を "T AIR" の文字と単位 (° C または ° F) で表示します。

温度データは -39 ° C ~ +125 ° C (-38 ° F ~ +257 ° F) の場合に表示されます。

温度が -39 ° C (-38 ° F) 未満あるいは +125 ° C (+257 ° F) を超える場合には 3 本の破線 "---" と単位が表示されます。

インストルメントパネルが気温のデータを受信しない場合、単位と共に 3 本の破線 "---" が固定表示されます。

参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

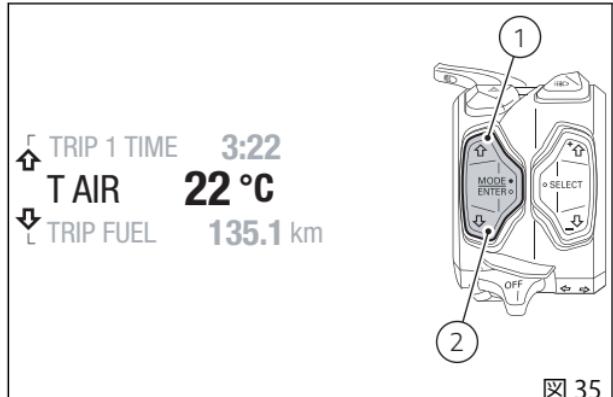


図 35

燃料リザーブトリップメーター(TRIP FUEL)

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目“TRIP FUEL”を表示します。

燃料リザーブトリップメーターは、リザーブでの走行距離(燃料リザーブランプ(ランプ5、“インストルメントパネル”参照)が点灯した時点からの車両の走行距離)を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。

燃料リザーブランプ(ランプ5、“インストルメントパネル”参照)が点灯すると、ディスプレイにその時点で表示されている機能に関係なく TRIP FUEL 機能が表示されます。その後、機能メニューの他の機能をスクロール表示することができます。

リザーブタンク使用の状態が続く場合は、Key-OFF 後もデータは記憶されます。カウンターはリザーブ状態でなくなった時点で自動的に中断されます。

TRIP FUEL に対応する数値(キロまたはマイル)は、“TRIP FUEL” の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

TRIP FUEL 機能が起動していない場合は、機能メニュー内に対応する値を表示することはできません。

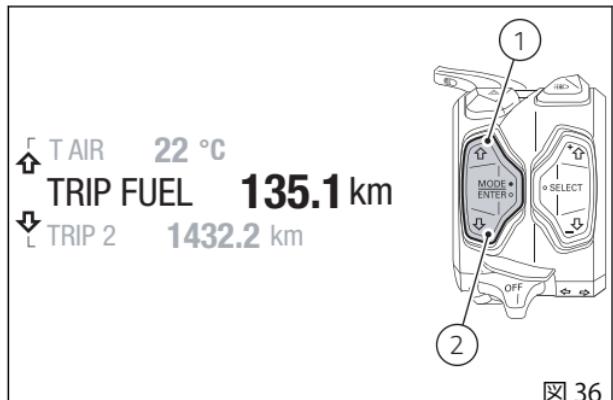


図 36

トリップメーター 2 (TRIP 2)

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目 "TRIP 2" を表示します。

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。TRIP 2 の値(キロまたはマイル)は、"TRIP 2" の文字と単位で表示されます。

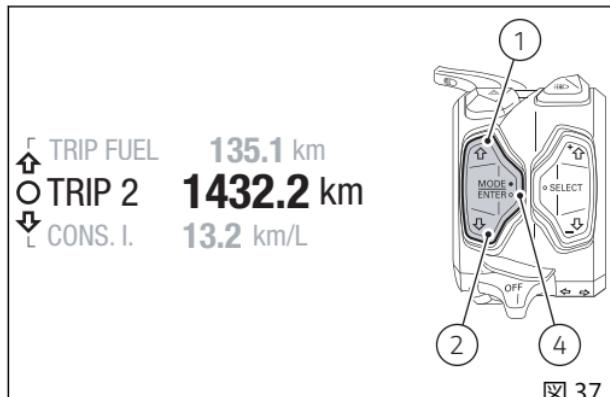
データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン(4)を押すと、データと単位の代わりに "TRIP 2 RESET?" (TRIP 2 をリセットしますか) と表示されます。この表示が起動しているときは、機能メニューのスクロールはできません。

ボタン(1)またはボタン(2)を押すと、データをリセットせずに TRIP 2 の表示に戻ります。

一方ボタン(4)を押した場合は、TRIP 2 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは TRIP 2 の表示に戻り、"0.0" と設定単位を表示します。

TRIP 2 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合とバッテリー OFF の後にも自動的にリセット



され、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

瞬間燃費

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目"CONS.I."を表示します。

インストルメントパネルは瞬間燃費を算出して表示します。

瞬間燃費は"CONS.I."の文字と共に単位(km/L、L/100 km または mpg UK、mpg USA)で表示されます。

数値は直前の1秒間の燃料消費量と走行距離から算出されます。

データは設定された単位(km/L、L/100 km または mpg UK、mpg USA)で表示されます。

数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合にのみ計算されます(車両速度がゼロ、あるいはエンジン停止状態で車両が停車している間は計算されません)。

計算されていない時は、ディスプレイ上に3本の破線"---"が瞬間燃費として固定表示されます。

参考

設定メニューのUNITS機能から、燃費の単位を変更することができます(平均燃費、瞬間燃費を同時に変更)。

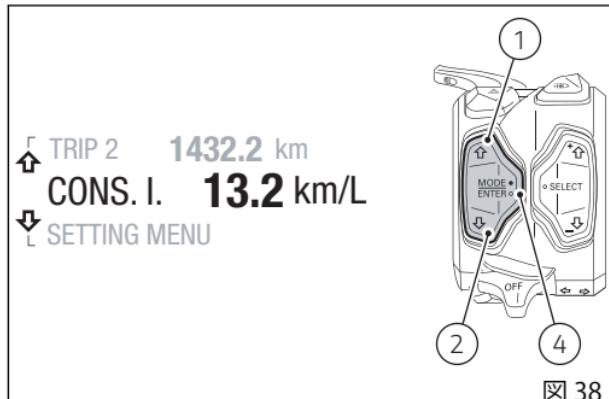


図 38

ラップタイム (LAP Off / On)

この機能は TRACK 表示モード (でのみ表示されます。機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目 "LAP" を表示します。

この機能でラップタイム記録 (LAP Time) ページ の停止/起動を行います。

LAP が起動していない場合、インストルメントパネルは "LAP OFF" の文字を表示します。起動するにはボタン(4)を押します。

LAP が起動している場合は、インストルメントパネルに "LAP ON" の文字が表示されます。停止するにはボタン(4)を押します。

設定メニュー ページ 0 から、LAP を起動/停止することができます。

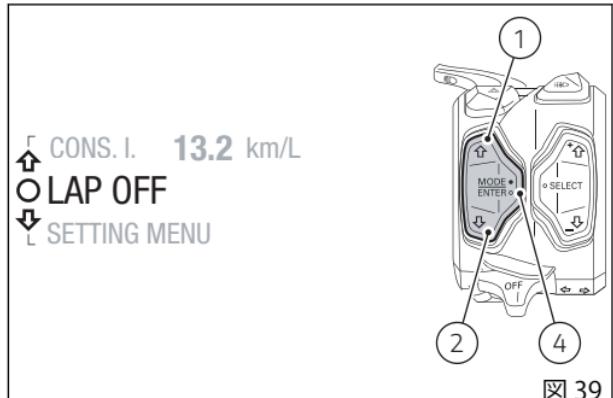


図 39

プレーヤー操作 (PLAYER Off / On)

この機能は ROAD 表示モード (のみ表示されます。機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目 "PLAYER" を表示します。

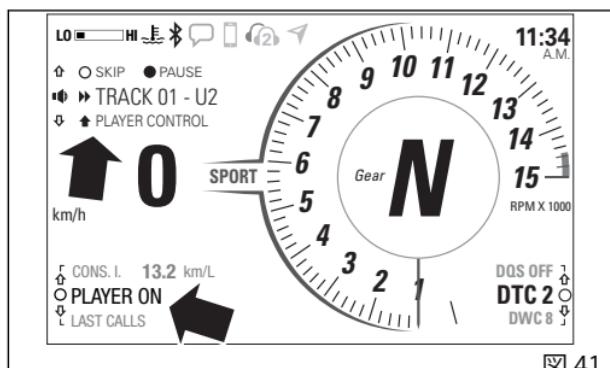
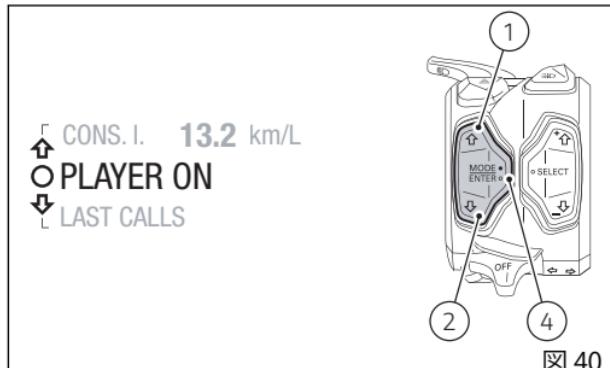
この機能でプレーヤーの操作 (起動または停止) が可能です。

Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合にのみ、PLAYER 機能が機能メニューに表示されます。

プレーヤーが起動していない場合、インストルメントパネルは "PLAYER OFF" の文字を表示します。プレーヤーを起動してプレーヤーメニューに入るには、ボタン(4)を押します (プレーヤーの使い方については「インフォティンメント」の章を参照してください ページ)。

プレーヤーが起動している場合は、インストルメントパネルに "PLAYER ON" の文字が表示されます。プレーヤーメニューに入るには、ボタン(1)を 2 秒間押します (プレーヤーの使い方については「インフォティンメント」の章を参照してください ページ)。

プレーヤーを停止するには、ボタン(4)を押します。



通話操作 (LAST CALLS)

この機能は ROAD 表示モード () でのみ表示されます。機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン(1)および(2)で機能をスクロールし、項目“LAST CALLS”を表示します。

この機能では最近の不在着信、発信通話、着信通話の履歴を表示します。

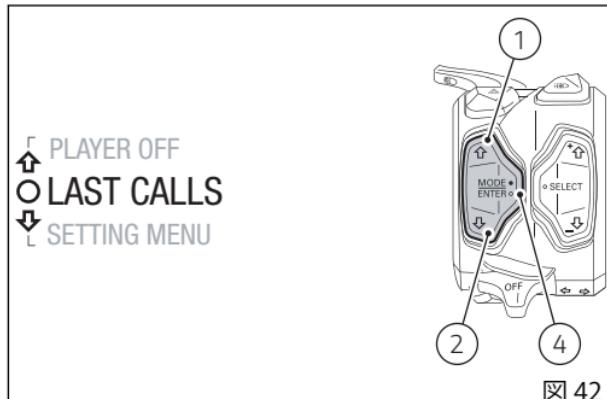
Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合にのみ、LAST CALLS 機能が機能メニューに表示されます。

ボタン(4)を押して機能に入ると、最大7つの通話まで表示されます。これらには不在着信、発信通話、着信通話が含まれます。

インストルメントパネルには氏名または電話番号が表示されます。ボタン(1)および(2)を使用して、通話履歴をスクロール表示することができます。ボタン(4)を押すと、表示されている氏名または電話番号に電話をかけます。

通話履歴が存在しない場合は、機能メニュー内に“EMPTY”の文字が表示されます。

機能を終了して前の画面に戻るには、ボタン(2)を2秒間押します。



設定メニュー (SETTING MENU)

このメニューではいくつかの車両機能のON/OFF および設定を行います。

安全上の理由により、車両の実速度が 5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、このメニューに入ることができます。設定メニュー (SETTING MENU) が表示されている時に車両の実速度が 5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニュー (SETTING MENU) を終了し、メイン画面を表示します。

設定メニュー (SETTING MENU) に入るには、ボタン(1) またはボタン(2) で左側メニュー内の項目 "SETTING MENU" を選択 (メイン位置、中央枠内に表示させる) し、ボタン(4) を押します。

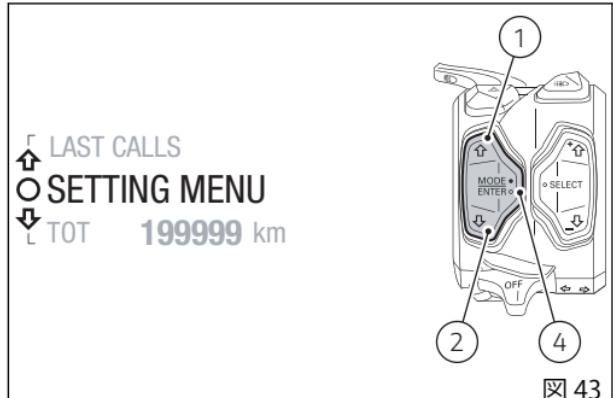


図 43

設定メニュー内に表示される表示は次の通りです。

- ◀ Exit
- ライディングモード
- Pin Code
- Lap
- Backlight
- Date and Clock
- Units
- Service
- Tire Calibration
- DRL
- Bluetooth
- Turn indicators
- DDA
- Info
 - BATTERY (バッテリー)
 - RPM
- ◀ Exit

重要

安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

以下の機能については設定と参照が可能です。

- Riding Mode (ライディングモード)

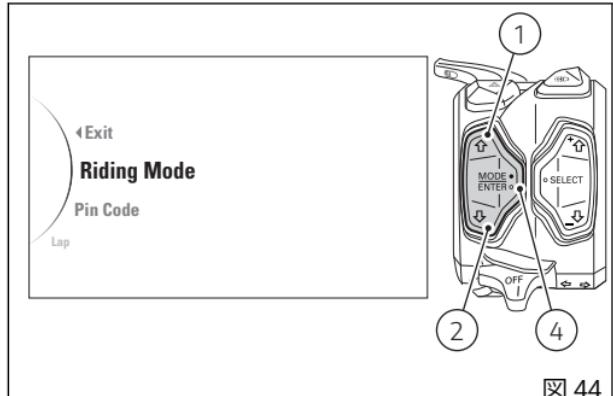


図 44

- Pin Code (PIN CODE の起動および変更)
- Lap (ラップタイム)
- Backlight (バックライト調整 AUTO、DAY、NIGHT)
- Date and Clock (日付と時計の設定)
- Units (単位の設定)
- Service (サービス期限の表示)
- Tire Calibration (タイヤと減速比のキャリブレーション)
- DRL (DRL 操作：中国、カナダ、日本バージョンには DRL は装備されません)。

- Bluetooth (デバイスのペアリング/ペアリング削除) (Bluetooth コントロールユニットを搭載している場合のみ。本モデルには標準装備されていますが、オプションで購入いただくことができます)
- Turn indicators (ターンインジケーター自動解除の停止)
- DDA (DDA 情報の表示) (オプション設定の DDA がオプション装備されている場合のみ)
- Info
 - BATTERY (バッテリー電圧表示)
 - RPM (エンジン回転数表示)

ボタン(1)および(2)を押して、上記の機能を「メイン」位置に動かすことができます。これによって機能の表示が強調表示されます (例 : **Riding Mode**)。

希望の機能を「メイン」位置に表示した後にボタン(4)を押すと、選択した機能に対応するメニューページが開きます。

設定メニュー (SETTING MENU) を終了するには、
“◀ Exit” 表示が「メイン」位置にある時にボタン(4)を押します。

ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)または(2)を押して "Riding Mode" を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。機能に入ると、選択可能なライディングモード(RACE、SPORT、STREET)がディスプレイ左側に、設定されているライディングモードが右側に表示されます。このページ内に表示される表示は次の通りです。

- ◀ Back
- RACE
- SPORT
- STREET
- All Default(いずれかのライディングモードのひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- ◀ Back

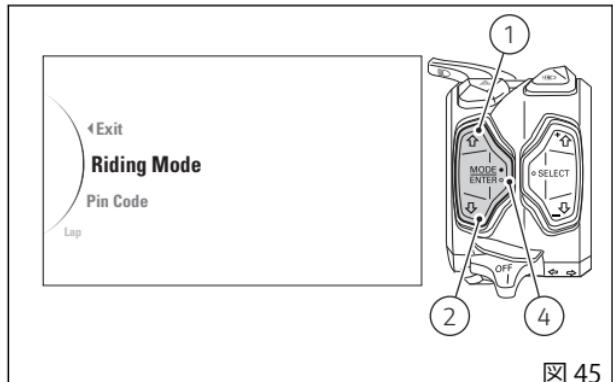


図 45

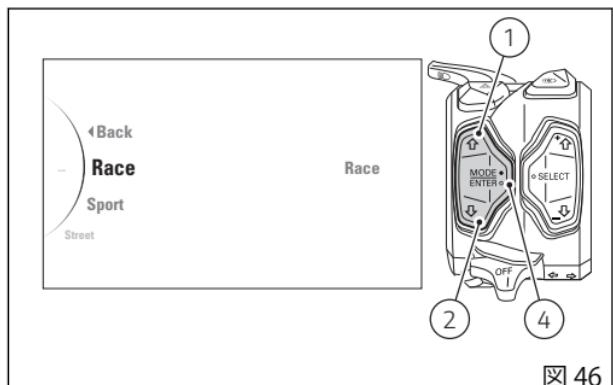


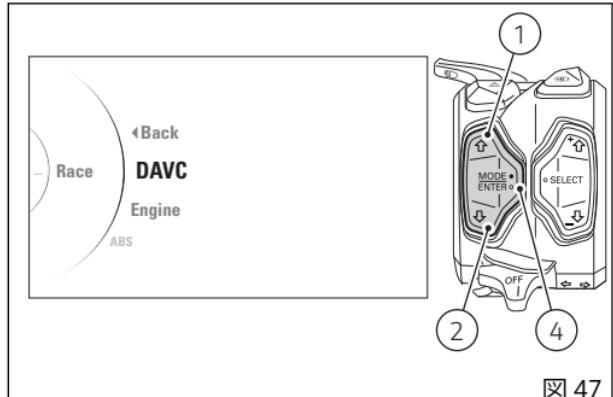
図 46

ボタン(1)、(2)、(4)を使用して、以下の操作を行うことができます。

- ボタン(1)と(2)でパーソナライズしたいライディングモードを選択します。ボタン(4)を押すと、選択したライディングモードのパーソナライズに入ります。
- ボタン(1)と(2)で"◀ Back"の文字を強調して選択します。ボタン(4)を押すと、前の画面に戻ります。
- ボタン(1)と(2)で"All Default"の表示を強調して選択します。ボタン(4)を押すと、4つすべてのライディングモードを工場出荷時の値に回復することができます。

ひとつのライディングモードに連動するパラメーターでパーソナライズできるものは、DAVC(DTC、DWC、DSC)、Engine、ABS、EBC、DQS、info Mode、DES(サスペンション)、DEFAULT(ライディングモードを工場出荷時の値に回復)です。このページ内に表示される表示は次の通りです。

- ◀ Back
- DAVC
- Engine
- ABS
- EBC



- DQS
- Info Mode
- DES
- Default (ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- ◀ Back

ボタン(1)またはボタン(2)を押すたびに、選択したライディングモードの全パラメーターをスクロールすることができます。パラメーターが強調表示されている時にボタン(4)を押すと、パラメーターのパーソ

ナライズに入り、パラメーターの設定を変更することができます。

変更したパラメーターはバッテリーを切り離してもリセットされません。それぞれのライディングモードをドゥカティ初期設定に戻すには、"Default"機能を選択してボタン(4)を押します。"◀ Back"機能が強調表示された時にボタン(4)を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。

警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"DEFAULT"機能を使用してパラメーターを修復してください。

DAVC機能は、加速時に車両のトラクション管理を行う電子制御パッケージ(DTC、DWC、DSC)です。DTC機能が解除されている、すなわちOFFに設定されている場合は、DWCは強制的にOFF設定になり、パラメーターを変更することはできません。

ライディングモードのパーソナライズ： DAVC

この機能は、各ライディングモードに連動する DAVC パッケージの DTC、DWC、DSC 機能のレベルを設定します。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“RACE”)(C)のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “DAVC” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

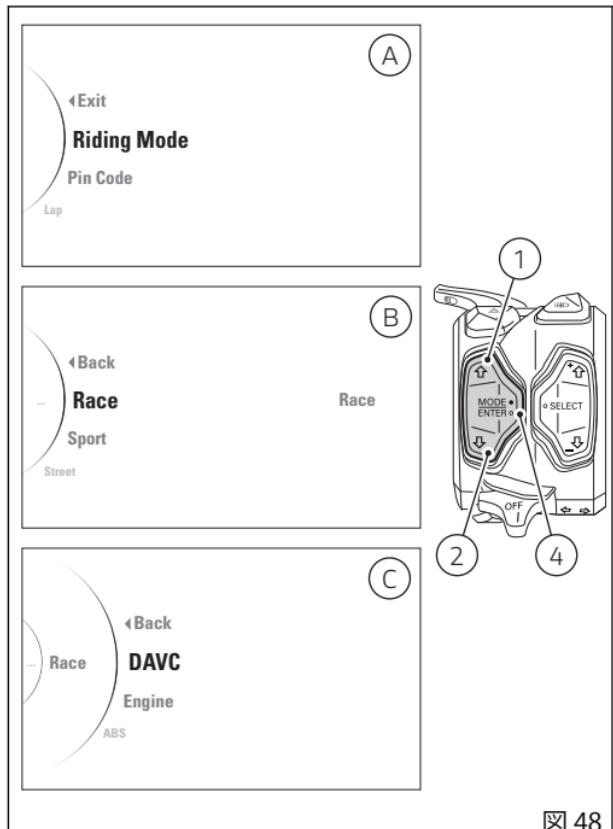


図 48

DAVC 機能は、加速時に車両のトラクション管理を行う電子制御パッケージ (DTC、DWC、DSC) です。

この機能に入ると、パーソナライズする機能 (DTC、DWC、DSC) を選択することができます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- DTC
- DWC
- DSC
- Default (ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- ◀ Back

ボタン (1) またはボタン (2) を押すたびに、DTC、DWC、DSC の機能をスクロール表示します。機能を強調表示している時にボタン (4) を押すと、機能のパーソナライズに入ります。

"◀ Back" 機能が強調表示された時にボタン (4) を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。

DAVC 機能については、ページ 109 を参照してください。

DWC 機能については、ページ 112 を参照してください。

DSC 機能については、ページ 115 を参照してください。

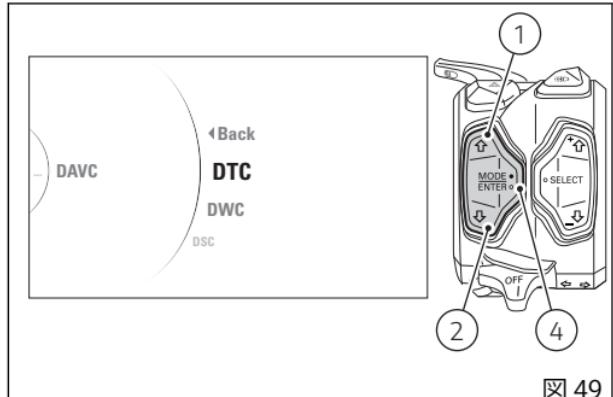


図 49

DTC 機能が解除されている、すなわち OFF に設定されている場合は、DWC は強制的に OFF 設定になり、パラメーターを変更することはできません。

DAVC 機能の DTC、DWC、DSC 全機能のパラメーターをドゥカティ初期設定値に回復することができます。ボタン(1) またはボタン(2) を押し、"Default" の表示を強調して選択し、ボタン(4) を押します。

選択したライディングモードの DTC、DWC、DSC 機能を含む DAVC 機能のパラメーターが初期設定値に回復されます。

この時点から、ひとつ以上のパラメーターが変更されるまで、“Default”表示は見えなくなります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

ライディングモードのパーソナライズ： DTC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動したDTC介入レベルの設定または解除を行うことができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "**Riding Mode**" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“RACE”)(C)のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “DAVC” の表示を選択し、ボタン(4)を押します。

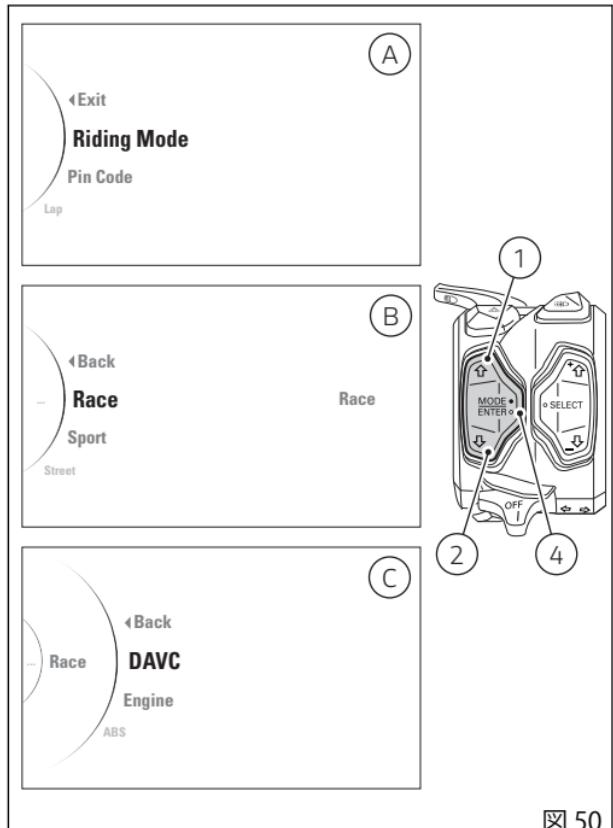


図 50

DAVC機能メニュー内でボタン(1)またはボタン(2)を押し、“DTC”の表示を強調して選択してボタン(4)を押します。

この機能に入ると、設定可能な全レベル(レベル1から8とOFF)の一覧が左側に、現在設定されているDTCレベル、または状態が右側に表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- 8
- 7
- 6
- 5
- 4
- 3
- 2
- 1
- Off
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

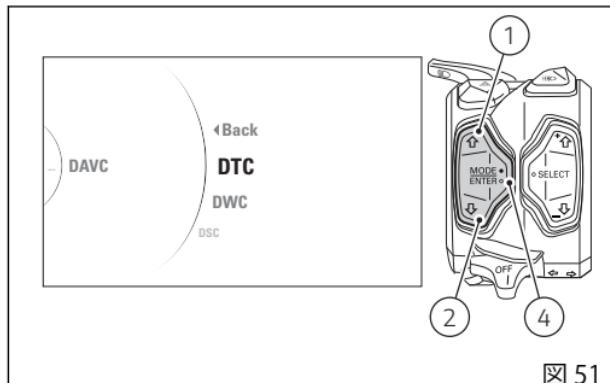


図 51

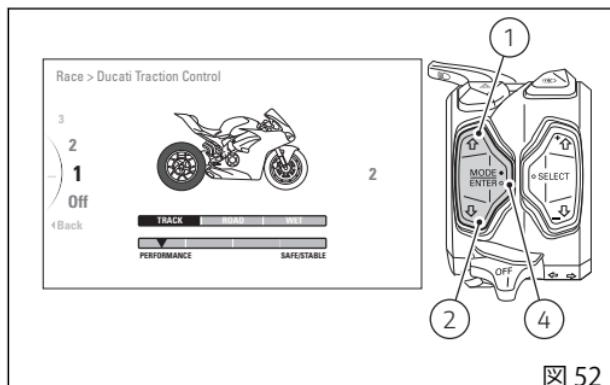


図 52

ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに運動する値が中央の表に表示されます(黒色背景または黒色矢印で強調表示 ▼)。レベル7を選択すると、“RAIN TIRE ONLY!”の文字が表示されます。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

参考

DTC機能が解除されている、すなわちOFFに設定されている場合は、DWCは強制的にOFF設定になり、パラメーターを変更することはできません。このため設定メニューへ入ることはできません。

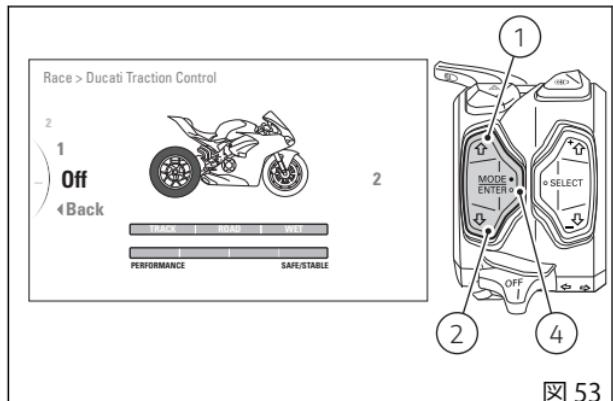


図 53

ライディングモードのパーソナライズ： DWC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動した DWC 介入
レベルの設定または解除を行うことができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A)
を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押し
ます。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいラ
イディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択
します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)
を押します。

選択したライディングモード(例：“RACE”)(C)のパ
ソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “DAVC” の表示を
選択し、ボタン(4)を押します。

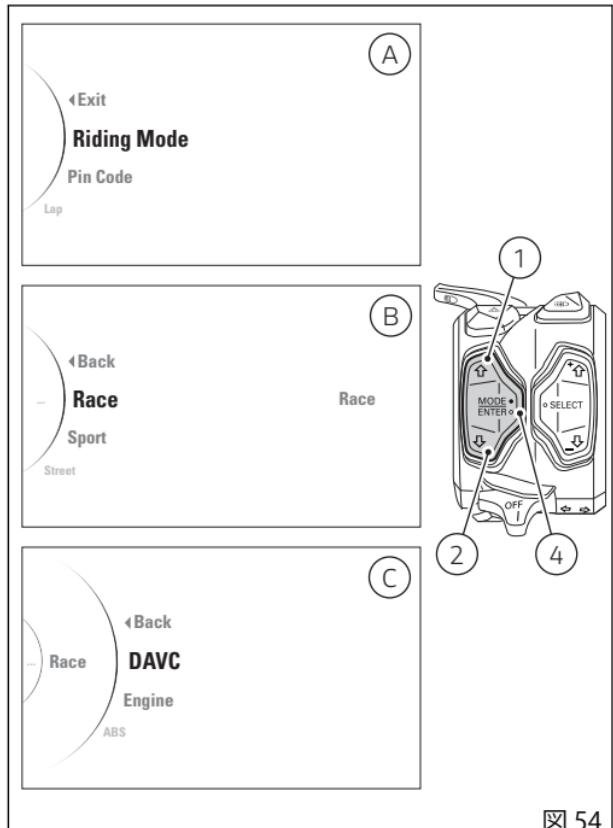


図 54

DAVC機能メニュー内でボタン(1)またはボタン(2)を押し、“DWC”の表示を強調して選択してボタン(4)を押します。

この機能に入ると、設定可能な全レベル(レベル1から8とOFF)の一覧が左側に、現在設定されているDWCレベル、または状態が右側に表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- 8
- 7
- 6
- 5
- 4
- 3
- 2
- 1
- Off
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

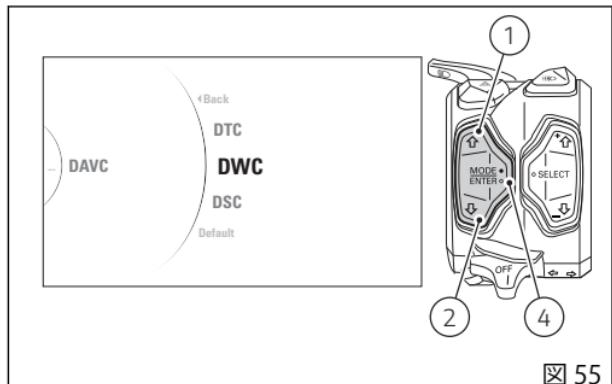


図 55

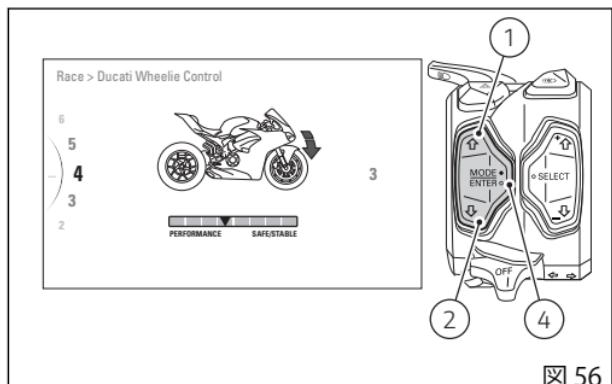


図 56

ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに運動する値が中央の表に表示されます(黒色矢印で強調表示 ▼)。さらに、システムの介入レベルを青色矢印で示します。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

参考

DTC 機能が解除されている、すなわち OFF に設定されている場合は、DWC は強制的に OFF 設定になり、パラメーターを変更することはできません。このため設定メニューへ入ることはできません。

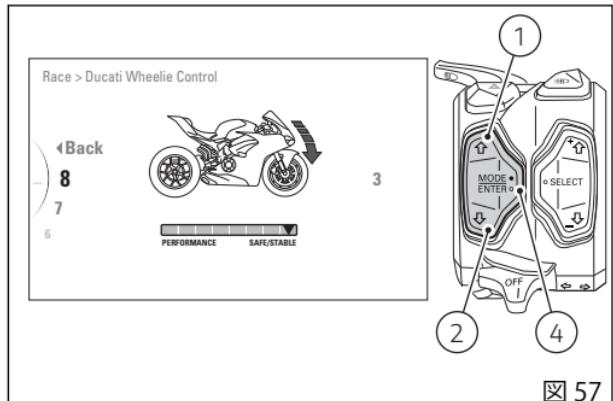


図 57

ライディングモードのパーソナライズ： DSC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動したDSC介入レベルの設定または解除を行うことができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“RACE”)(C)のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “DAVC” の表示を選択し、ボタン(4)を押します。

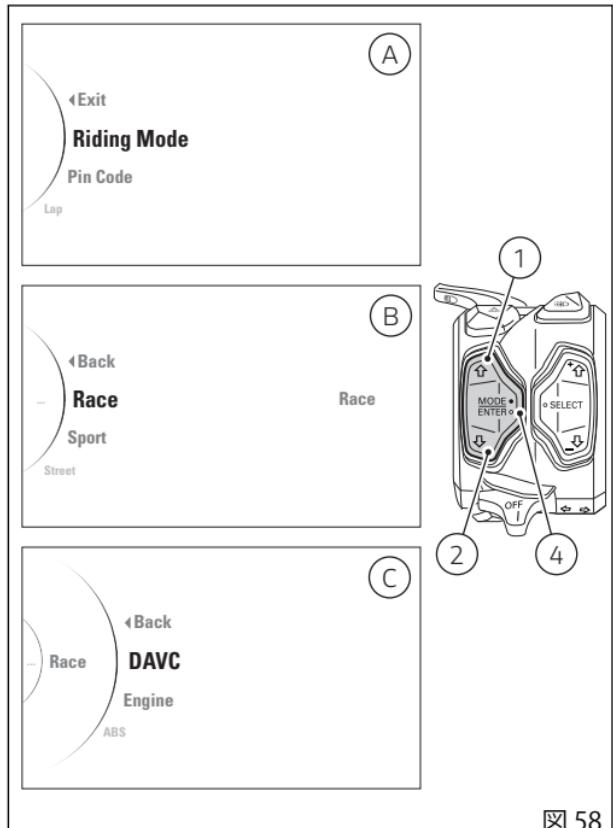


図 58

DAVC機能メニュー内でボタン(1)またはボタン(2)を押し、“DSC”的表示を強調して選択してボタン(4)を押します。

この機能に入ると、設定可能な全レベル(レベル1から2とOFF)の一覧が左側に、現在設定されているDSCレベル、または状態が右側に表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

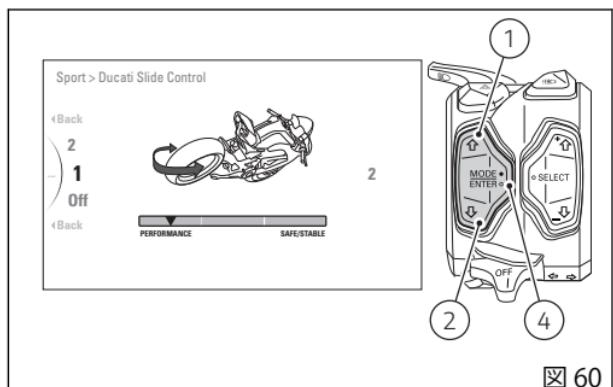
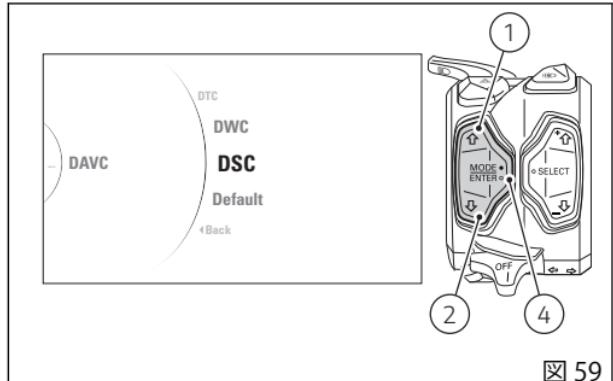
- ◀ Back
- 2
- 1
- Off
- ◀ Back

さらに、介入する部分を示したバイク図が表示されます。

ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに連動する値が中央の表に表示されます(黒色背景または黒色矢印で強調表示 ▼)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



ライディングモードのパーソナライズ：エンジンの調整

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“RACE”)(C)のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “Engine” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

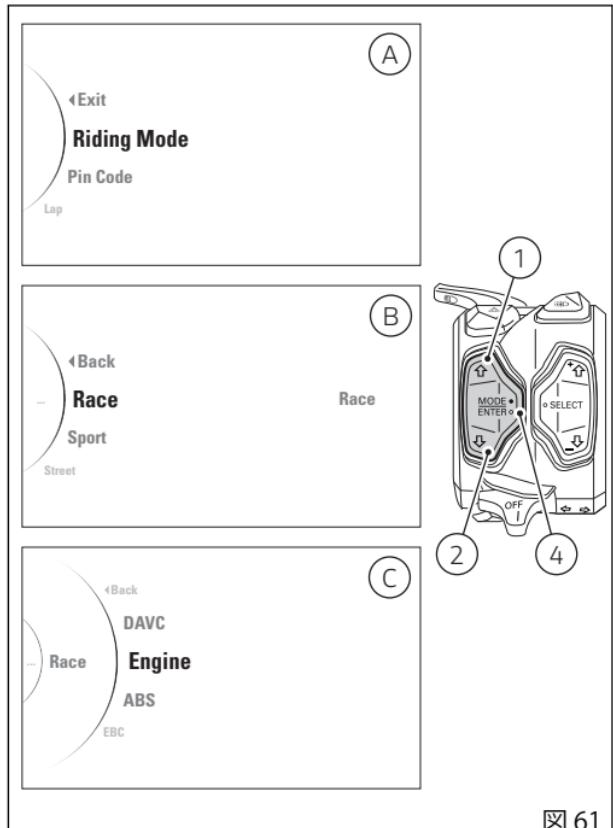


図 61

メニューに入ると、左側に調整が可能な内容、High、Medium、Low が表示され、右側に設定値が表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- High
- Medium
- Low
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して、新しく設定したいエンジン出力を選択します。

レベルを強調すると、そのレベルに連動する値が中央の表に表示されます(黒色背景)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

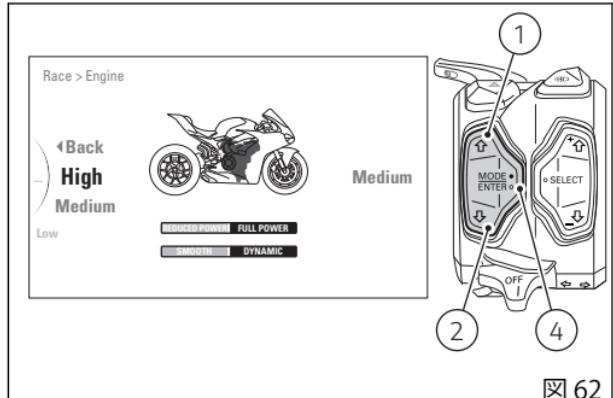


図 62

ライディングモードのパーソナライズ： ABSの調整

ここでは各ライディングモードに運動したABS介入レベルの設定または解除を行うことができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“RACE”)(C)のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “ABS” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

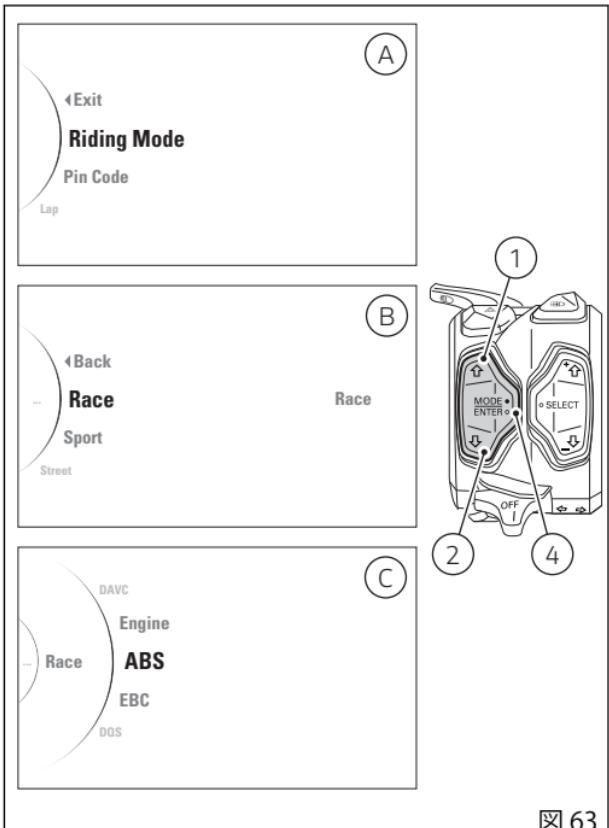


図 63

この機能に入ると、設定可能な全レベル(レベル1から3)の一覧が左側に、現在設定されているABSレベル、または状態が右側に表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- 3
- 2
- 1
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

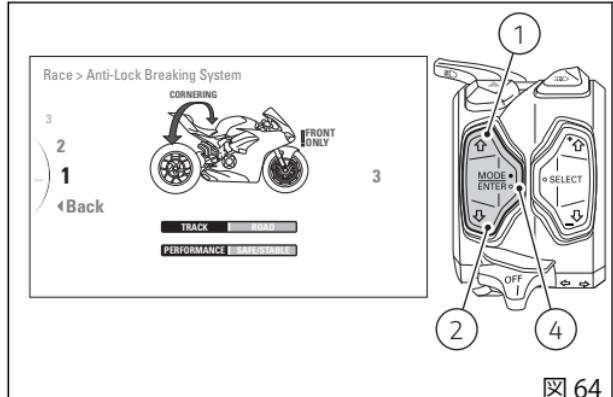


図 64

ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに運動する値が中央の表に表示されます(黒色背景)。さらに、ブレーキシステムの介入レベルを青色矢印で表示されます。フロントブレーキだけがONの時は“FRONT ONLY!”の文字、(図64)コーナリング機能がONの時は“CORNERING”(図65)の文字が表示されます。希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

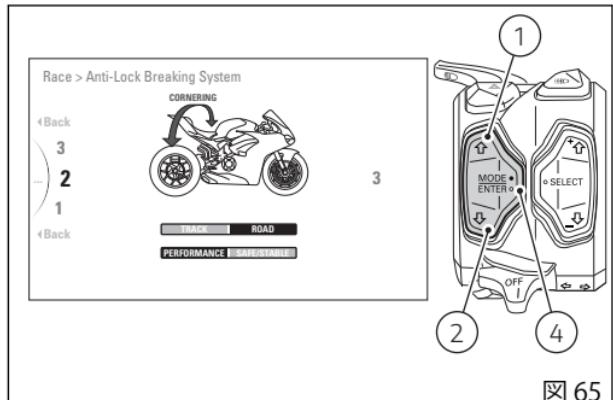


図 65

ライディングモードのパーソナライズ： EBC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動したリアホイールのアンチロックシステム (EBC) の干渉レベルを設定または解除することができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード (RACE、SPORT、STREET) (B) を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード (例：“RACE”) (C) のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “EBC” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

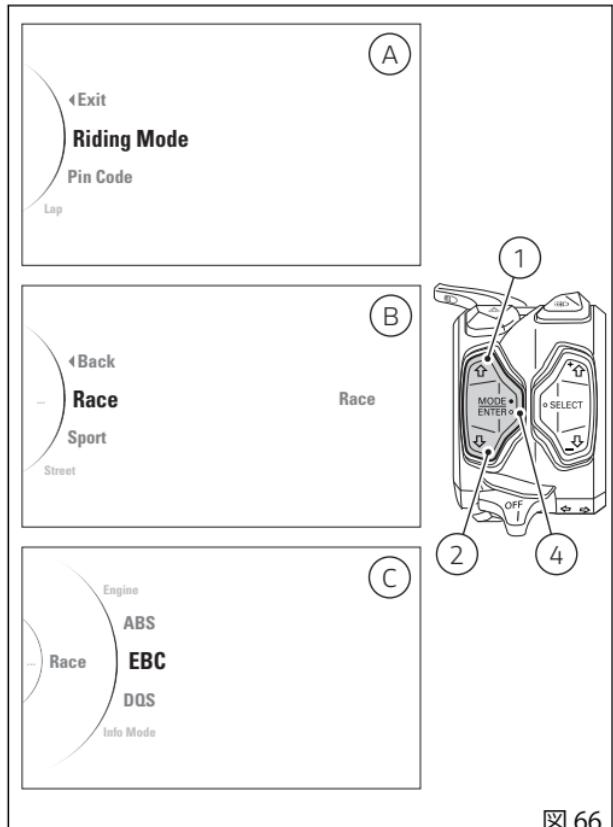


図 66

この機能に入ると、設定可能な全レベル(レベル1から3とOFF)の一覧が左側に、現在設定されているEBCレベル、または状態が右側に表示されます。
このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

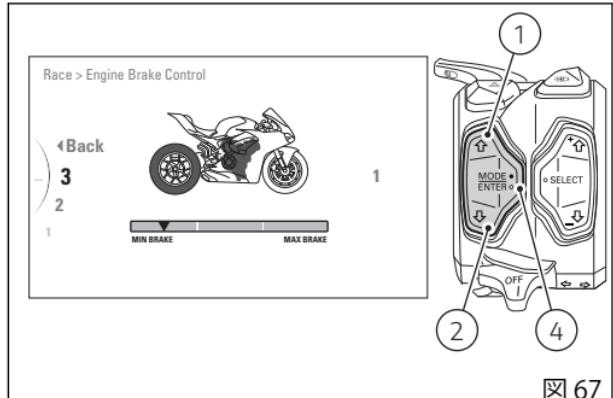
- ◀ Back
- 3
- 2
- 1
- Off
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに運動する値が中央の表に表示されます(黒色矢印で強調表示 ▼)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



ライディングモードのパーソナライズ： DQS 起動/解除

この機能ではライディングモード毎にDQS装置の起動または停止を設定することができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“RACE”)(C)のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “DQS” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

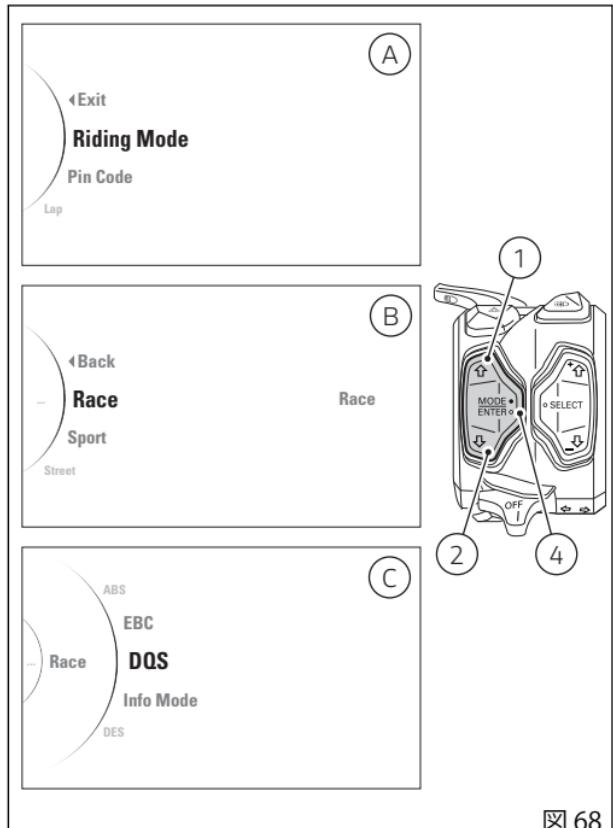


図 68

この機能に入ると、設定可能な全レベル(OFF、UP/DOWN)の一覧が左側に、現在設定されているDQSレベル、または状態が右側に表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Up/Down
- Off
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、システムの介入レベルが表示されます(2つの黒色矢印で強調表示)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

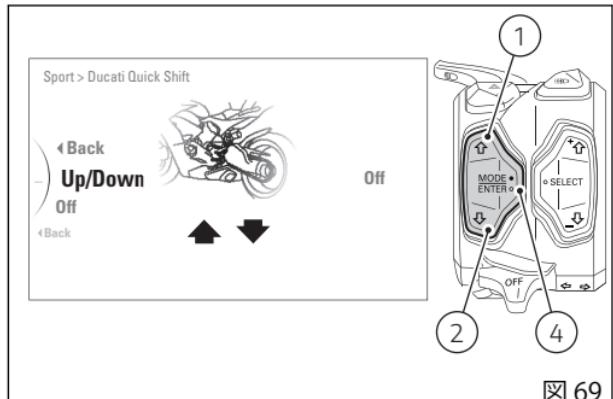


図 69

ライディングモードのパーソナライズ：表示モード設定 (Info Mode)

この機能では各ライディングモードと連動するメインスクリーンの表示モードを選択することができます。

希望のモードを選択するには、設定メニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A)を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例："RACE") (C) のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Info Mode" の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

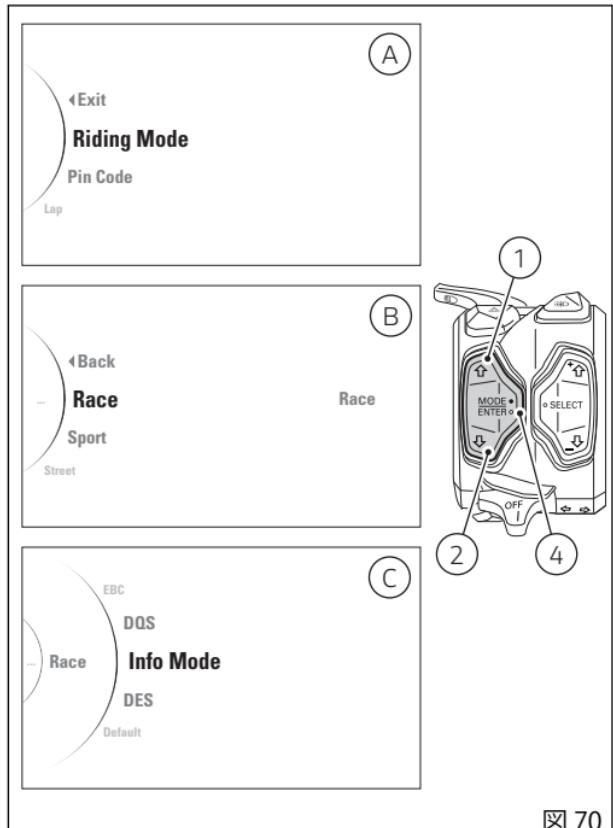


図 70

機能に入ると、選択可能なインフォモード ("Track" または "Road") がディスプレイ左側に、設定されているインフォモードが右側に表示されます。このページに入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Track
- Road
- デフォルト
- ◀ Back

"Default" 表示は、ひとつ以上のパラメーターが変更されている場合にのみ表示されます。

ボタン (1) と (2) を使用して、新たに設定したいインフォモードを選択します。希望のインフォモードを強調表示したら、ボタン (4) を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン (4) を押します。

TRACK と ROAD の2種類の表示モードがあります。それぞれ一つのライディングモードに連動しており、"デフォルト" モードではライディングモード変更時に表示モードも変更されます。

各表示モードとライディングモードのドゥカティ初期設定は以下のとおりです。

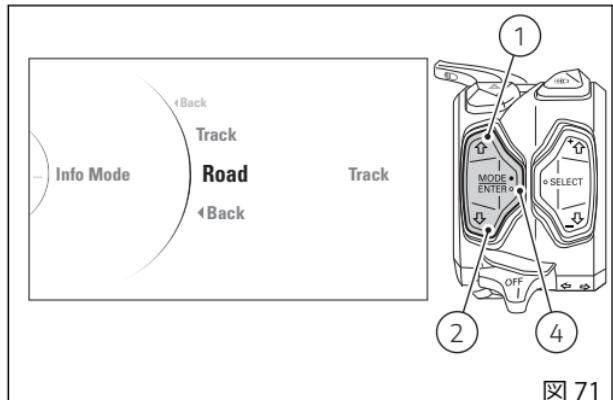


図 71

- TRACK モードとライディングモード RACE
- ROAD モードとライディングモード SPORT と ライディングモード STREET

ライディングモードのパーソナライズ： DESの調整

この機能は、各ライディングモードに連動したエレクトロニックサスペンションの管理タイプを設定します。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A)を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“RACE”)(C)のカスタマイズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “DES” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

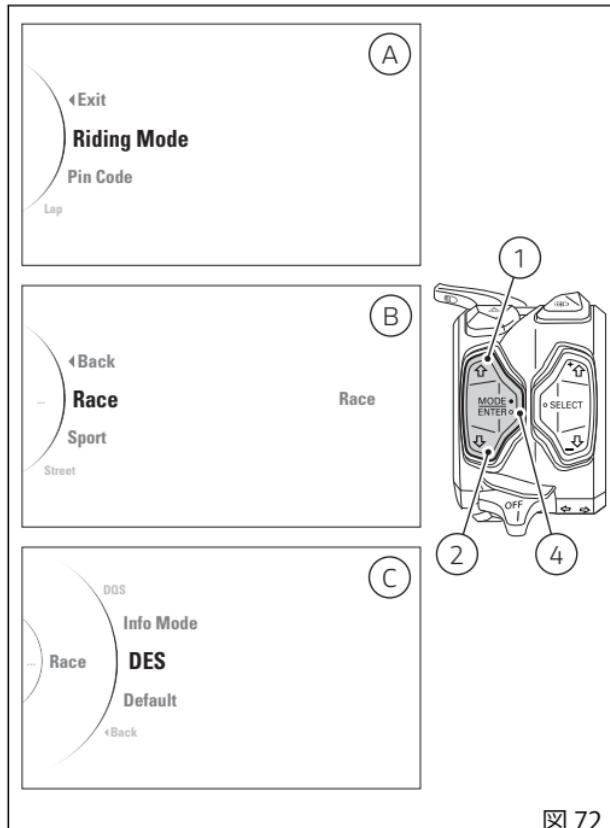


図 72

この機能に入ると、設定/カスタマイズ可能な制御レベル(FIXED、DYNAMIC)の一覧が左側に、現在設定されているレベルが右側に表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Fixed Suspension
- Dynamic Suspension
- ◀ Back

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

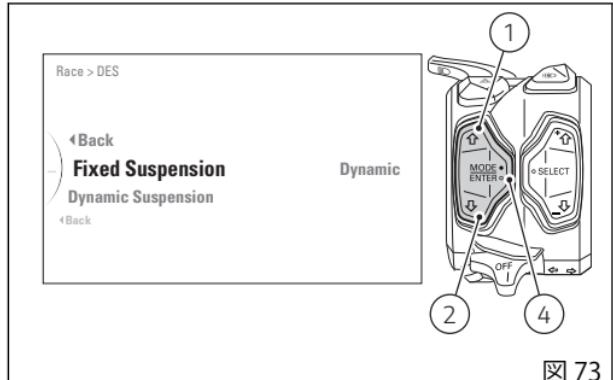


図 73

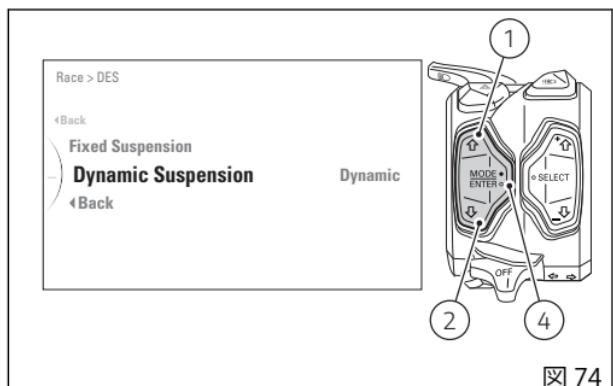


図 74

レベルが FIXED に設定されている場合(右側に "Fixed" と表示されている)：

- DYNAMIC コントロールを設定することができます。ボタン(1)と(2)で "Dynamic Suspension" (図 74) を選択し、ボタン(4)を押してサブメニューに入ります。この時点で、ボタン(1)と(2)で "Default Dynamic Suspension" (図 76) を選択し、ボタン(4)を押します。
- FIXED コントロールをカスタマイズすることができます。ボタン(1)と(2)で "Fixed Suspension" (図 73) を選択し、ボタン(4)を押してサブメニューに入ります。この時点で、ボタン(1)と(2)で "Custom Fixed Suspension" (図 75) を選択し、ボタン(4)を押してカスタマイズメニューに入ります("クリック固定コントロール(FIXED)"を参照してください)。

レベルが "DYNAMIC" に設定されている場合(右側に "Dynamic" と表示されている)：

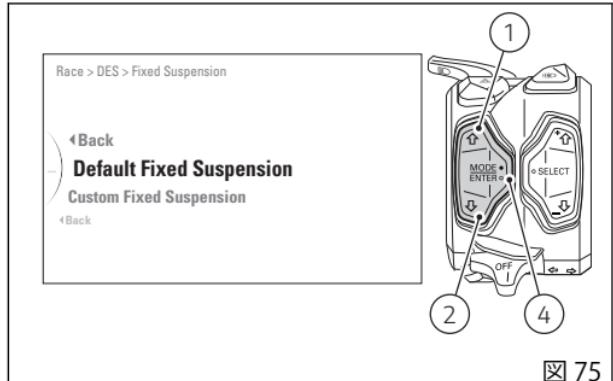


図 75

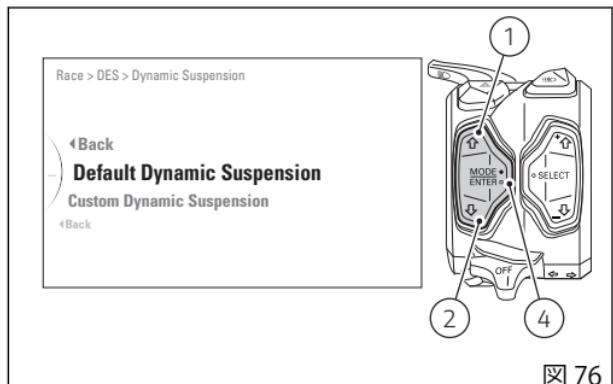
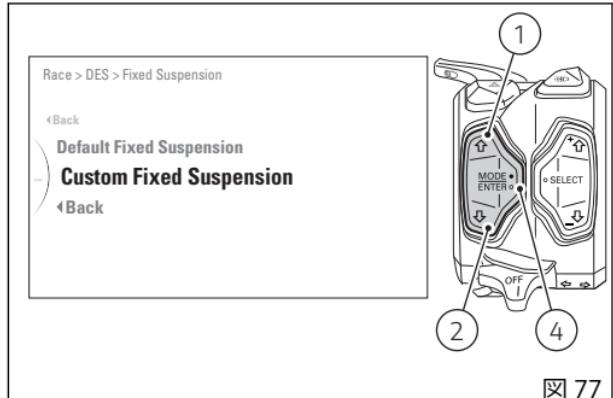


図 76

- DYNAMIC コントロールをカスタマイズすることができます。ボタン(1)と(2)で“Dynamic Suspension”(図74)を選択し、ボタン(4)を押してサブメニューに入ります。この時点で、ボタン(1)と(2)で“Custom Dynamic Suspension”(図76)を選択し、ボタン(4)を押してカスタマイズメニューに入ります(“ダイナミックコントロール(DYNAMIC)”を参照してください)。
- FIXED コントロールを設定することができます。ボタン(1)と(2)で“Fixed Suspension”(図73)を選択し、ボタン(4)を押してサブメニューに入ります。この時点で、ボタン(1)と(2)で“Default Fixed Suspension”(図75)を選択し、ボタン(4)を押します。

クリック固定コントロール (FIXED)

FIXED モードでは、クリック固定エレクトロニックサスペンションのコンプレッションダンピングとリバウンドダンピングのレベルを設定することができます。カスタマイズページに入るには、レベルが Fixed に設定されている時に、ボタン (1) またはボタン (2) で "Custom Fixed Suspension" を選択します。選択後、ボタン (4) を押して FIXED コントロールメニューに入ります。



FIXED コントロールメニューに入ると、以下の選択可能な項目が表示されます。

- ◀ Back
- Front Compression
- Front Rebound
- Rear Compression
- Rear Rebound
- Steering Damper
- ◀ Back

“Front Compression”の表示から、フロントフォークのコンプレッションダンピング値のカスタマイズメニュー “Front Compression” に入ります。

“Front Rebound”の表示から、フロントフォークのリバウンドダンピング値のカスタマイズメニュー “Front Rebound” に入ります。

“Rear Compression”の表示から、リアショックアブソーバーのコンプレッションダンピング値のカスタマイズメニュー “Rear Compression” に入ります。

“Rear Rebound”の表示から、リアショックアブソーバーのリバウンドダンピング値のカスタマイズメニュー “Rear Rebound” に入ります。

“Steering Damper”の表示から、ステアリングダンパー設定のカスタマイズメニュー “Steering Damper” に入ります。

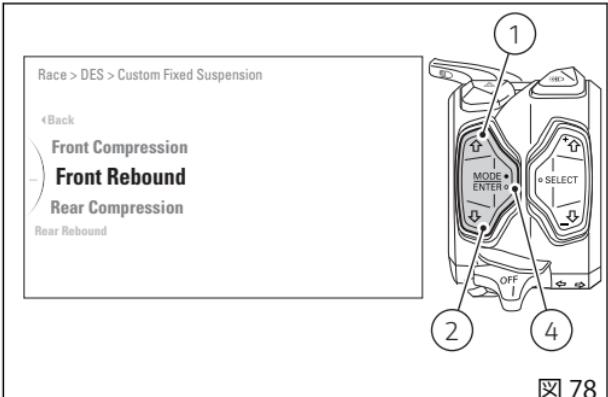


図 78

ボタン(1)または(2)を使用して、カスタマイズしたいパラメーターを選択します。ボタン(4)を押すと、該当するメニューに入ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

5つのメニュー(Front Compression、Front Rebound、Rear Compression、Rear Rebound、Steering Damper)のいずれかを選択し機能に入ると、カスタマイズ可能な全レベルの一覧が左側に、現在設定されているレベルが右側に表示されます。以下のカスタマイズレベルを選択できます。

- “Front Compression”、“Front Rebound”、“Rear Compression”、“Rear Rebound”メニューではクリック数1～32。
- “Steering Damper”メニューではクリック数1～19。

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

ボタン(1)またはボタン(2)を使用して、新たに設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに連動する値が中央の表に表示されます(黒色矢印で強調表示 ▼)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

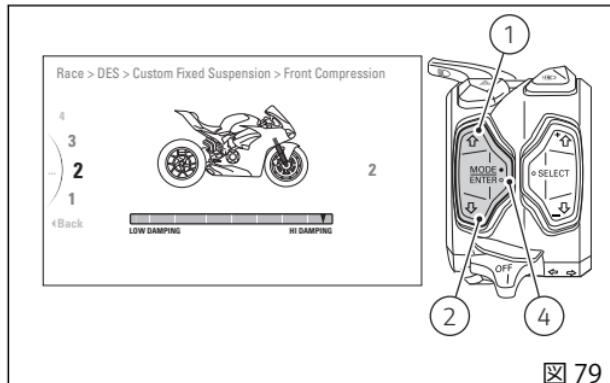


図 79

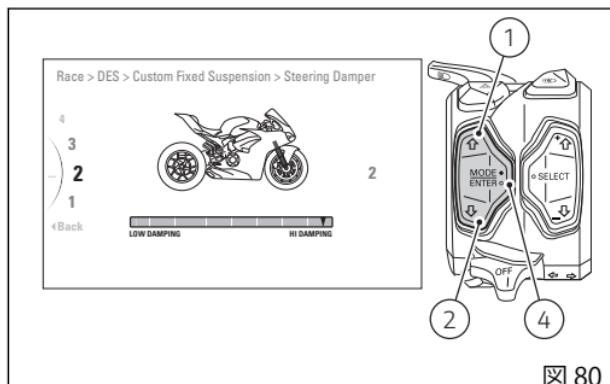


図 80

ダイナミックコントロール (DYNAMIC)

DYNAMIC モードでは、様々な条件化において Ohlins-SmartEC コントロールユニットがエレクトロニックサスペンションに介入する頻度を設定することができます。

カスタマイズページに入るには、レベルが Dynamic に設定されている時に、ボタン(1)またはボタン(2)で "Custom Dynamic Suspension" を選択します。選択後、ボタン(4)を押して DYNAMIC コントロールメニューに入ります。

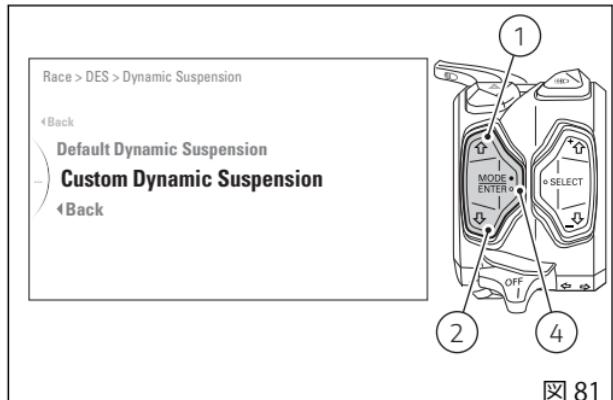


図 81

DYNAMICコントロールメニューに入ると、以下の選択可能な項目が表示されます。

- ◀ Back
- Brake Support
- Front Fork
- Shock Absorber
- Steering Damping
- Acceleration (*)
- Mid Corner (*)
- ◀ Back

(*) パラメーターはライディングモード "Race" 内で表示、カスタマイズが可能です。

ボタン(1)または(2)を使用して、カスタマイズするパラメーターを選択します。ボタン(4)を押すと、該当するメニューに入ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

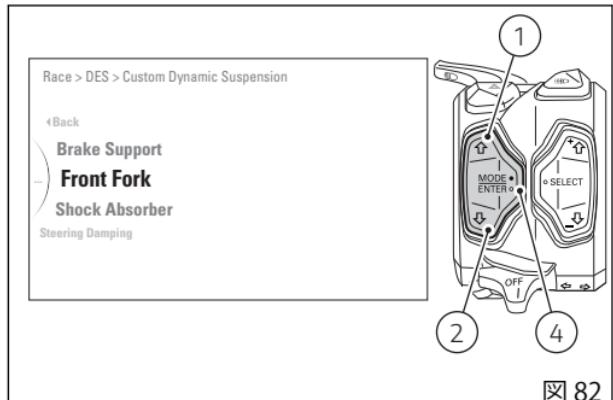


図 82

各パラメーターレベルを変更することで、車両の動的条件に応じて、システムによるサスペンションの動的な自動調整の効果を増減することができます。

Riding Mode	設定タイプ	DES 標準設定	用途
RACE	TRACK	Brake Support	+2
		Front Fork	0
		Shock Absorber	+2
		Steering Damping	0
		Acceleration	+2
		Mid Corner	0
SPORT	ROAD	Brake Support	0
		Front Fork	0
		Shock Absorber	0
		Steering Damping	0
STREET	ROAD	Brake Support	0
		Front Fork	0
		Shock Absorber	0
		Steering Damping	0

Brake Support(ブレーキサポート)パラメーター

ブレーキサポートパラメーターを調整することで、制動時のピッティング抵抗を増大(PERFORMANCE)または軽減(COMFORT)することができます。レベルを上げると、フォークがより制御された方法でゆっくりと沈みます。レベルを下げるすると、沈む速度が速くなります。

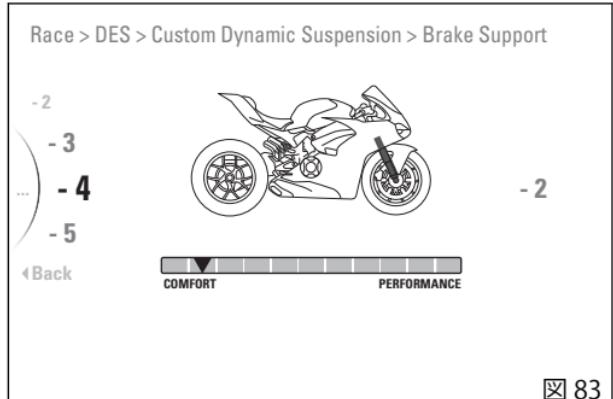


図 83

Front Fork (フロントフォーク) および Shock Absorber (ショックアブソーバー) パラメーター

フロントフォークとショックアブソーバーのパラメーターを調整することで、各コンポーネント全体の減衰量を増加 (+) または減少 (-) することができます。

ライディングモード RACE では、両方のパラメーターを均等に調整することで、ライダー好み、路面のグリップ力、サーキットの特性にあわせて減衰レベルを調整するのに役立ちます。パラメーターを個別に調整する方法は、フロントとリアのバランスを個別に変更する場合に使用できます。

ライディングモード SPORT および STREET では、両方のパラメーターを COMFORT 寄りに設定することで、路面の凸凹や衝撃の吸収が高まります。両方のパラメーターを STABILITY 寄りに設定すると、フレーム振動のダンピングが大きくなります。フロントフォークとリアショックアブソーバーを個別に調整し、フロントとリア間のバランスを変更するには、フロントとリアのパラメーターを個別に設定します。

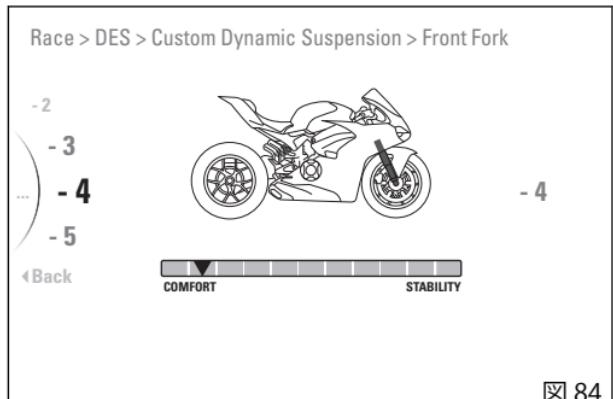


図 84

Steering Damping (ステアリングダンピング) パラメーター

このパラメーターを調整すると、ステアリング全体の減衰量を増減することができます。パラメーターを HANDLING に近づけると、ステアリングダンピングが小さくなり、より軽いライディングが可能になります。パラメーターを STABILITY に近づけると、振動に対する抵抗が大きくなります。

Acceleration (加速) パラメーター (ライディングモード「RACE」のみ)

加速パラメーターを調整することで、急な加速時のグリップと安定性をライダーの好みで設定することができます。パラメーターを GRIP 寄りに設定すると、後輪のトラクションを高めて最大の接地面を確保するよう にシステムが最適化されます。パラメーターを STABILITY 寄りに設定すると、フレームの振動を和らげます。

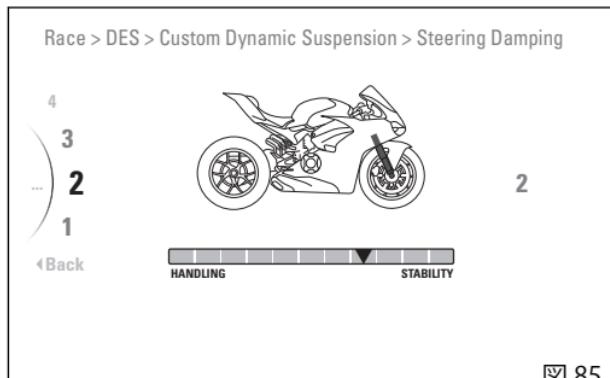


図 85

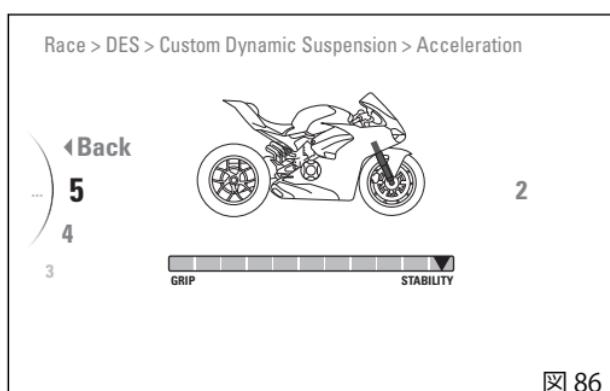


図 86

Mid Corner(ミッドコーナー)パラメーター(ライディングモード「RACE」のみ)

ミッドコーナーパラメーターを調整することで、コーナー途中のグリップと安定性をライダー好みに設定することができます。パラメーターを GRIP 寄りに設定すると、最大の接地面を確保するようにシステムが最適化されます。パラメーターを STABILITY 寄りに設定すると、フレームの振動を和らげます。

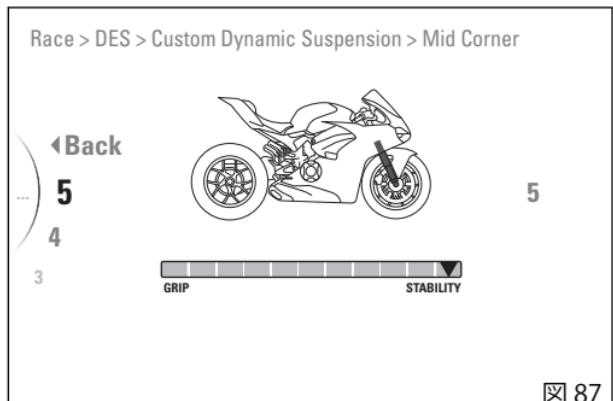


図 87

6つのメニュー (Brake Support、Front Fork、Shock Absorbe、Steering Damping、Acceleration、Mid Corner) のいずれかを選択し機能に入ると、カスタマイズ可能な全レベル (+5～-5) の一覧が左側に、現在設定されているレベルが右側に表示されます。

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

ボタン(1)またはボタン(2)を使用して、新たに設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに連動する値が中央の表に表示されます (黒色矢印で強調表示 ▼)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

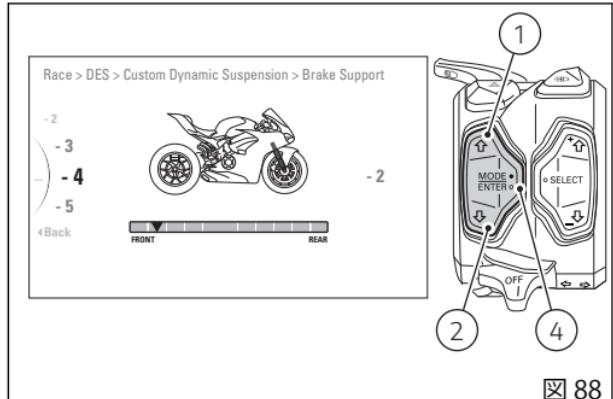


図 88

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復

ここでは個別のライディングモードに連動するパラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して "**Riding Mode**" (A)を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード(RACE、SPORT、STREET)(B)を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“RACE”)(C)のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “Default” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモードが初期設定値に回復されます。

この時点から、ひとつ以上のパラメーターが変更されるまで、“Default” 表示は見えなくなります。

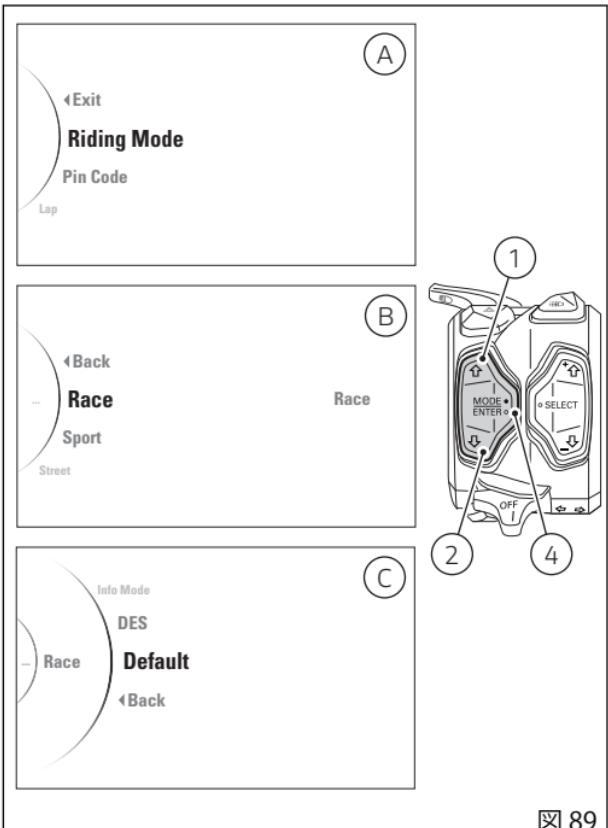


図 89

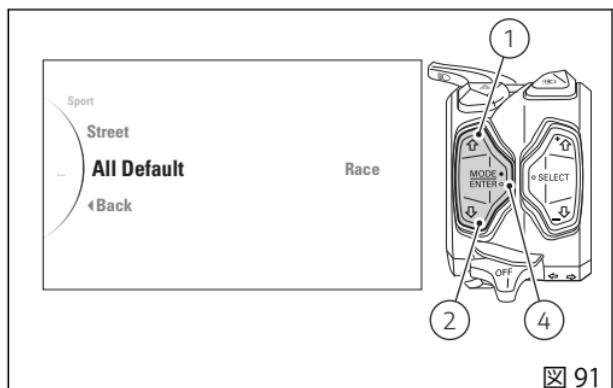
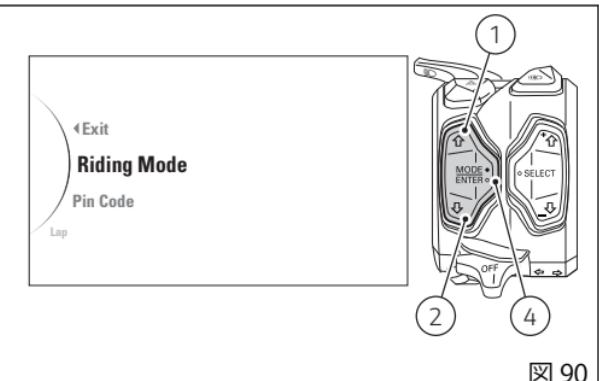
メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"
の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復 (All Default)

ここではすべてのライディングモードに連動するパラメーター値 (DAVC (DTC, DWC, DSC), Engine, ABS, EBC, DQS, infoMode, DES (サスペンション)) をドゥカティ初期設定値に回復させることができます。少なくともひとつのパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ、この機能が表示されます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)または(2)を押して "Riding Mode" を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。ボタン(1)と(2)で "All Default" の表示を強調して選択します。ボタン(4)を押すと、3つすべてのライディングモードを工場出荷時の値に回復することができます。

この時点から、ひとつ以上のパラメーターが変更されるまで、"All Default" の表示は見えなくなります。メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



Pin Code

この機能でPIN CODEの有効化または変更を行います。PIN CODEは最初車両に登録されていませんので、ユーザーが4桁のPINをインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。

PIN CODEの起動または変更を行うには、設定メニュー(SETTING MENU)に入れます。

ボタン(1)または(2)を押して"Pin Code"を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

この機能を有効にするには、以下の"PIN CODEの登録"の手順に従います。

PINを変更するには"PIN CODEの変更"ページ151の手順に従います。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODEによる車両の解除"ページ240の手順に従います。

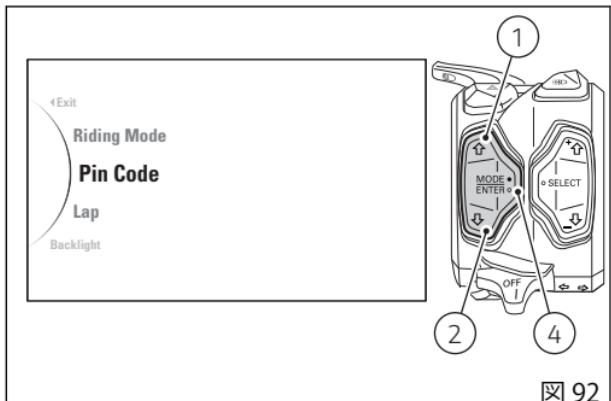


図 92



警告

PIN CODEは車両の所有者が設定(登録)しなければなりません。PINがすでに設定されている場合には、Ducati正規ディーラーに本機能の"リセット"を依頼してください。その際Ducati正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE の登録

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "Pin Code" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- New Pin

ボタン (1) および (2) で "New Pin" を選択し、ボタン (4) を押して Pin Code 入力機能に入ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン (4) を押します。

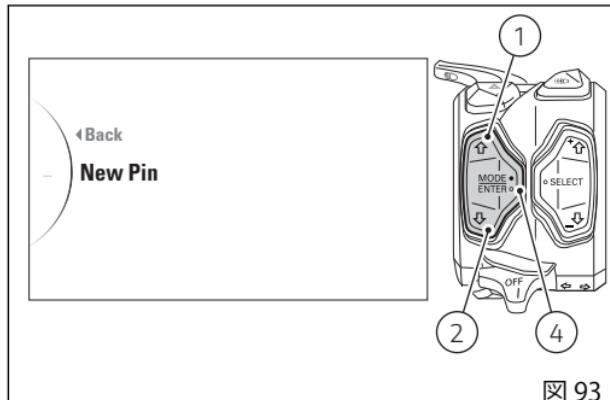


図 93

Pin Code の登録機能 (New Pin) に入ると、“New Pin”の表示と、新しい4桁のPin Codeを入力するスペース“0”と“---”が表示されます。桁の上に2つの矢印があると、設定を実行できることを示します。

コードの入力：

- 1) ボタン(1)を押す度に数字が“9”までひとつずつ大きくなり、その後“0”に戻ります。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が“1”までひとつずつ小さくなり、その後“0”に戻ります。
- 3) ボタン(4)を押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 4) 1)と3)の手順を繰り返し、PIN CODEの4桁すべての数字を決定します。

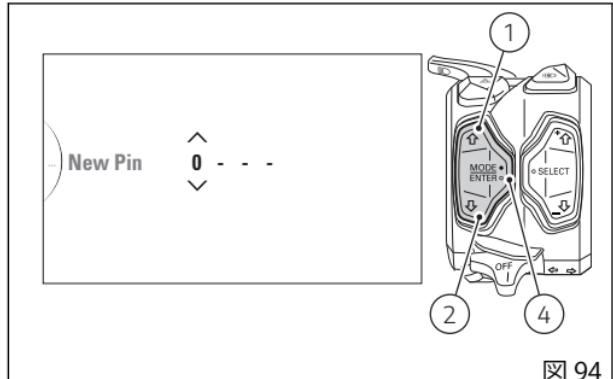


図 94

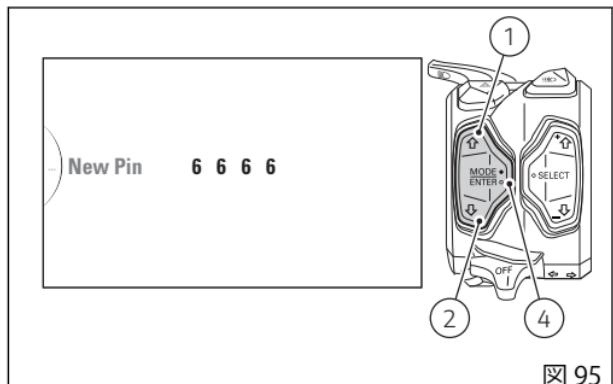


図 95

4桁全ての数字を設定してボタン(4)を押すと、インストルメントパネルに次の表示が点灯します。

- ◀ Back
- Memory (オレンジ色)

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。コードを保存する場合は、“Memory”(オレンジ色)の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。この時点で、インストルメントパネルは“Memorized”(緑色)を2秒間表示します。

2秒が過ぎると、インストルメントパネルは前の画面に戻ります。この時、“New Pin”的代わりに“Modify Pin”が表示されます(参照、ページ151)。初めてPIN CODEを保存した後は、“New Pin”登録メニューのページは利用できなくなり、PIN CODEの変更ページに代わります。



参考
PIN CODE機能がリセットされた場合(Ducati診断テスターからのみ可能)に限り、PIN CODEの登録ページが再び有効になり、メニューから入ることができます。

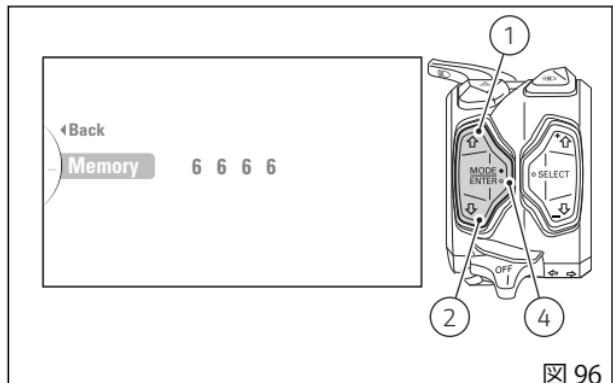


図 96



図 97

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"
の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

PIN CODE の変更

すでに登録されている PIN を変更し、新しい PIN を有効にするには、設定メニュー(SETTING MENU)に入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を使用して "Pin Code" を選択し、ボタン(4)を押します。



PIN CODE を変更するには、現在設定されている PIN を知っている必要があります。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Modify Pin

ボタン(1)および(2)で "Modify Pin" を選択し、ボタン(4)を押して Pin Code の変更機能に入ります。メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

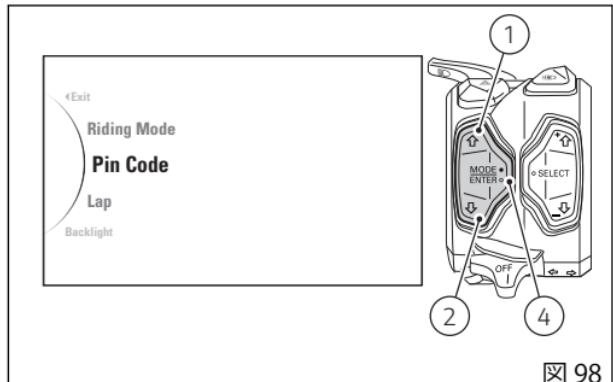


図 98

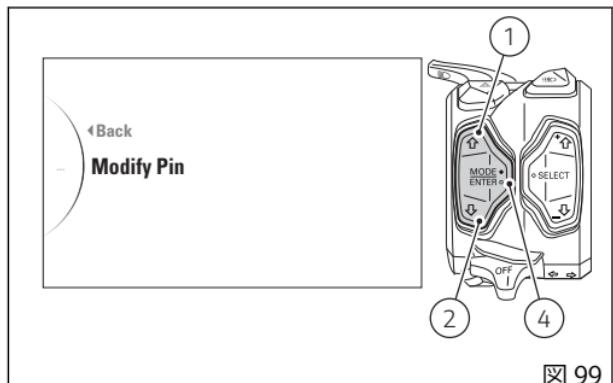


図 99

Pin Code の変更機能 (Modify Pin) に入ると、"Old Pin" の表示と、4 行の Pin Code を入力するスペース "0" と "---" が表示されます。桁の上に 2 つの矢印があると、設定を実行できることを示します。

コードの入力：

- 1) ボタン(1)を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
- 3) ボタン(4)を押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 4) 1)と 3)の手順を繰り返し、PIN CODE の 4 行すべての数字を決定します。

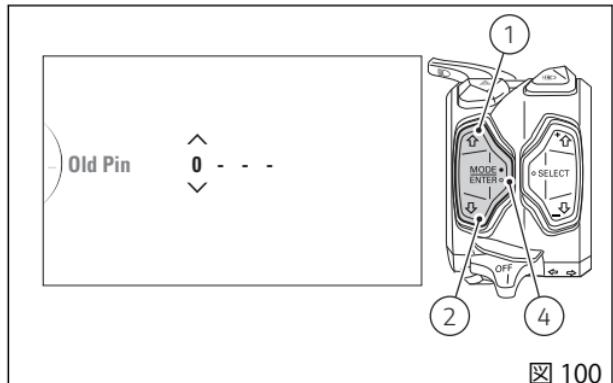


図 100

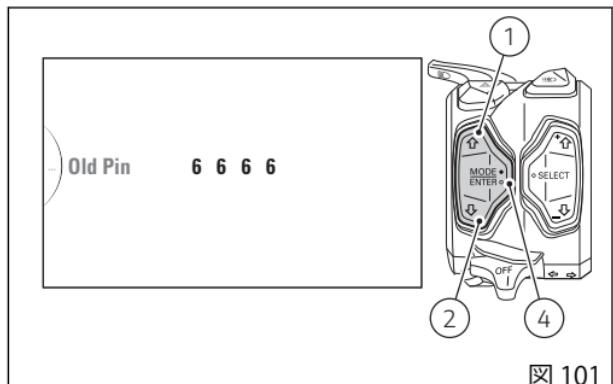


図 101

ボタン(4)を押して最後の桁を決定すると、インストルメントパネルは次の動作を行います。

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG" を赤色で 2 秒間強調表示します。その後メニューに戻り、“Modify Pin”と 4 衍のスペースを表示します。もう一度コードを入力してください。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "CORRECT" を 2 秒間緑色で強調表示します。その後新コードを入力できるように、“New Pin”と 4 衍のスペースを表示します。

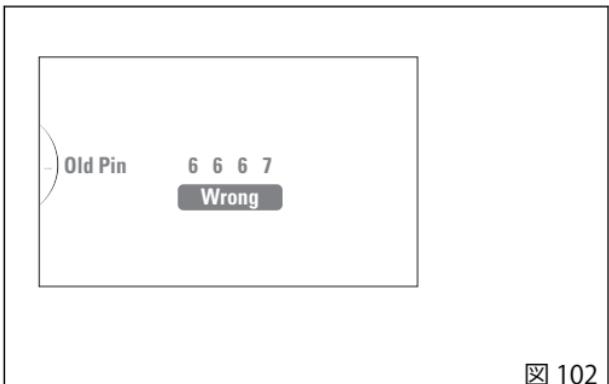


図 102

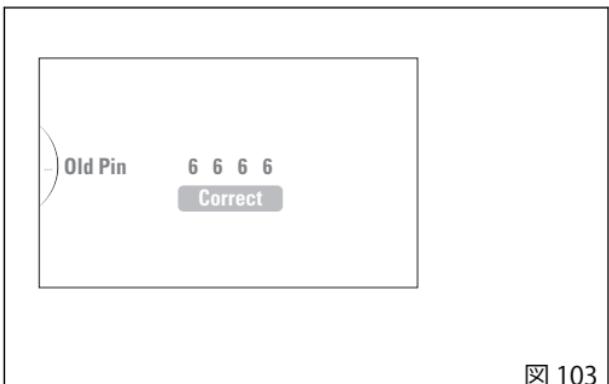


図 103

PIN CODE が正しい場合は、以下が表示されます。

- ◀ Back
- New Pin

ボタン(1)および(2)で“New Pin”を選択し、ボタン(4)を押して Pin Code 入力機能に入ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

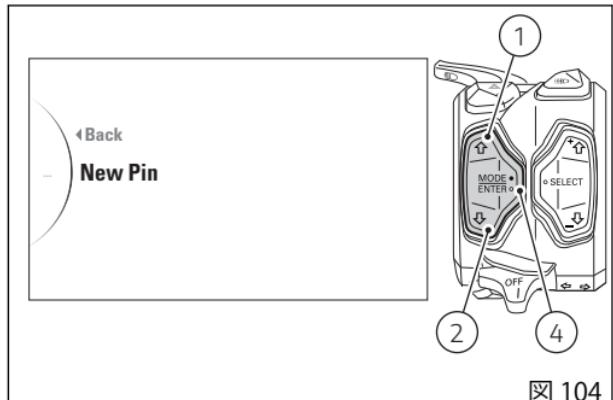


図 104

Pin Code の登録機能 (New Pin) に入ると、“New Pin”の表示と、新しい4桁のPin Codeを入力するスペース“0”と“---”が表示されます。桁の上に2つの矢印があると、設定を実行できることを示します。

コードの入力：

- 1) ボタン(1)を押す度に数字が“9”までひとつずつ大きくなり、その後“0”に戻ります。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が“1”までひとつずつ小さくなり、その後“0”に戻ります。
- 3) ボタン(4)を押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 4) 1)と3)の手順を繰り返し、PIN CODEの4桁すべての数字を決定します。

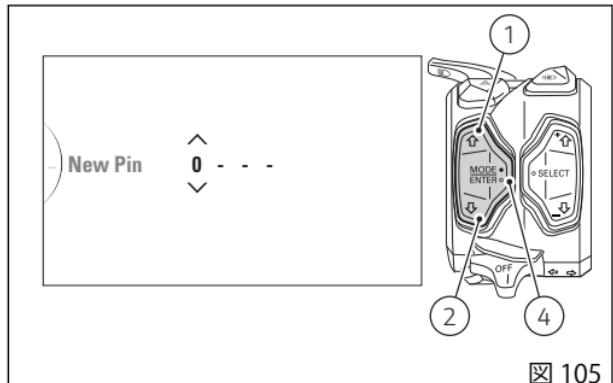


図 105

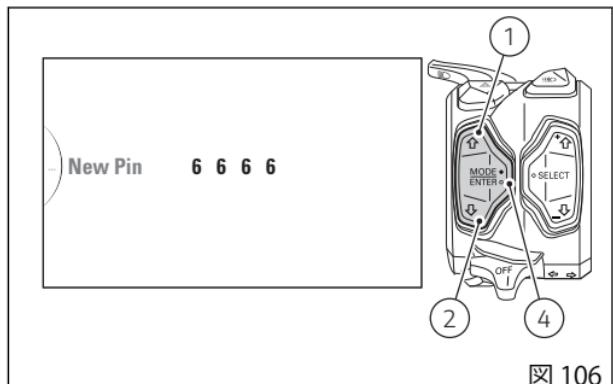


図 106

4桁全ての数字を設定してボタン(4)を押すと、インストルメントパネルに次の表示が点灯します。

- ◀ Back
- Memory (オレンジ色)

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。コードを保存する場合は、"Memory" (オレンジ色) の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。この時点で、インストルメントパネルは "Memorized" (緑色) を2秒間表示します。

2秒後、インストルメントパネルは前の画面に戻ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



参考

PIN CODE の変更は何度でも可能です。

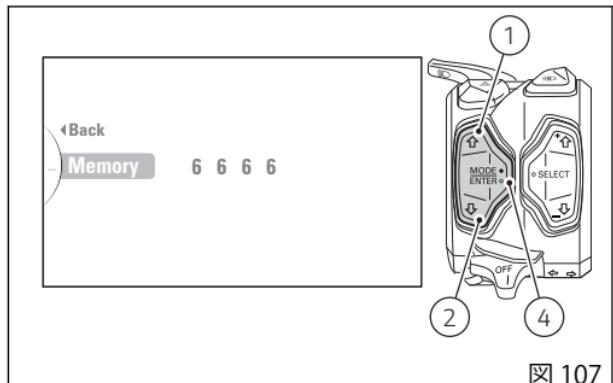


図 107



図 108

Lap

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
ボタン(1)または(2)を押して、"Lap"を選択します。
機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

"LAP"メニューに入ります。

このページ内に表示される表示は次の通りです。

- ◀ Back
- On
- Off
- Lap Data
- Erase All (*)
- ◀ Back

(*)ひとつ以上のラップが記録されている場合にのみ表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して表示を強調し、ボタン(4)を押して機能を作動させます。

- "On"の表示を選択すると、ラップ機能が起動します。ラップ機能がONになると、ラップタイムを記録することができるようになります(参照、ページ0)。
- "Off"の表示を選択すると、ラップ機能が停止します。

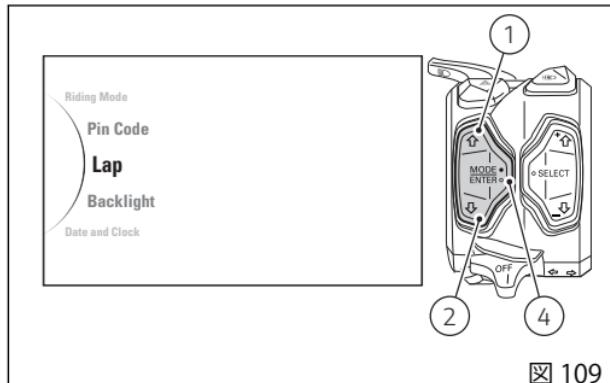


図 109

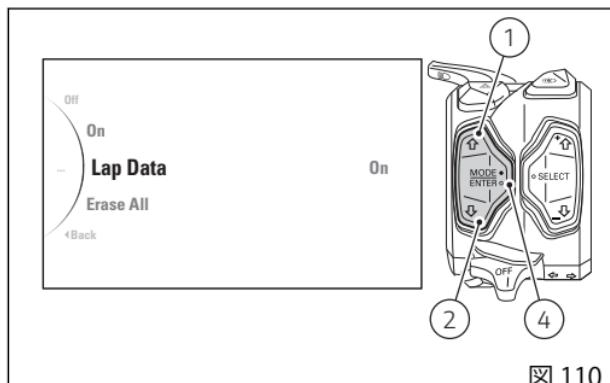


図 110

- “**Lap Data**” の表示を選択すると、記録されている LAP が表示されます (“**記録済み LAP の表示**” の項を参照)。
- “**Erase All**” の表示を選択すると、記録されている全 LAP を消去します (“**LAP 記録の削除**” の項を参照)。



参考

バッテリーが中断された場合は、電源回復後の Key-ON 時にラップ機能は自動的に “Off” モードに設定されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back” の表示を強調表示し、ボタン (4) を押します。

記録済み LAP の表示

記録済みの LAP をディスプレイに表示することができます。表示可能な情報はラップタイム、最高回転数(rpm)、最高スピードです。

ラップを表示するには、設定メニューに入ります。ボタン(1)および(2)で "Lap" を選択し、ボタン(4)を押します。次に、ボタン(1)および(2)で "Lap Data" を選択し、ボタン(4)を押します。

LAP 記録が存在しない場合は、ページに入ると "◀ Back" の表示と "No Lap" の文字が表示されます。

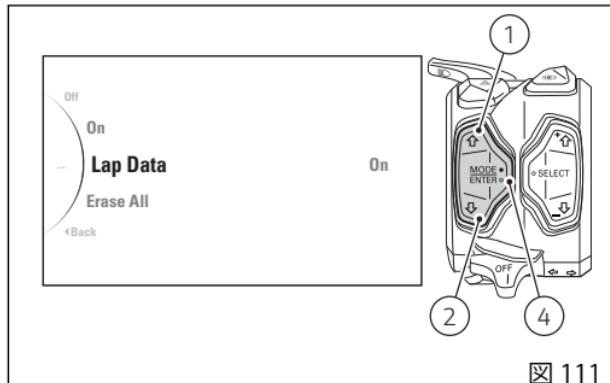


図 111

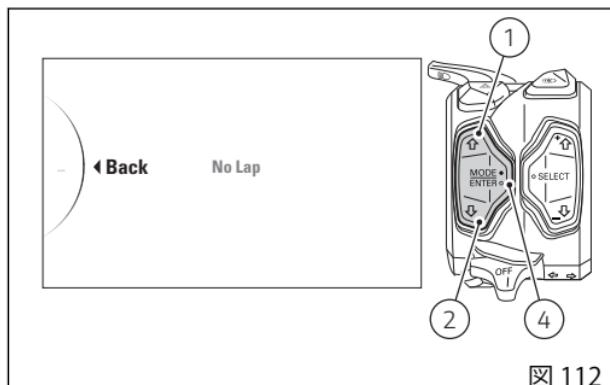


図 112

LAP 記録が存在する場合は、この機能に入ると以下が表示されます。

- ◀ Back
- Lap 01
-
- Lap 15
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)を使用して、いずれかを選択することができます。記録されているラップだけが表示されます。各ラップ記録には、さらに以下の情報が示されます。

- "Time" の文字に続いて、記録済みラップタイム (分 - 秒 - 100 分の 1 秒)
- "Speed Max" の文字に続いて、ラップ中に記録された最高速度
- "rpm Max" の文字に続いて、ラップ記録中に記録された最高回転数

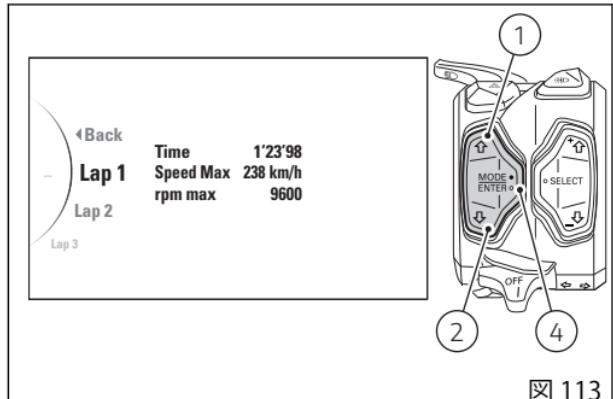


図 113



参考 記録最高スピードはラップ中に到達した速度です (5 % 増大させたもの)。

最大 15 ラップまで記録することができます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

LAP 記録の削除

“Erase All”機能から記録済みラップを消去することができます。

ラップを消去するには、設定メニューに入ります。ボタン(1)および(2)で“Lap”を選択し、ボタン(4)を押します。次に、ボタン(1)および(2)で“Erase All”を選択し、ボタン(4)を押します。

この表示に入った時に、LAP がひとつも記録されていない場合、インストルメントパネルは消去するための表示を一切起動しません。一方、記録されている LAP がある場合は、ページに入ると LAP を消去できる“Erase All”が表示されます。

ボタン(1)および(2)で“Erase All”を選択し、ボタン(4)を押します。

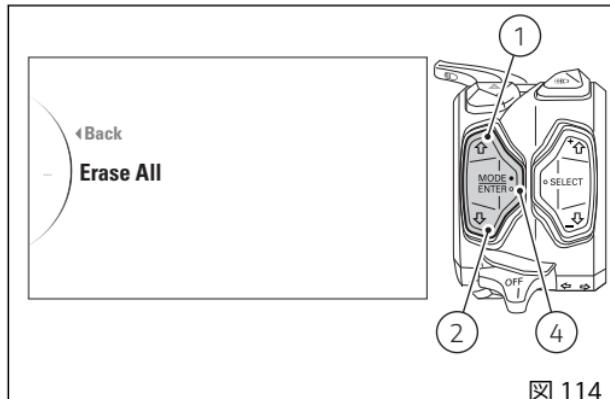


図 114

"Erase All" 機能を決定した後、インストルメントパネルのディスプレイには

- "WAIT..." の文字が 2 秒間表示されます。
- 続いて "Erase Ok" の文字が 2 秒間表示され、削除されたことを示します。

メモリーされているすべてのラップが一度に削除されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



図 115

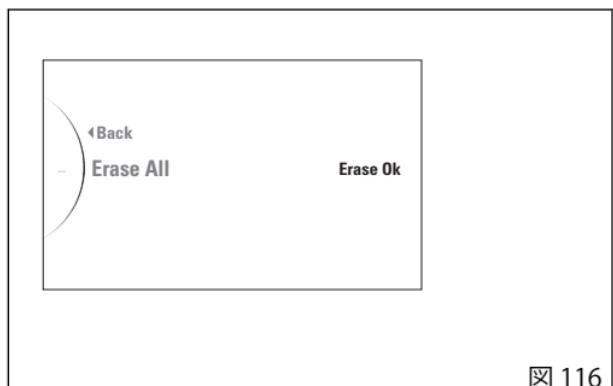


図 116

バックライトの設定 (Backlight)

この機能ではバックライトの明るさを調整することができます。

バックライトの設定を調節するには、設定メニューからボタン(1)および(2)で "Backlight" を選択して、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Auto
- Day
- Night
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)を使用して、ディスプレイの好みのバックライトタイプを選択できます。

設定したいタイプを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

AUTO 設定(自動モード)を選択すると、ディスプレイの背景が外光の強さ(センサーが感知)に応じて自動的に調整されます。外光が強い場合ディスプレイの背景は白になります。外光が弱い場合はディスプレイの背景が黒になります。

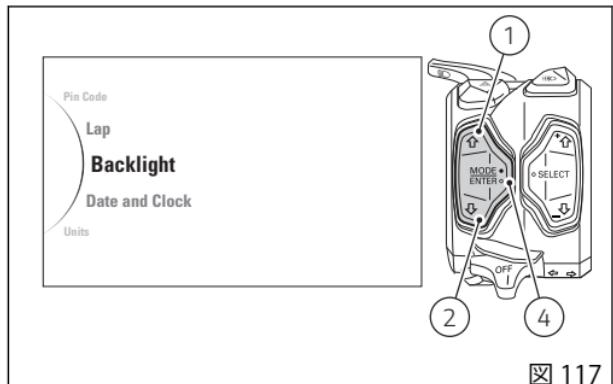


図 117

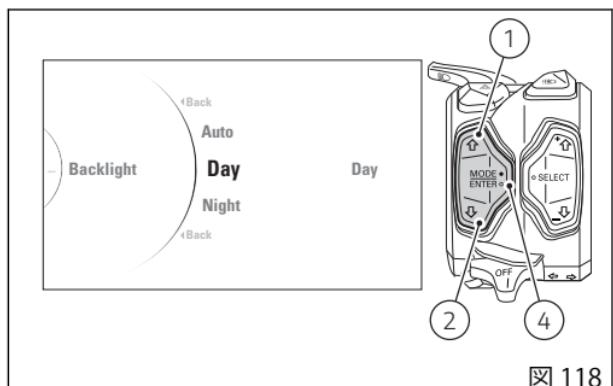


図 118

DAY設定(昼間モード)を選択すると、ディスプレイの背景が読み取りやすい"白"に常時設定されます。強い外光下での使用に適します。

NIGHT設定(夜間モード)を選択すると、ディスプレイの背景がソフトなコントラストの"黒"に常時設定されます。弱い外光下または暗い環境での使用に適します。



参考

バッテリーが中断された場合、電源回復後のKey-ON時に画面の光調整はリセットされ、"AUTO"モードに設定されます。

日付の設定 (Date and Clock)

この機能は日付の表示、設定/変更を行います。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Date and Clock" を選択し、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Date
- Clock
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)で "Date :" を選択します。この表示を強調表示すると、インストルメントパネルは設定されている日付を以下の形式で表示します。YEAR、MONTH、DAY(例：2016/01/20)。



参考 日付を初めて設定する場合、「年」「月」「日」の値には “--” が表示されています。

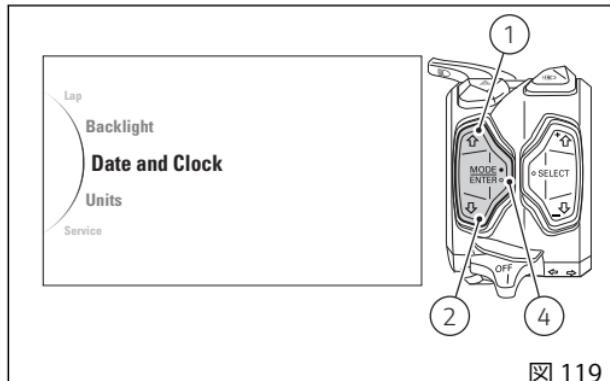


図 119

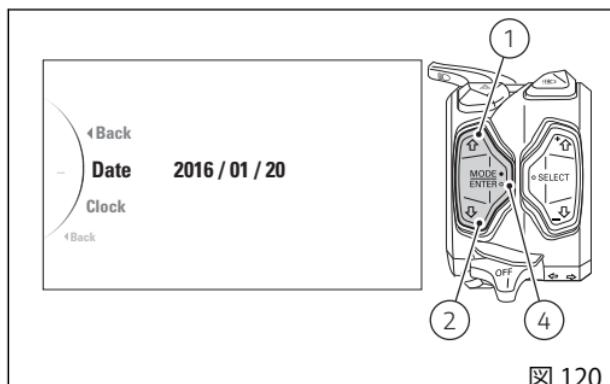


図 120

"Date" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。
「年」データの上に2つの矢印が表示されると、年の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、年の値が1ずつ大きくなります ("2000"、"2001"、.... "2099"、"2000")。
- ボタン(2)を押すと、年の値が1ずつ小さくなります ("2099"、"2098"、.... "2000"、"2099")。
- 設定したい年の値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「月」データの設定ができるようになります。

「月」データの上に2つの矢印が表示されると、月の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、月の値が1ずつ大きくなります ("01"、"02"、.... "12"、"01")。
- ボタン(2)を押すと、月の値が1ずつ小さくなります ("12"、"11"、.... "01"、"12")。
- 設定したい月の値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「日」データの設定ができるようになります。

「日」データの上に2つの矢印が表示されると、月の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、日の値が1ずつ大きくなります ("01"、"02"、.... "31"、"01")。

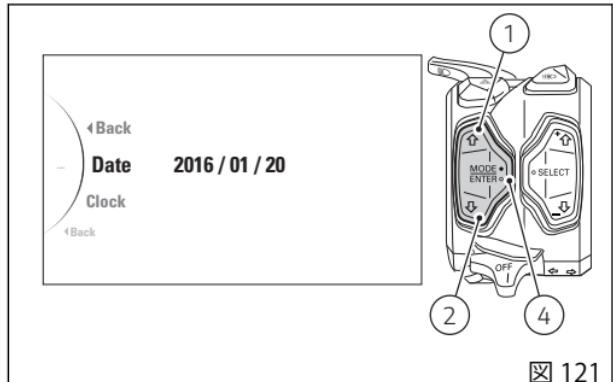


図 121

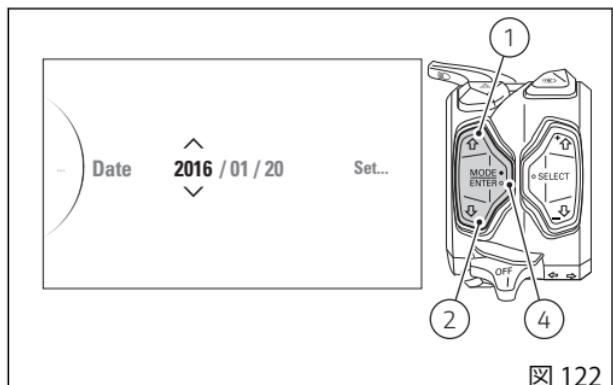


図 122

- ボタン(2)を押すと、日の値が1ずつ小さくなります("31"、"30"、....."01"、"31")。
- 設定したい日の値に達したら、ボタン(4)を押します。

ボタン(4)を押して「日」データを決定すると、インストルメントパネルは設定/変更した日付を保存し、“◀ Back”の表示を点灯します。

日付が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" を3秒間表示した後、「年」データが自動的に強調表示されます(2つの矢印)。日付をもう一度設定することができます。

メニューを終了するには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

重要

バッテリーが切断されるたびにカレンダー情報はリセットされるので、その都度設定する必要があります。

時計の設定 (Date and Clock)

この機能は時計の調整/設定をします。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Date and Clock" を選択し、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Date
- Clock
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)で "Clock" を選択します。この表示を強調表示すると、インストルメントパネルは設定されている時間を以下の形式で表示します。AM/PM、HOUR、MINUTE (例: AM 10:25)



参考 時計を初めて設定する場合、「時間」「分」の値には “--” が表示されています。

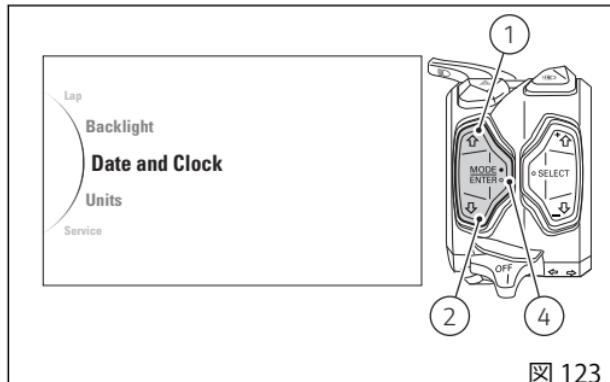


図 123

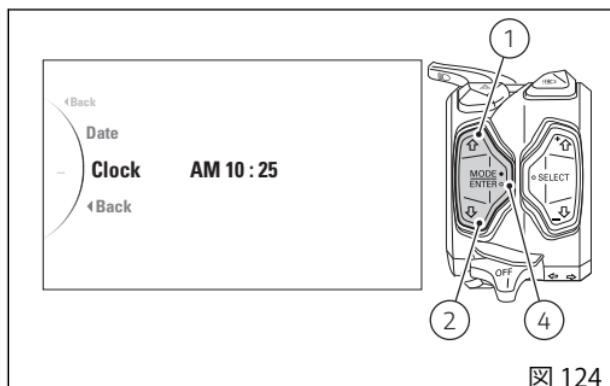


図 124

「Clock」の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。「AM / PM」データの上に2つの矢印が表示されると、この値の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、点滅が“PM”から“AM”に切り替わります。
- ボタン(2)を押すと、点滅が“PM”から“AM”に切り替わります。
- 設定したい値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「時」データの設定ができるようになります。

「時」データの上に2つの矢印が表示されると、この値の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、時間の値が1ずつ大きくなります(AM(午前)では“11”、“0”、“1”.....“11”、PM(午後)では“12”、“1”、“.....”“12”)。
- ボタン(2)を押すと、時間の値が1ずつ小さくなります(AM(午前)では“0”、“11”、“.....”“1”、“0”、PM(午後)では“12”、“11”、“.....”“1”、“12”)。
- 設定したい値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「分」データの設定ができるようになります。

「分」データの上に2つの矢印が表示されると、この値の設定が可能であることを示します。

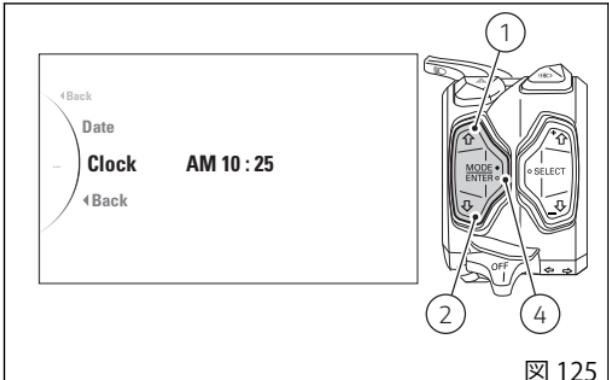


図 125

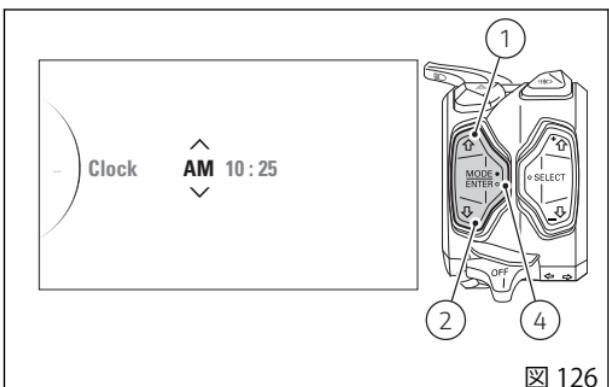


図 126

- ボタン(1)を押すと、分の値が1ずつ大きくなります("00"、"01"、...."59"、"00")。
- ボタン(2)を押すと、分の値が1ずつ小さくなります("59"、"58"、...."00"、"59")。
- 設定したい値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「分」データの設定ができるようになります。

ボタン(4)を押して「分」データを決定すると、インストルメントパネルは設定/変更した日付を保存し、“◀ Back”の表示を点灯します。

メニューを終了するには、“◀ Back”の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



参考 バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますので、ユーザーは再度設定する必要があります。

単位の設定 (Units)

この機能では表示単位の変更が可能です。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Units" を選択し、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Speed
- Temperature
- Consumption
- All Default (*)
- ◀ Back

(*)ひとつ以上のパラメーターが変更されている場合にのみ表示されます。

以下の項目の単位を変更することができます。

- スピード (Speed)
- 温度 (Temperature)
- 燃費 (Consumption)

ボタン(1)および(2)を使って変更したい単位を強調表示します。

- 速度の単位を変更したい時は、“Speed”の表示でボタン(4)を押します。

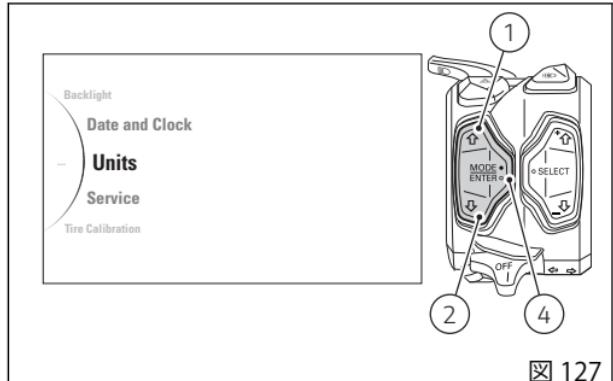


図 127

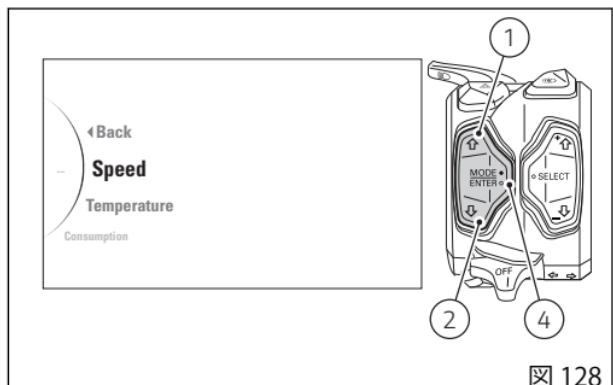


図 128

- 温度の単位を変更したい時は、“Temperature”の表示でボタン(4)を押します。
- 燃費の単位を変更したい時は、“Consumption”の表示でボタン(4)を押します。
- 表示項目すべての全単位を初期設定に戻すには、“All Default”の表示でボタン(4)を押します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"**◀ Back**" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

単位の設定スピード

この機能では速度の単位を変更することができます
(走行距離の単位も同時に変更します)。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- km/h
- mph
- Default (*)
- ◀ Back

(*)ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す“Default”表示を選択します。

希望の表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択した単位を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

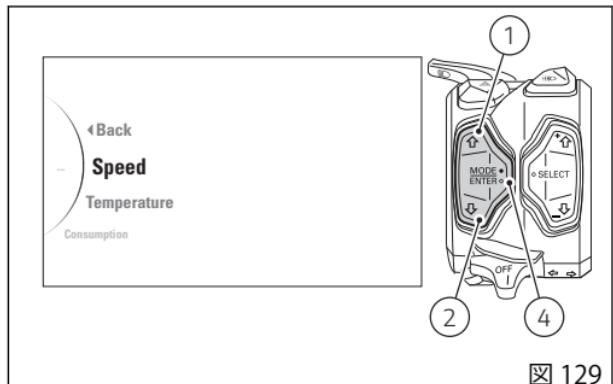


図 129

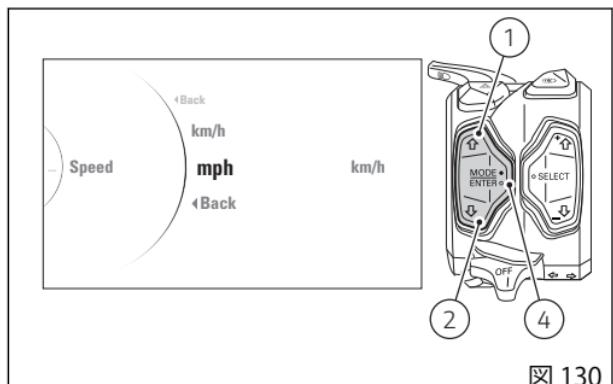


図 130

単位の設定温度

この機能では温度の単位の変更が可能です。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- ° F
- ° C
- Default (*)
- ◀ Back

(*)ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す“Default”表示を選択します。

希望の表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択した単位を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

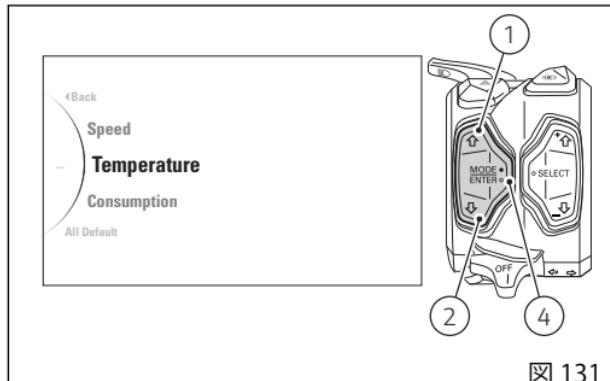


図 131

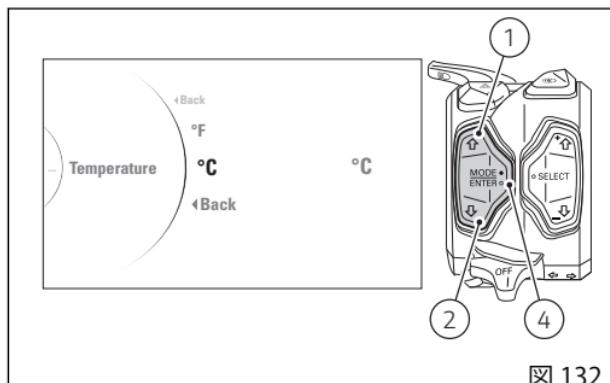


図 132

単位の設定燃費

この機能では燃費の単位を変更することができます。
この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- l/100
- Km/l
- mpg UK
- mpg US
- Default (*)
- ◀ Back

(*)ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す“Default”表示を選択します。

希望の表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択した単位を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

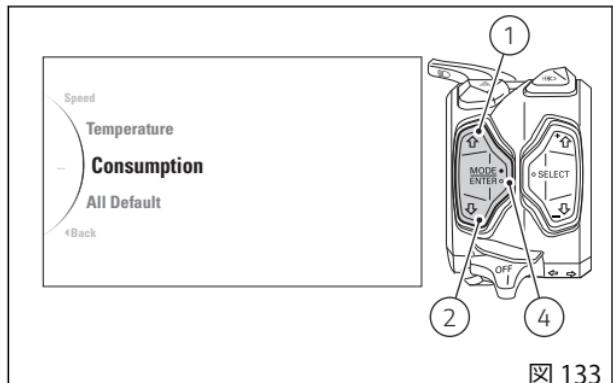


図 133

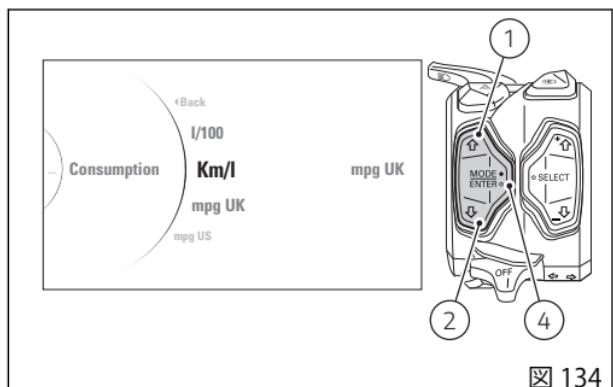


図 134

サービス期限の表示 (Service)

この機能は、Oil Service(キロまたはマイル)、Desmo Service(キロまたはマイル)、Annual Service(日付)の次のサービス期限を通知します。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Service" を選択し、ボタン(4)を押します。

機能に入ると、各種点検ごとに定期点検期限に関する表示が一覧で表示されます。

- Oil Service : OIL SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離(キロまたはマイル)をカウントダウンとロゴを表示します。
- Desmo Service : DESMO SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離(キロまたはマイル)をカウントダウンとロゴを表示します。
- Annual Service : Annual Service 期限の日付とロゴを表示します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

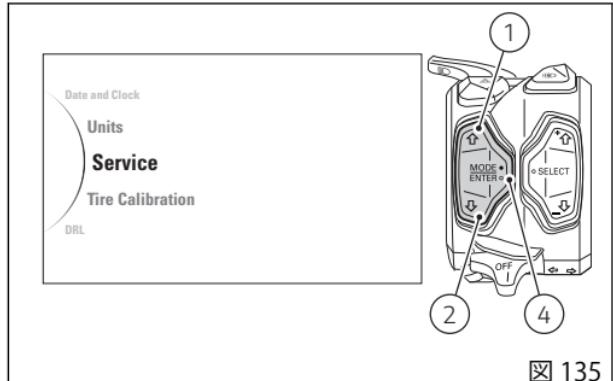


図 135

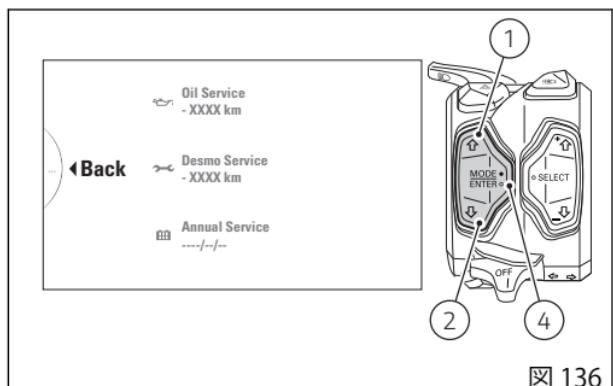


図 136

タイヤおよび減速比のキャリブレーション (Tire Calibration)

この機能でタイヤの円周長と最終減速比のキャリブレーションおよび自己学習の手順を行います。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Tire Calibration" 表示を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。
この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Start
- Default (パラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます)

メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン(1)または(2)を使用して "◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

タイヤと減速比のキャリブレーションを開始するには、"Start" が強調表示されている時にボタン(4)を押します。

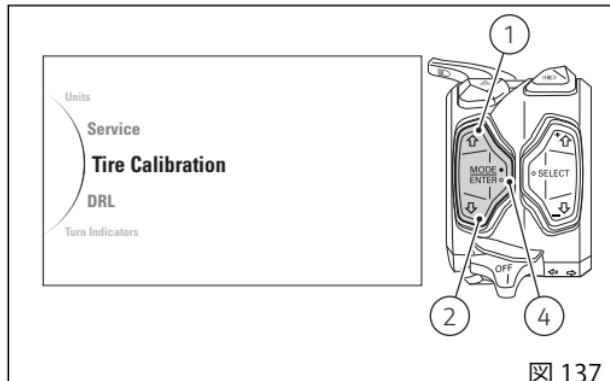


図 137

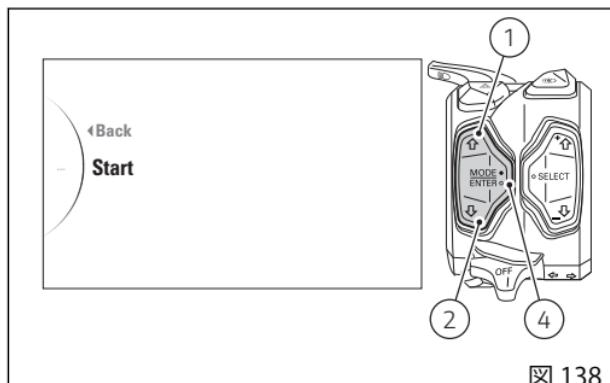


図 138

キャリブレーションプロセスが開始されると、インストルメントパネルには “Ready” の文字が点滅し、“Keep Speed” の文字が表示されます。加えて、自己学習を正常に完了するために維持するべき速度範囲とギアが表示されます。右側には参照しているライディングモード、実速度、ギアが表示されます。

重要

走行速度 48 Km/h (30 mph) ~ 52 Km/h (32 mph) を維持し、ギアを 2速に入れた状態においてのみ自己学習プロセスを実施することができます。

走行速度とギアがディスプレイに指定されている状態になると、システムのキャリブレーションが開始されます。上記すべての情報が表示され、“Ready” の代わりに “In progress” が表示されます。

スピードとギアが指定のパラメーターに 5 秒間維持された時にキャリブレーションが実行されます。

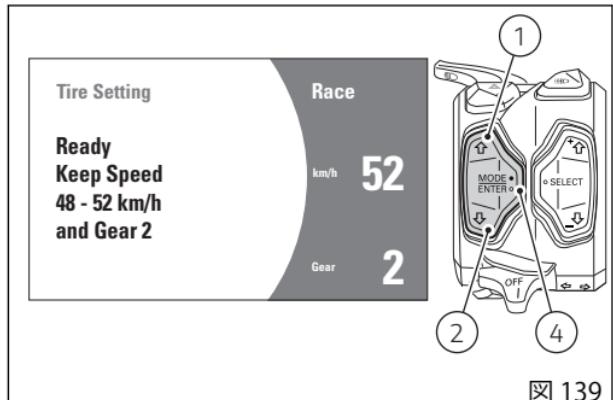


図 139

自己学習プロセスが正常に終了すると、インストルメントパネルに“Completed”的文字が表示され、数秒後に前の画面に戻ります。

参考

キャリブレーションプロセスの途中で走行速度が100 km/h(62 mph)を超えると、キャリブレーションは中断されます。

参考

キャリブレーションプロセス中にボタン(1)を2秒間押すと、キャリブレーションを中止してスタンダード画面に戻ることができます。

ユーザーがキャリブレーションを中止した場合は、インストルメントパネルに“Aborted”的文字が表示され、数秒後に前の画面に戻ります。

一方、キャリブレーションプロセスの途中でエラーや不具合が検出された場合は、インストルメントパネルに“Failed”的文字が表示され、数秒後に前の画面に戻ります。

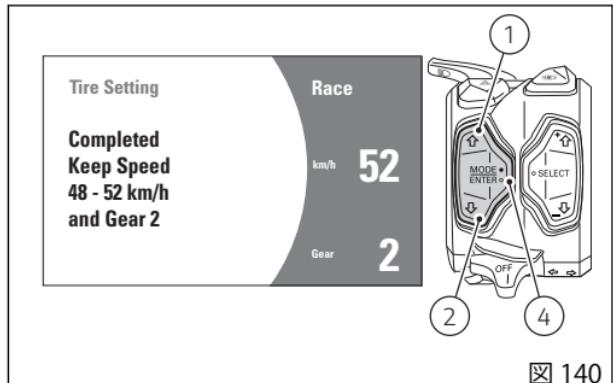


図 140

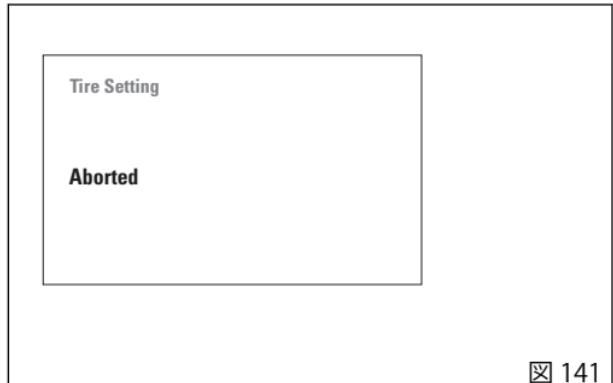


図 141

デフォルト設定を回復するには、ボタン(1)と(2)で "Default" を選択し、ボタン(4)を押してください。この時点でインストルメントパネルには "Default Please Wait..." の文字が表示されます。数秒後に "Default Default Ok" の文字が2秒間表示されて前の画面に戻ります。



参考

キャリブレーションプロセス中に車両を Key-OFF した場合、プロセスは中止され完了せずに終了します。



図 142

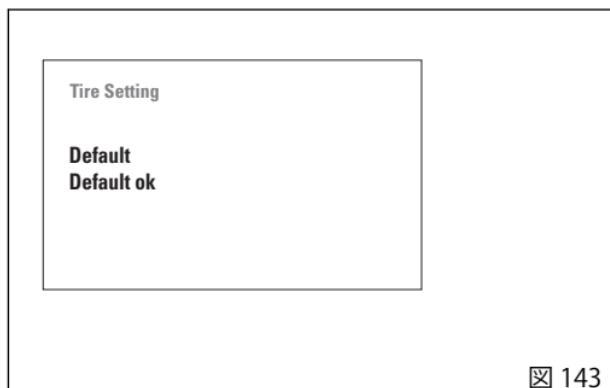


図 143

DRL モード設定 (DRL)

この機能では DRL ステータス : AUTO または MANUAL を選択します。DRL が搭載されている場合にのみ有効です。中国、カナダ、日本バージョンには DRL は装備されません。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
ボタン(1)または(2)を押して “DRL” を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Manual
- Auto
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)を使用して、好みの設定を選択します。

- “Auto” を選択すると、DRL、ハイビームライト、ロービームライトは外光の明るさに応じて昼間モードと夜間モードの間で自動的に切り替わります。
- “Manual” を選択すると、DRL の自動機能を停止します。

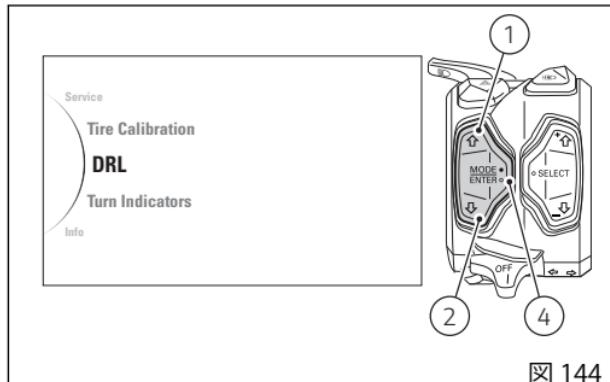


図 144

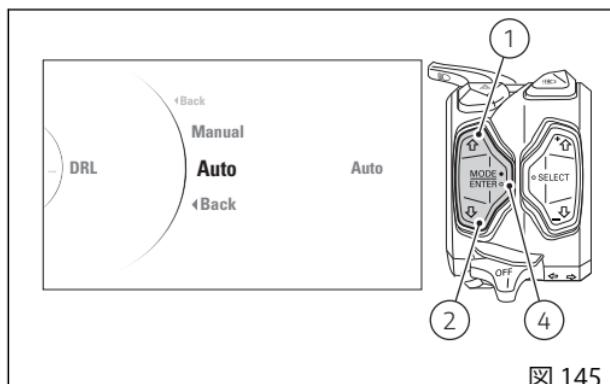


図 145

設定したい表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択したモードを保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



保存した設定 ("AUTO" または "MANUAL") は Key-OFF 後も維持されます。バッテリーが中断した場合 (Battery OFF) は、電源回復後の Key-ON 時にシステムは自動的に "AUTO" モードに設定されます。

Bluetooth デバイス設定 (Bluetooth)

Bluetooth デバイスのペアリングまたはペアリング削除を実行します。Bluetooth コントロールユニットが搭載されている場合に限り、この機能を起動することができます。本モデルには Bluetooth コントロールユニットは標準装備されていませんが、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)および(2)で "Bluetooth" 表示を選択し、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Associated Devices
- Pairing
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)を使用して、希望の機能を選択します。

- "Associated Devices" が強調表示されている時にボタン(4)を押すと、"ペアリングデバイスの表示" の項に記載されているように、ペアリングされている Bluetooth デバイス一覧が表示されます。

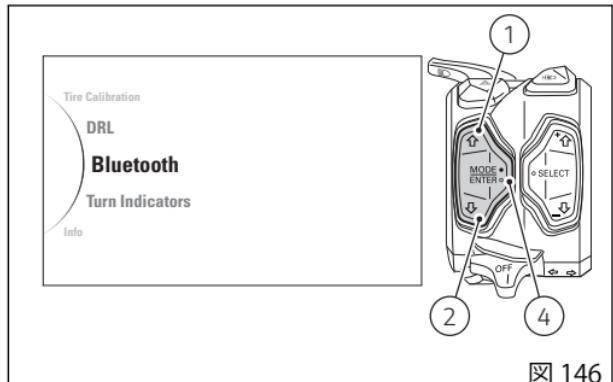


図 146

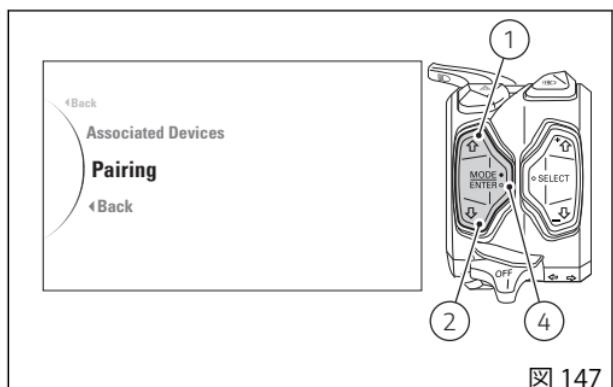


図 147

- “Pairing”が強調表示されている時にボタン(4)を押すと、“新しいデバイスの検索とペアリング”の項に記載されているように、新しくデバイスのペアリングを行います。

新しいデバイスの検索とペアリング

新しいBluetoothデバイスのペアリング手順を実行するには、コントロールユニットが検出してアクセスできるようにデバイス側を設定する必要があります。デバイスの電源を入れ、識別できるようにしてください。

検出モードにあるとき、Bluetoothデバイスはワイヤレスシグナルを送信し他のデバイスから検出されるようになります。このモードは、ペアリングモードと呼ばれることもあります。

車両にはBluetoothコントロールユニットを装備することができます。これによりBluetoothに対応する電子機器間での通信が可能になります。

!**警告**

Bluetoothヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

!**警告**

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更がBluetoothヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット(部品番号：981029498)"に付属しないヘッドセット。
- 必要なBluetoothプロファイルに対応していないスマートフォン("Ducati キット 部品番号：981029498"に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)

!**警告**

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット(部品番号：981029498)ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます(詳しくはDucati キット(部品番号：981029498)に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。



参考

Ducati キット (部品番号 : 981029498) は、
Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお
求めいただけます。

ペアリング手順を実行するには、ボタン(1)および(2)で "Pairing" を選択し、ボタン(4)を押してください。この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Smartphone
- Rider
- Passenger
- Navi
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)で、デバイス検索を開始するデバイスの種類を選択します。デバイスを強調表示したら、ボタン(4)を押します。

メニューを終了するには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

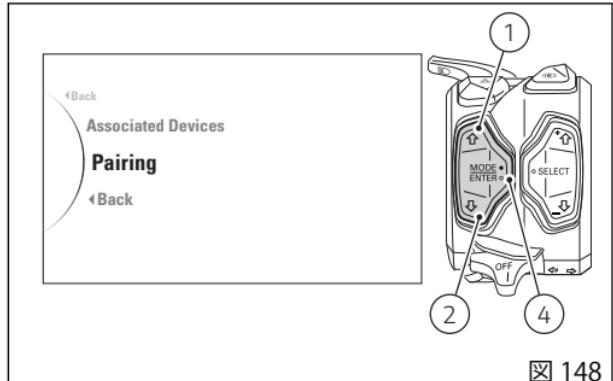


図 148

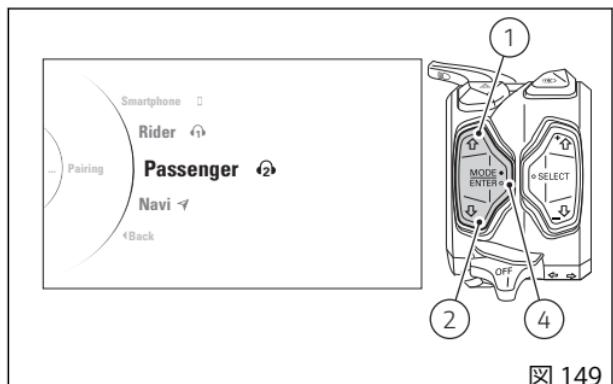


図 149

インストルメントパネルには、各デバイスの種類に対応する以下のアイコンが表示されます。

- Smartphone ☐
- Rider ⚡ (ライダー用インターホン)
- Passenger ⚡ (パッセンジャー用インターホン)
- Navi ↗ (ナビゲーター)

デバイス検索中は、インストルメントパネルに“Wait...”と表示されます。近くにあるデバイスを検出した時点ではペアリングは自動的に終了します。検索には60秒かかります。

検索が終了すると、検索で見つかったペアリングが可能な全デバイスが一覧表示されます。一覧に表示できるデバイス数は最大20台です。



ペアリング中に検出されたデバイス一覧には、Bluetooth ON状態であってもすでにペアリングされているデバイスは表示されません。

ボタン(1)および(2)を使用して、ペアリングするデバイスの表示を選択します。

デバイスを選択したら、強調表示してボタン(4)を押します。

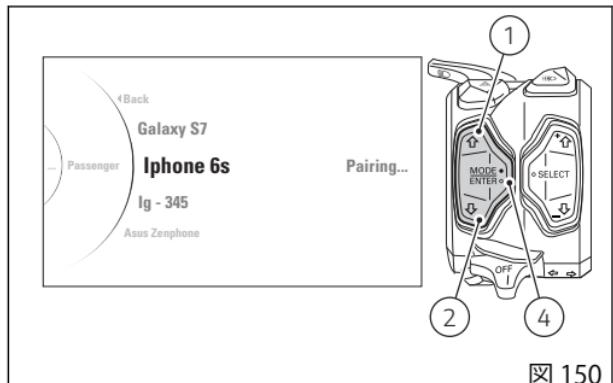


図 150

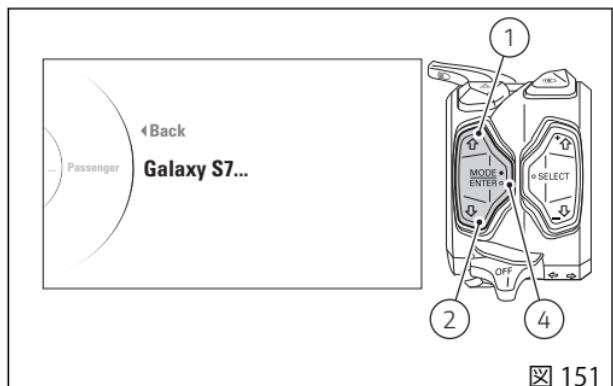


図 151

インストルメントパネルは "Pairing" と表示します。
選択したデバイスのペアリングを決定するには、もう一度ボタン(4)を押します。

ペアリングを実行しない場合は、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

デバイスのペアリングを決定すると、インストルメントパネルは "Wait..." の文字を表示します。

ペアリングが終了すると、デバイスがペアリングデバイス一覧に追加されます。

ペアリングに失敗した場合は、"Pairing Error" の文字が現れます。

Bluetooth ナビゲーターを接続する場合は、ナビゲーター本体側で車両の Bluetooth コントロールユニットとの接続を選択して接続プロセスを完了する必要があります。万一 90 秒以内にユーザーがナビゲーター側のペアリングを完了しない時は、ペアリングプロセスを完了することはできません。

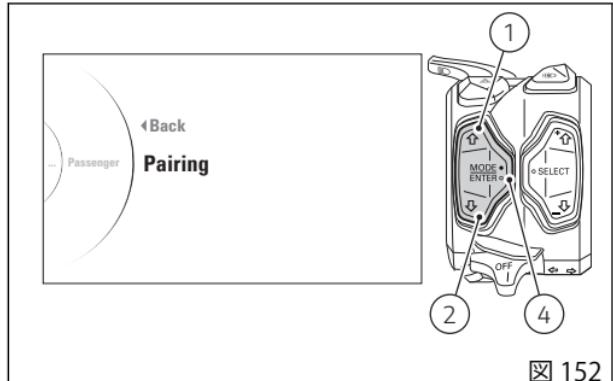


図 152

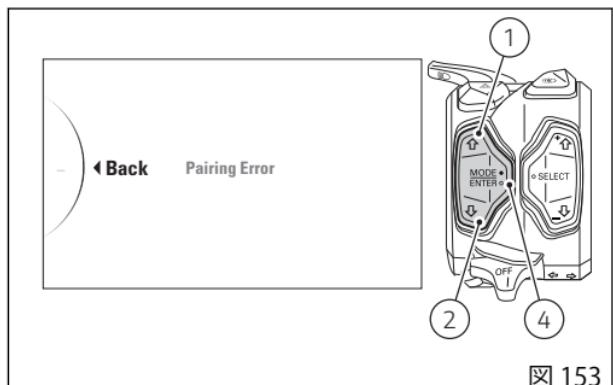


図 153

ペアリングデバイスの表示(Associated Devices)

すでにペアリングされているデバイスを表示するには、設定メニューからボタン(1)および(2)で "Bluetooth" 表示を選択して、ボタン(4)を押します。ボタン(1)および(2)で "Associated Devices" を選択し、ボタン(4)を押します。

ペアリングされている全デバイスが一覧表示されます。一覧に表示できるデバイス数は最大5台です。各デバイスの横には、デバイスの種類を示すアイコンが表示されています。

メニューを終了するには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

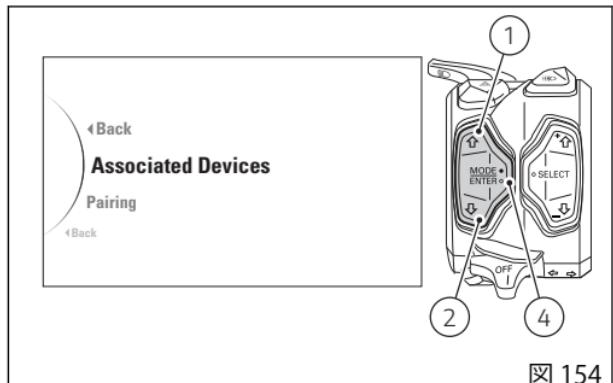


図 154

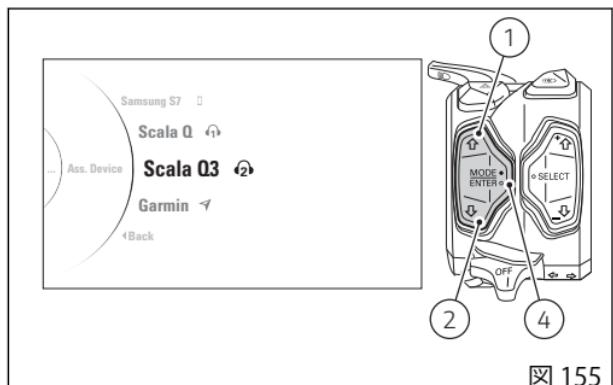
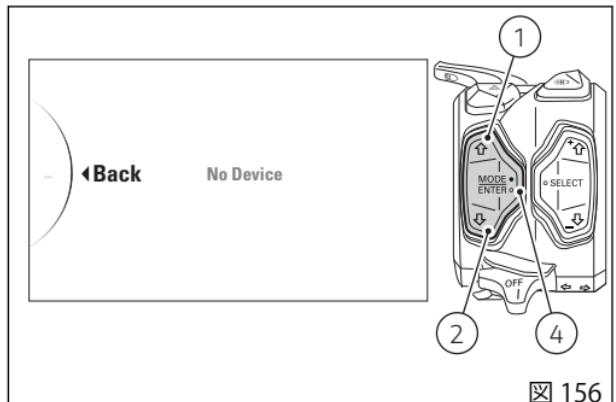


図 155

ペアリングされているデバイスがない場合、インストルメントパネルには "No Device" と表示されます。



ペアリングデバイスの削除

ここではペアリングデバイス一覧からペアリングデバイスを削除することができます。

ペアリングデバイスの表示に入るには、ボタン(1)および(2)で"Associated Devices"を選択し、ボタン(4)を押します。

ボタン(1)および(2)を使用して、一覧から消去したいデバイスを強調して選択します。

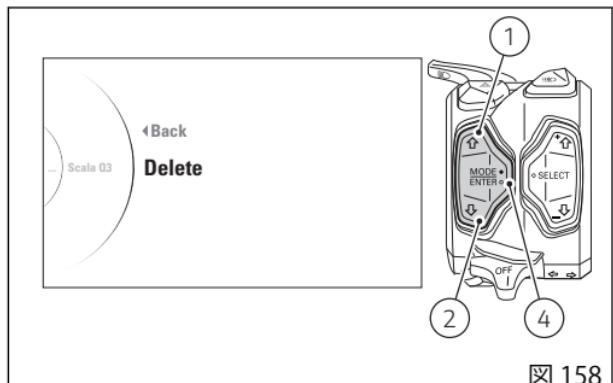
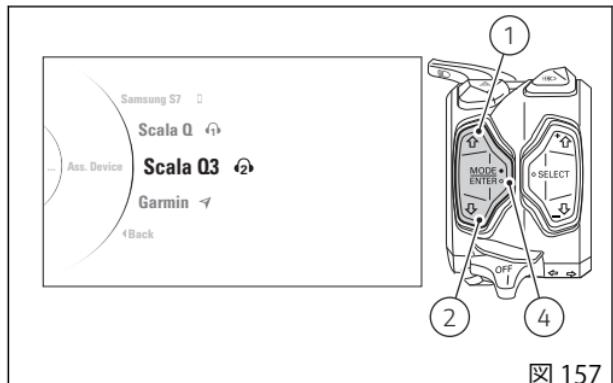
ボタン(4)を押します。

インストルメントパネルに"Delete"の文字が現れたら、もう一度ボタン(4)を押して決定します。

削除を実行しない場合は、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

デバイスの削除を決定すると、インストルメントパネルは"Wait..."の文字を表示します。

削除が終了すると、デバイスがペアリングデバイス一覧から消えます。





警告

以下のキットに付属しないBluetooth対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット



参考

上記Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

DDA

ここではDDA(ドゥカティデータアナライザー)装置の起動および停止、メモリ占有率の表示、メモリ消去を行なうことができます。

DDAに関するページは車体に装置が搭載されている場合にのみ使用することができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)または(2)を押して“DDA”を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

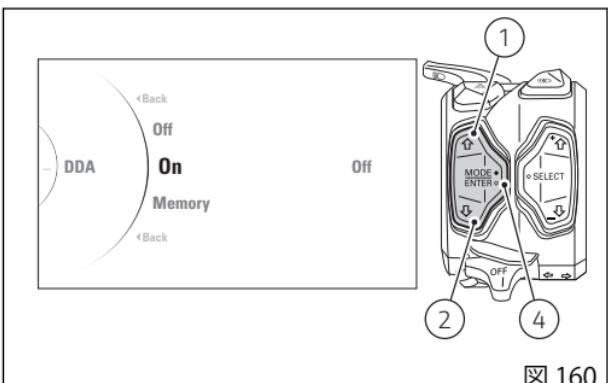
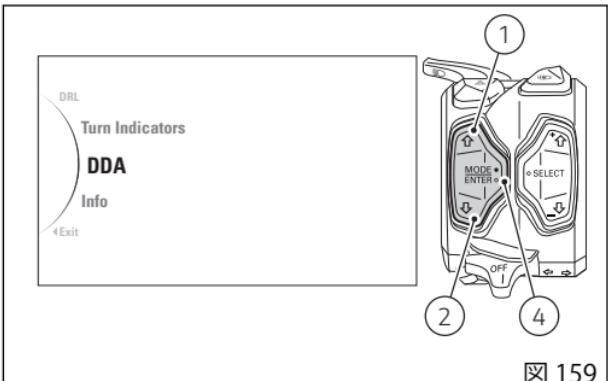
この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Off
- On
- Memory
- ◀ Back

さらに、右側に現在設定されている DDA のステータスが表示されます(例: DDA Off)。

ボタン(1)および(2)を使用して、好みの設定を選択します。

- DDA を停止するには、“Off”を選択してボタン(4)を押します。
- DDA を起動するには、“On”を選択してボタン(4)を押します。



- DDA メモリを表示または消去するには、
“Memory”を選択してボタン(4)を押します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”
の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



参考

Key-OFFする度にDDAシステムはインストルメントパネルにより自動的に解除されます。

"Memory" を選択すると、DDA メモリのデータを表示または消去することができます。
この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Erase (*)

さらに、右側に DDA メモリの状態がパーセントで表示されます。

- バーに何もなく、"Empty 0%" と表示されている場合は、DDA のメモリが空であることを表します。
- バーの一部に色がつき、値がパーセントで表示されている場合、DDA メモリが表示された割合だけ使用していることを表します。
- バー全体に色がつき、"Full 100%" と表示されている場合は、DDA メモリがいっぱいであることを表します。

(*) "Erase" 表示は、DDA メモリが空でない時のみ表示されます。

メモリの消去を実行するには、ボタン(1)またはボタン(2)で "Erase" の表示を選択し、ボタン(4)を押します。

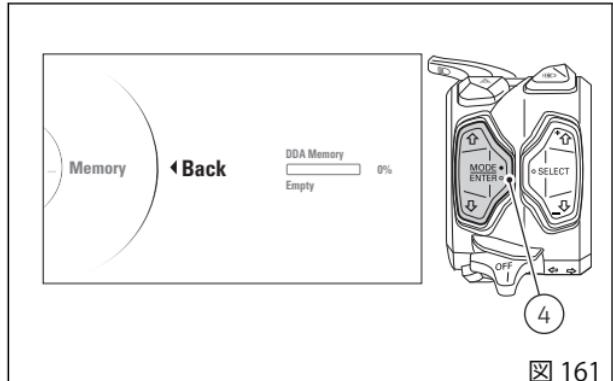


図 161

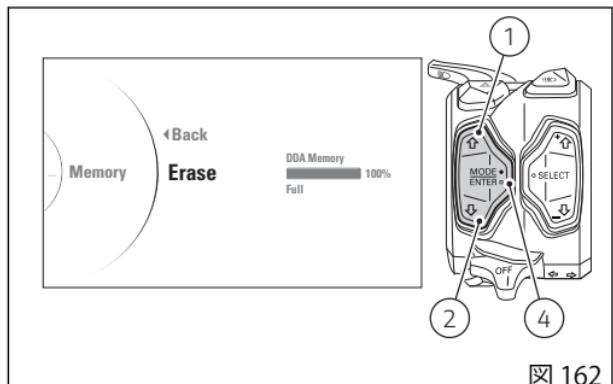


図 162

消去が完了するまでインストルメントパネルに "Wait..." の文字が表示されます。消去するデータ量に応じて消去にかかる時間は異なります。消去が正常に行われると、インストルメントパネルは "ERASE OK" を3秒間表示し、ディスプレイのメモリの状態表示を更新します。消去に失敗した場合、インストルメントパネルはメモリー占有率の表示に戻ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

警告

車両を使用しない時に、DDAを配線のコネクターに接続したまま絶対に放置しないでください。車両のバッテリーが上がってしまう可能性があります。

ターンインジケーター自動解除の操作 (Turn indicators)

この機能では、リーン角度、走行速度、走行距離を基にしたターンインジケーターの自動解除ストラテジーを自動モード(AUTO)、または手動モード(MANUAL)に設定することができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)または(2)を押して“Turn Indicators”を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Auto
- Manual
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)を使用して、好みの設定を選択します。

- “Auto”を選択すると、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーが起動します。
- “Manual”を選択すると、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーを停止します(ターンインジケーターの解除は専用ボタンを使って手動で行うことになります)。

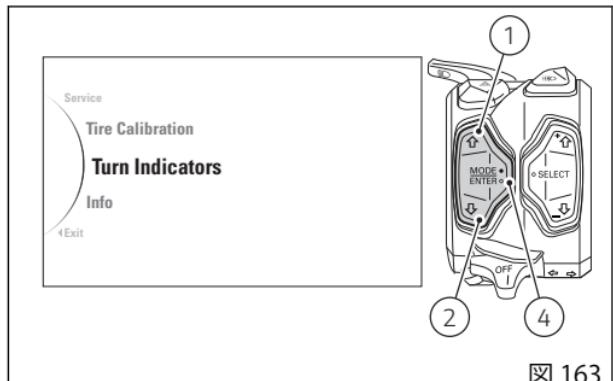


図 163

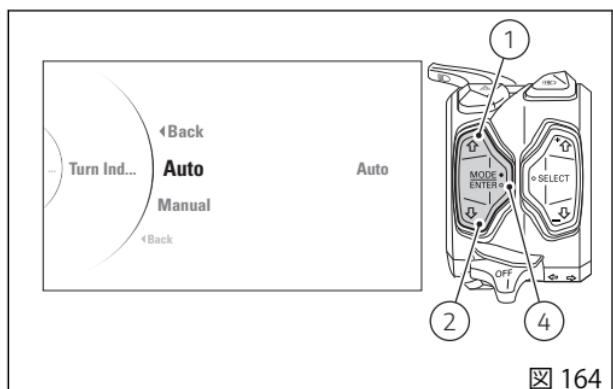


図 164

設定したい表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択したモードを保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

参考

保存した設定 ("AUTO" または "MANUAL") は Key-OFF 後も維持されます。バッテリーが中断した場合 (Battery OFF) は、電源回復後の Key-ON 時にシステムは自動的に "AUTO" モードに設定されます。

参考

ターンインジケーターをハザードモードで点灯している場合は、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーは作動しません。

参考

インストルメントパネルが ABS コントロールユニットのエラーを検出した場合は、自動解除ストラテジーは作動しません (つまり、ターンインジケーターは自動解除されません)。

情報 (Info)

この機能では車両のバッテリー電圧とデジタル表示のエンジン回転数を表示します。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)または(2)を押して“Info”を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

機能に入ると、インストルメントパネルは以下のように表示します。

- “Battery”の文字とバッテリー電圧値
- “rpm”の文字とデジタル表示のエンジン回転数

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

“Battery”情報は以下のように表示されます。

- バッテリー電圧が10.9V以下の場合、“LOW”的文字が赤色で点滅します。
- バッテリー電圧が11.0Vから11.7Vの場合、電圧データが赤色で点滅表示されます。
- バッテリー電圧が11.8Vから14.9Vの場合、電圧データが固定表示され、通常の背景にバッテリーのアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が15.0Vから16.0Vの場合、電圧データが赤色で点滅表示されます。

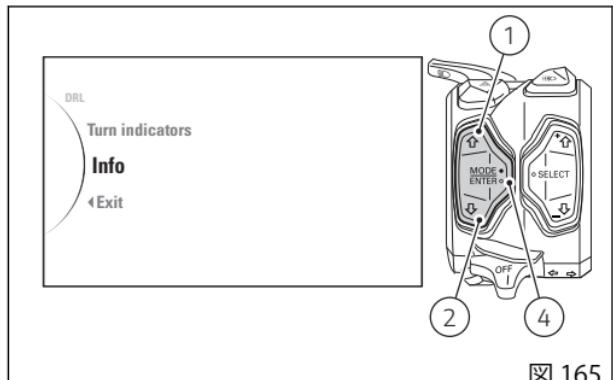


図 165

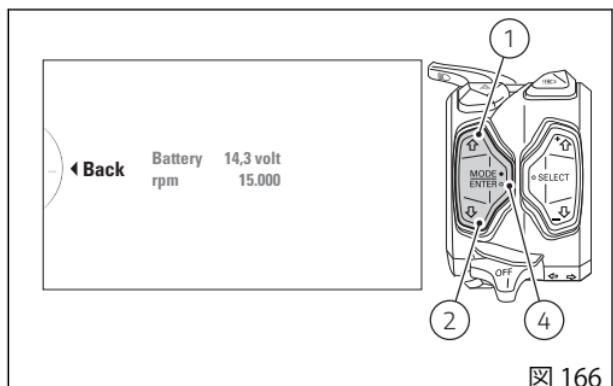


図 166

- バッテリー電圧が 16.1 V 以上の場合、"HIGH" の文字が赤色で点滅します。

エンジン回転数をデジタル表示する "rpm" 表示は、アイドリング調整時により正確な値を得るために使用することが推奨されます。

ディスプレイにエンジン回転数情報が 50 rpm 単位の数字で表示されます。

インストルメントパネルが回転数データを受信していない場合、点線 "----" が表示されます。これは値が表示できないことを示しています。

ローンチコントロール (DPL)

この機能は、ドゥカティパワーローンチ (DPL - Ducati Power Launch) 機能を起動します。

ボタン(12)を押してローンチコントロールメニューに入ります。この操作は走行速度が5 Km/h (3 mph)以下の場合にのみ有効です。

ローンチコントロールメニュー内では、ボタン(1)および(2)を使用して好みのDPL レベル(1、2、3)を選択することができます。一方、ボタン(4)を2秒間押して、選択したレベルを設定します。



参考 このメニュー内で10秒間変更が行われなければ、インストルメントパネルはDPLをOFFに設定し、前の画面に戻ります。

Available launches: 2

^
DPL on - Level 1
v

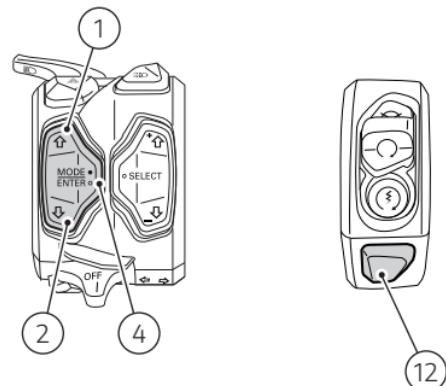


図 167

DPL レベルが設定されると、待機画面が 1 秒間表示されます(図 168)。待機画面の表示中にボタン(4)を押すと待機フェーズが中断され、インストルメントパネルはメインスクリーンに戻ります。この場合、DPL は OFF に設定されます。

続いて "ローンチコントロール" 画面が表示されます(図 169)。

ローンチコントロールが終了するとインストルメントパネルは DPL を OFF に設定し、“メインスクリーン”に戻ります。

ドゥカティ社の DPL 初期設定は OFF に設定されています。

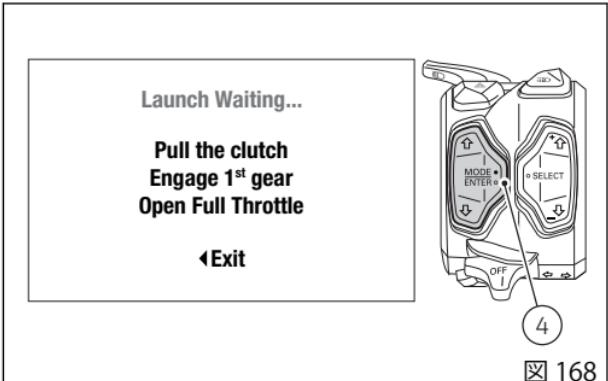


図 168

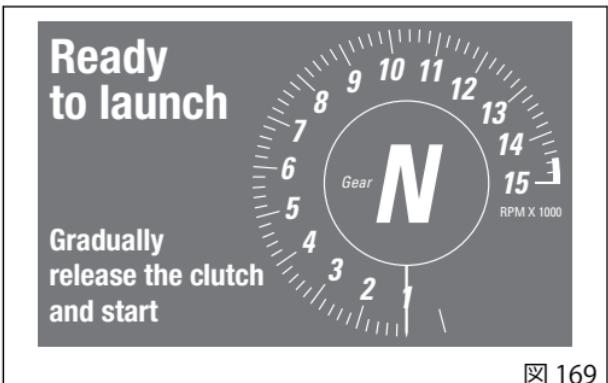


図 169



参考
DTC が "OFF" に設定されている場合、DPL 機能を起動することはできません。

DTC が OFF に設定されている場合にボタン(12)を押すと、インストルメントパネルには "DTC OFF – DPL NOT AVAILABLE" が 5 秒間表示されます。5 秒が経過すると、メインスクリーンに戻ります。



参考
DPL メニューに入った時にインストルメントパネルがコントロールユニットのエラーを検出した場合、その時点で起動している表示に関係なく "LAUNCH CONTROL ERROR" の文字が 3 秒間点滅し、その後メインスクリーンに戻ります。

DTC off
DPL not available

◀Exit

図 170

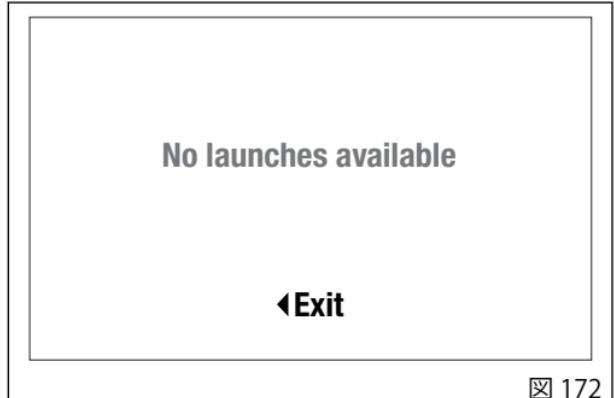
Launch Control Error

◀Exit

図 171



参考
利用可能なローンチがない場合、"NO LAUNCHES AVAILABLE" が画面に表示されます。



ドゥカティパワーローンチ (DPL) システムは、車両の出力を制御することを目的として、停止状態からの急発進時にライダーの微妙な操縦を可能にしてくれます。

DPLシステムは3つの介入レベルを基に機能します。各レベルでスタート時のアシストに対して異なる値が設定されています。

下表は、発進時の運転タイプに適したDPL介入レベルを示します。すべてのレベルは標準装備のOEM タイヤに合わせて最適化されています。

DPL レベル	パフォーマンス	用途
1	High	非常に熟練したライダー向けに最大のパフォーマンスを發揮。システムはウィリーおよびリアホイールのスリップを可能にしますが、これらの現象発生時の速度を抑えます。
2	Medium	熟練ライダー向け。 システムはウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を軽減するだけでなく、これらの現象が発生した場合には大幅な介入を行います。
3	Medium	すべてのライダー向け。 システムはウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を最小限に抑えるだけでなく、これらの現象が発生した場合には継続的に介入を行います。

警告

DPLシステムは、路面のグリップが良好な状態の直線および平坦なルートでのみ使用してください。DPLシステムは整備された環境またはクローズドサーキット内での使用を考慮しています。このため、安全上の理由から不適切な場所での使用はしないでください。

発進方法

発進操作は、主に次の二段階に分けられます。

- 第一段階は、クラッチを完全に放していない状態。この状態において地面に伝達されるトルクは、クラッチの位置および滑りに依存します。
- 第二段階は、クラッチを完全に放した状態。この状態において地面に伝達されるトルクは、エンジンが输出するトルクに依存します。

DPLシステムは停止状態からの発進時の第一段階にエンジンから出力されるトルクを自動的に調整してライダーをサポートする補助システムです。発進時の理想のエンジン回転数を維持することで、ライダーは急激なクラッチ操作ではなく、均一でソフトなクラッチ操作が可能になります。エンジントルクは第二段階においても調整されます。これにより、最大の出力を確保

しながらウィリーおよびリアホイールのスリップを制限します。

クラッチの損傷を避けるため、DPLシステムは連続して実行可能な発進回数をリアルタイムで算定し、インストルメントパネルの専用メニューに表示します。発進完了ごとにカウントが1減少します。DPLシステムでは、車両の走行距離およびエンジン稼動/停止状態で経過した時間に応じてカウントが1増加します。発進可能回数がゼロでない限り、ローンチコントロールの使用が可能です。

警告

DPLシステムの使用により、エンジンおよびトランスマッisionの機械部品の寿命が短くなる場合があります。

DPLシステムは、エンジンが動作温度に達した時にのみ使用してください。

DPLのローンチコントロールを実行するには、車両が以下の条件を満たしていかなければなりません。

- 走行速度 0 km/h
- 垂直姿勢
- エンジン作動
- DTCステータス ON

ローンチコントロールの残りカウントがゼロでない限り、ライダーは専用ボタンで関連メニューにアクセスし、インストルメントパネルで希望のDPL レベルを選択することができます。

レベルを選択したら、ライダーはまずクラッチを引きます。1速ギアに入れ、スロットルグリップを最大位置まで完全に開きます。

上記の一連の操作が実行されると、DPL システムはシステムのスタート準備が整ったことを知らせる確認画面をダッシュボードに表示します。

その後、スロットルグリップを完全に開いた状態でクラッチを徐々に離します。

走行速度が 20 km/h を超えた時、インストルメントパネルの表示は通常機能の画面に戻ります。ただし、発進の間は選択されている DPL レベルが常に表示されます。

クラッチが完全に解放された後で以下の条件のいずれかが検知されると、DPL システムは OFF になります。

- 走行速度が 160 km/h を超えた
- 3速ギアが入れられた

クラッチが完全に解放された後、ライダーが発進操作の中止した場合、すなわちスロットルを閉じて走行速度を 5 km/h 未満に減速した場合にも、DPL システムは OFF になります。



警告

システムはエンジンからの出力を管理しますが、クラッチを放す操作は管理しません。クラッチ操作はユーザーが制御します。

発進段階でクラッチを急激に放すと、車両の最適な動作を維持できません。また、クラッチ操作に長時間かけすぎると、クラッチが過熱し、クラッチの損傷につながるおそれがあります。



警告

ユーザーの車両上のポジションがシステムの動作に影響を与える場合があります。

レベルの選択に際しての注意事項

レベル 3 を選択すると、DPL システムは発進時のウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を最小限に抑えるように加入します。レベル 2 および 1 ではシステムの介入は少なくなります。

各自の運転に最も適した DPL レベルを見つけるには、システムを起動してまずレベル 3 を選択し、システムの特性を理解するために実際に発進します。その後、最善の介入レベルになるまでレベル 2、1 の順に試してください。

標準装備のOEM タイヤ以外のもので、標準装備のタイヤとはサイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合は、システムの機能が影響を受ける可能性があります。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

警告

DPLはライダーをアシストするシステムです。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えて、合理的に許容されるスピードを超えて走行するような運転に寄与するシステムではありません。

ラップタイム (LAP Time)

LAP 機能は TRACK 表示モードでのみ表示されます。LAP 機能に関する情報は、機能メニューまたは設定メニューからこの機能を起動した場合に表示されます。TRACK モードのスクリーンを選択すると、LAP 機能が自動的に表示されます。LAP 機能を起動すると、ストップウォッチが "0'00'00" を表示し、LAP 数は "LAP --" で表示されます。

FLASH ボタン(3)を押すと、10分の1秒 ("0'00'0") 単位でストップウォッチがカウントを始め、周回中のラップ数が表示されます。これらの情報は最初の1秒間点滅し、その後固定表示に変わります。

FLASH ボタン(3)を押す度に、直前周回のラップ数、ラップタイムが1秒間点滅表示されてから、さらに5秒間固定表示されます。ラップタイムがこれまでの最速タイム (Best Lap) であれば、直前周回のラップ数とラップタイムが6秒間点滅表示されます。その後、インストルメントパネルは進行中の新しい周回のラップ数の表示に戻ります (図 174)。

ストップウォッチが起動しても車両が停止している場合、5秒後にストップウォッチの機能がストップし、ストップウォッチは初期表示 "0'00'00" およびラップ数 "LAP --" に戻ります。その後 FLASH ボタン(3)を1回押すと、再度ストップウォッチが起動します。

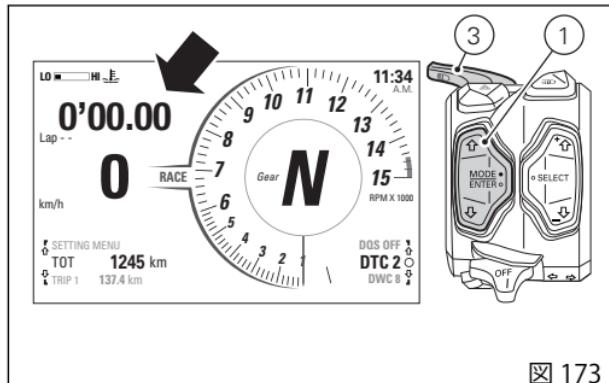


图 173

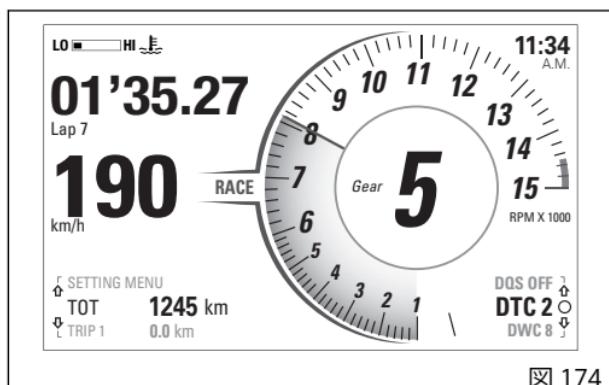


图 174

 参考

LAP 機能が起動中、FLASH ボタンはハイビームの点滅とストップウォッチのラップ Start / Stop 操作(新しい周回の開始指示)の両方に使用します。

連続して 15 周回までラップタイプを記録することができます。

ラップ数は 01 から 15 まで順番に表示されます。記録が 15 周に達すると、FLASH ボタン (3) を押した時に "FULL" の文字が表示されます。

LAP 記録を削除するには、設定メニューの「LAP」ページ 0 の項を参照してください。

各ラップについて、ラップタイム、最高回転数(rpm)、最高スピードが記録されます。

インストルメントパネルは以下の情報を記録します。

- 15 周分のラップタイム(連続したスタートとストップ間のタイム)
- 15 周分の最大 RPM 値(各ラップの最大 RPM 値)
- 15 周分の最高スピード(各ラップの最高スピード)

インフォテインメント

Panigale V4は、Bluetoothコントロールユニットを装備している場合に限り、ドゥカティマルチメディアシステム(DMS)を搭載することができます。本モデルにBluetoothコントロールユニットは装備されていません。DMSシステムはBluetoothテクノロジー対応ヘッドフォンを用いて着信通話のほか、音楽を聴いたりSMS受信通知を受け取ったりすることができます。本モデル用のBluetoothコントロールユニットは、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

参考

Ducati Link (iOSおよびAndroid用)アプリをスマートフォンにダウンロードすると、さらに豊富なサービスを利用することができます。その中には、ルート保存、車両データの保存、定期点検データの閲覧、車両パラメーターの設定など、他にも多数用意されています。

インストルメントパネルにはインフォテインメント機能の状態、すなわちBluetoothの起動および接続デバイス(スマートフォン、ヘッドセット、ナビゲーター)を表示します。

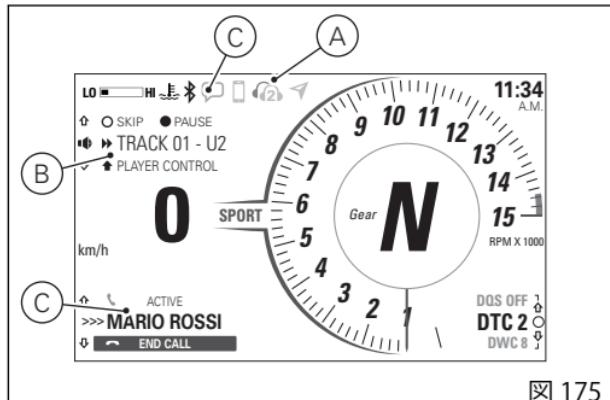


図 175

Bluetoothが起動しているときは、メインスクリーンにBluetoothアイコンが表示されます。
またインフォテインメントの各機能は、専用メニューで確認することができます。

- 接続デバイス (A)
- プレーヤー (B) は ROAD 表示モード (Info Mode) (でのみ表示されます)。
- 携帯電話 (C)

Bluetoothが起動している場合は、Bluetoothアイコンのほかに以下のペアリングデバイスまたは接続デバイスについても表示します。

- 1) 接続スマートフォン
- 2) ライダーヘルメットの接続ヘッドセット
- 3) パッセンジャーヘルメットの接続ヘッドセット
- 4) ライダーヘルメットの接続ヘッドセットとパッセンジャーヘルメットのペアリングヘッドセット
- 5) パッセンジャーヘルメットの接続ヘッドセットとライダーヘルメットのペアリングヘッドセット
- 6) ライダーヘルメットの接続ヘッドセットとパッセンジャーヘルメットの接続ヘッドセット
- 7) 接続 Ducati ナビゲーター

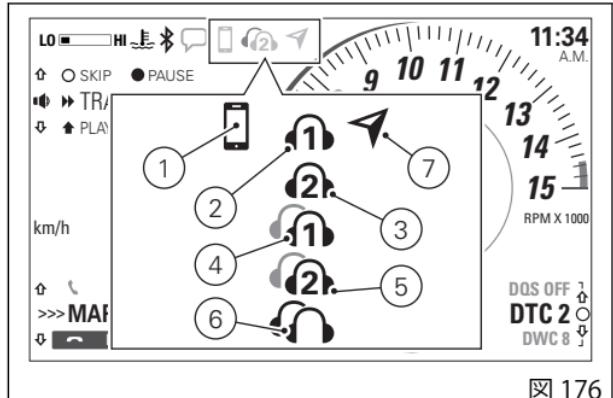


図 176

通常、アイコンがグレーで表示される場合、デバイスはペアリングされていますが接続されていないことを示します。デバイスが接続されている場合は、アイコンがブルーで表示されます。

デバイスは最大4台まで接続が可能です。

携帯電話

電話機能を用いて以下の操作が可能です。

- ボタン(1)、ボタン(2)、ボタン(4)を使用して、着信を管理します。
- 通話終了後5秒以内に、最後に通話していた番号へかけ直すことができます(リコール機能)。
- CALLS機能から最近の7通話の番号へかけ直すことができます(ページ99)。

参考

機能ボタンで電話帳に登録されている氏名/電話番号を選択して電話をかけることはできません。

ボタン(1)を押して着信を受けます。

ボタン(2)を押すと通話を拒否します。

ボタン(2)を押して受けた通話を終了します。

着信時にプレーヤーが作動している場合、通話中はプレーヤーが一時停止になり、通話が終わると再開します。

電話をかけ直すことができるリコール機能を表す枠が、通話終了後5秒間表示されます。5秒が過ぎると、リコール機能枠は解除されます。

リコール機能を使うには5秒以内にボタン(1)を押します。

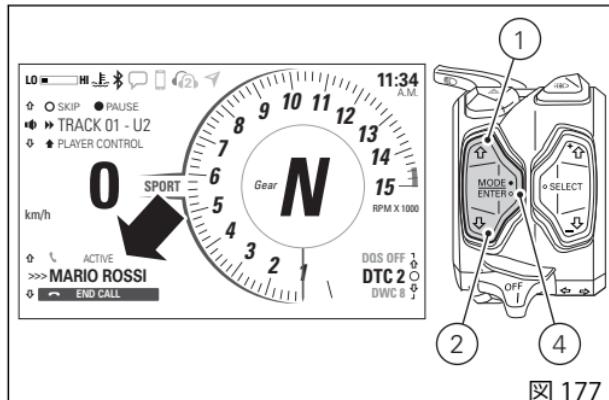


図177

参考

別の通話中の時は、インストルメントパネルに不在着信マークが表示されます。通話中の通話表示は不在着信の表示より優先されます。

スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに応答しなかった着信がある場合は、不在着信マークが表示されます。

不在着信の相手番号は表示されません。

スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに未読の SMS/MMS/EMAIL がある場合は、未読メッセージのマークが表示されます。

未読メッセージ数は表示されません。

両方のマークが3秒間点滅し、インストルメントパネルに57秒間点灯します。

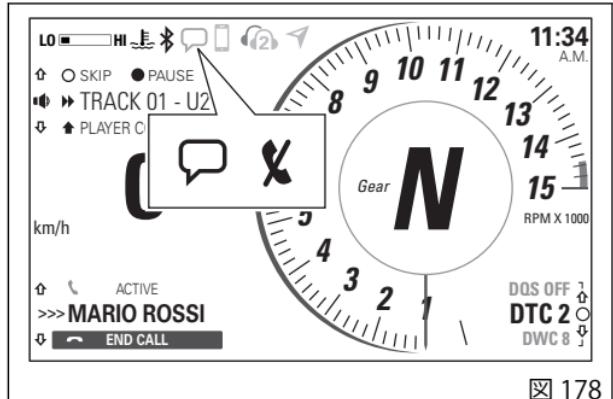


図 178

プレーヤー

スマートフォンが接続されている時は、機能メニュー内に "PLAYER" 機能が表示されます。

ROAD モード (Info Mode) の時のみ、ボタン(1)またはボタン(2)で機能メニュー内の機能をスクロール表示し、PLAYER 機能を表示します。

プレーヤーが起動していない場合、インストルメントパネルは "PLAYER OFF" の文字を表示します。

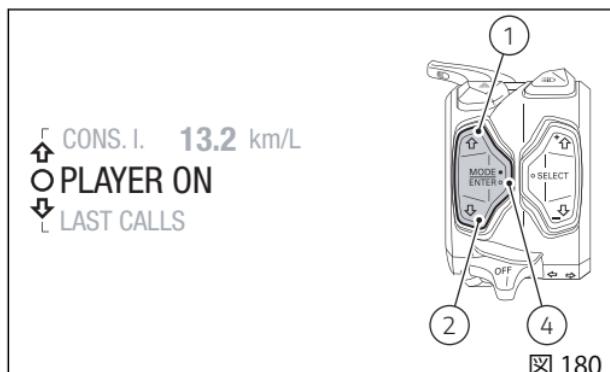
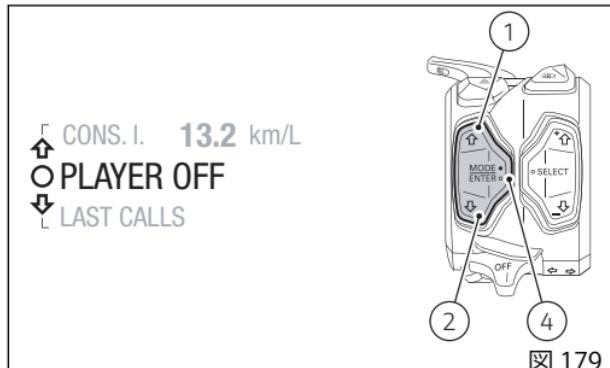
起動するにはボタン(4)を押します。インストルメントパネルは "PLAYERON" の文字を表示し、スピード表示の上にプレーヤーメニューが現れます。

プレーヤーメニューの表示を解除するには、ボタン(2)を 2 秒間押します。

プレーヤーが起動している場合は、インストルメントパネルに "PLAYER ON" の文字が表示されます。

プレーヤーメニューを表示するには、ボタン(1)を 2 秒間押します。

ボタン(4)を押してプレーヤーを停止すると、インストルメントパネルは "PLAYER OFF" を表示します。



参考

着信中、通話中、およびリコール中はプレーヤー機能を起動することはできません。スマートフォンの接続が解除された場合、プレーヤーはオフになります。

プレーヤーが ON でプレーヤー操作内にいる時は(図 181)、ボタン(1)、ボタン(2)、ボタン(4)はプレーヤー操作専用ボタンになります。

- 音量大：ボタン(1)を1回押します。
- 音量小：ボタン(2)を1回押します。
- 一時停止 / 再生：ボタン(4)を2秒間押します。
- 次の曲をスキップ：ボタン(4)を1回押します。
ボタンを押すごとに次の曲に移ります。

プレーヤーを ON にしたままでプレーヤー操作(プレーヤーメニュー)を終了するには、ボタン(2)を2秒間押します。インストルメントパネルは機能メニューの“PLAYER ON”的表示に戻り、プレーヤーメニューの表示を解除します(図 181)。

プレーヤー操作から出ると、

- プレイヤーと音量をインストルメントパネルから操作することはできなくなります。
- ボタン(1)、ボタン(2)、ボタン(4)は通常の機能に戻ります。

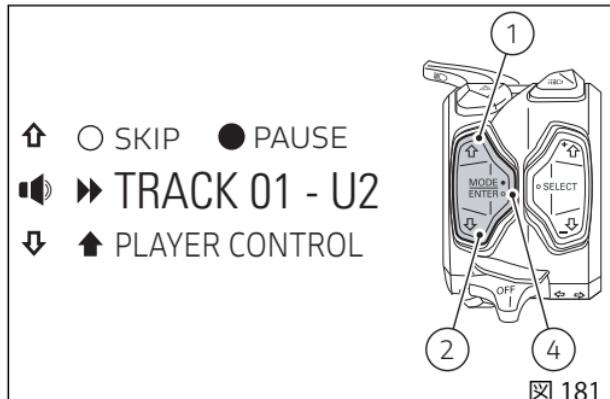


図 181

プレーヤーメニューから出た後にプレーヤーを停止するには、ボタン(4)を押します。インストルメントパネルは“PLAYER OFF”的文字を表示します(図 179)。

よくある質問と回答 (FAQ)

1) Eメール受信通知を受け取れません。

メール受信の通知は、携帯電話のネイティブアプリケーションに設定されている場合にのみ受け取ることができます。また、携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。

対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります(端末の OS により異なる)。

2) SMS 受信通知を受け取れません。

携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。

対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります(端末の OS により異なる)。

3) ヘッドセットを接続できません。どうしてですか?

一回ペアリングを行っている場合は、ヘッドセットを一度リセットして再び車両とのペアリングを実施してください(ヘッドセットの取扱説明書参照)。

4) 着信時、インストルメントパネルには発信者の番号は表示されますが、発信者名は表示されません(電話帳に保存している場合も含む)。

携帯電話が PBAP プロフィールに対応していることを確認してください。

対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、携帯電話の電話帳へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります(端末の OS により異なる)。

5) インストルメントパネルからプレーヤーを起動しても、音楽がスタートしません。

プレーヤーの起動は携帯電話の設定に依存します。この場合は、インストルメントパネルからプレーヤーを起動したのち、スマートフォンから音楽再生アプリを起動してください。

6) 音楽の音が飛ぶことがあります。

デバイスの接続が悪いと、Bluetooth コントロールユニットがまだデバイスとの接続を完了しようとしているままになる場合があります。また、PBAP プロフィールおよび MAP プロフィールが有効でなければなり

ません。iOS の場合は、項目 7) を参照してください。
Android の場合は、項目 2)、4) を参照してください。

**7) iPhone ではメッセージ受信通知を受け取れません。
どうしてですか？**

「設定」メニューの「Bluetooth」を選択してください。「デバイス」リスト内から「Ducati Media System」の横にある「i」を選択してください。通知の表示を有効にします。

DRL 自動モード表示

この機能は DRL が “AUTO” または “MANUAL” のいずれに設定されているかを示します。

設定メニューから DRL 制御モードを変更することができます。詳しくは “設定メニュー - DRL モード設定 (DRL)” を参照してください。

DRL が “AUTO” に設定されている場合：

- ロービームライトが点灯し、DRL が消えているときは、(1、図 183) が表示されます。
- ロービームライトが消灯し、DRL が点灯しているときは、(2、図 183) が表示されます。デイモードでは背景が緑色に、ナイトモードでは表示が緑色に表示されます。

DRL が “MANUAL” に設定されている場合：

- ロービームライトが点灯し、DRL が消えているときは、何も表示されません。
- ロービームライトが消灯し、DRL が点灯しているときは、(3、図 183) が表示されます。デイモードでは背景が緑色に、ナイトモードでは表示が緑色に表示されます。

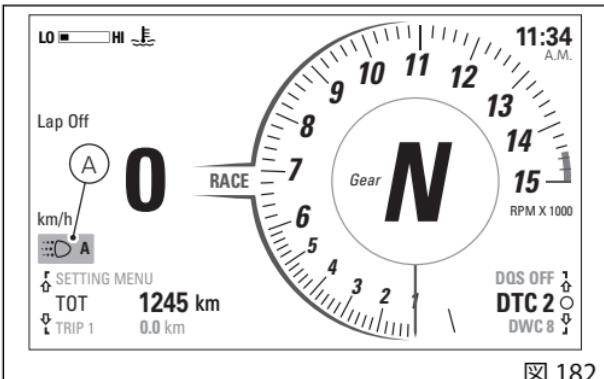


図 182



図 183

OIL SERVICE ゼロの表示

最初のメンテナンス表示は、OIL SERVICE ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km (600 mi) に達すると表示され、Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。

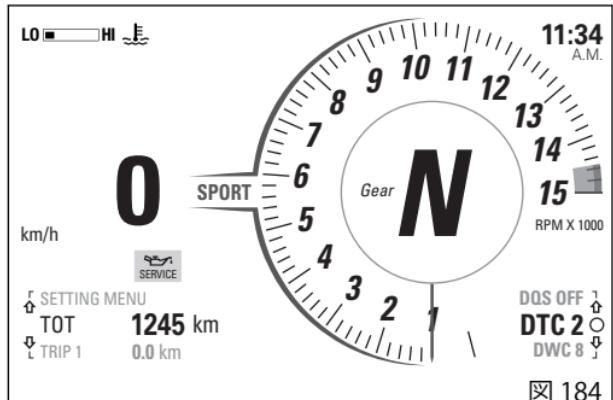


図 184

OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE 表示

メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、次のおうち必要なメンテナンスが表示されます。

- OIL SERVICE (A)
- ANNUAL SERVICE (B)
- DESMO SERVICE (C)

実施するメンテナンスの種類が赤色で表示されます。その後 Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。

設定メニュー内にサービス期限を表示することができます (Oil Service : キロまたはマイル、Desmo Service : キロまたはマイル、Annual Service : 年/月/日)。詳しくは「サービス期限の表示 (Service Info)」をご覧ください ページ 176。

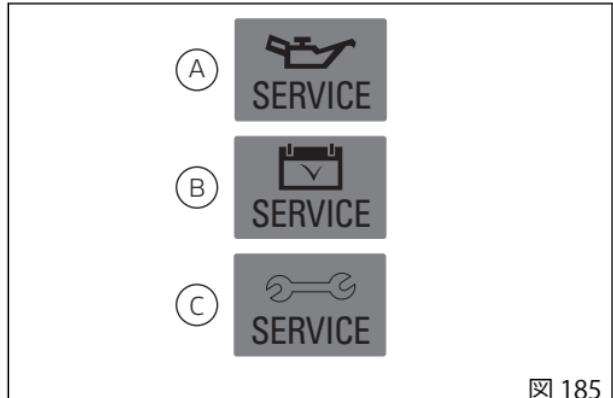


図 185

OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE カウントダウン表示

OIL SERVICE ゼロ (1000 km - 600 mi) 表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルはKey-ONごとに以下の表示を黄色で 5 秒間表示します。

- 定期点検までの走行距離が 1000 km (600 mi) を切ると、OIL SERVICE (A) の表示と走行距離カウンター(キロまたはマイル)が、オドメーター(TOT)の代わりに表示されます。
- ANNUAL SERVICE (B) の表示と定期点検までの残りの日数カウンターが、オドメーター(TOT)の代わりに表示されます。
- 定期点検までの走行距離が 1000 km (600 mi) を切ると、DESMO SERVICE (C) の表示と走行距離カウンター(キロまたはマイル)が、オドメーター(TOT)の代わりに表示されます。

設定メニュー内にサービス期限を表示することができます (Oil Service : キロまたはマイル、Desmo Service : キロまたはマイル、Annual Service : 年/月/日)。詳しくは「サービス期限の表示 (Service Info)」をご覧ください ページ 176。

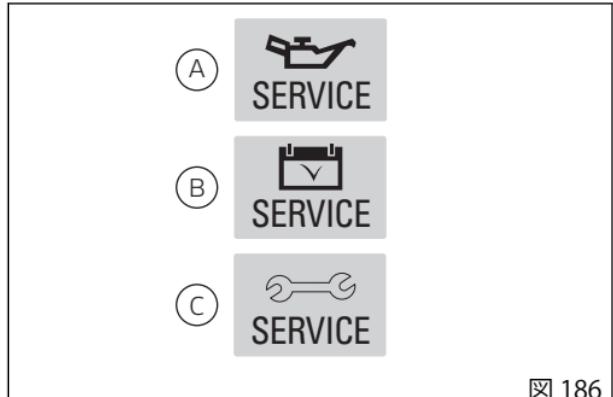


図 186

注意 / 警告 (WARNING)

車両使用中にユーザーに有用な情報を提供するため、インストルメントパネルは一連の注意/警告 (warnings) を管理します。

KEY-ON 時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が表示されます。

車両の通常作動時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が自動的に表示されます。警告が検知されると最初の3秒間はっきりと表示され(大きいアイコン)、その後小さく表示されます(小さいアイコン)。

複数の警告が検知された場合、各警告アイコンが3秒ずつ順番に表示されます。

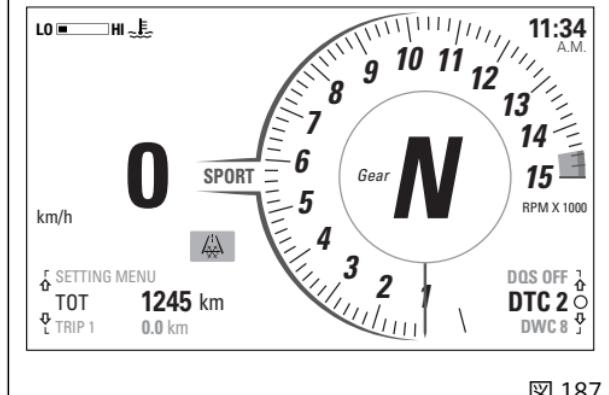
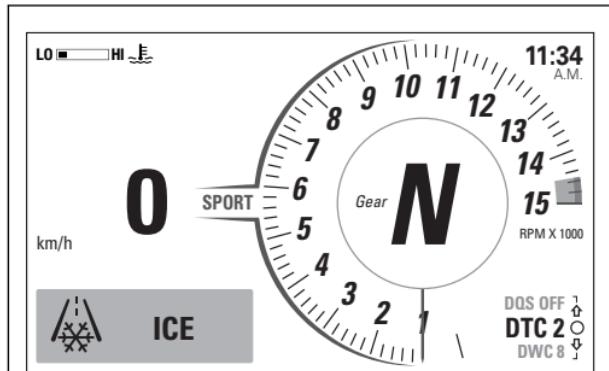


図 187

路面凍結警告表示 (ICE)

この機能では、外気温が低いため路面凍結の危険があることを表示します。

温度が 4° C (39° F) に下がると表示され、 6° C (43° F) に上がると表示が消えます。



警告

気温が 4° C (39° F) 以上でも道路が氷結している可能性があります。外気温が "低い" 時、特に日陰や橋の上では細心の注意を払って運転してください。



ICE



図 188

バッテリーレベルLOW(LOW BATTERY)インジケーター

この機能は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを通知します。

バッテリー電圧が11.0V以下になると表示されます。



参考

この場合、車両を始動できなるおそれがありますので、正規チャージャーで速やかにバッテリーを充電してください。

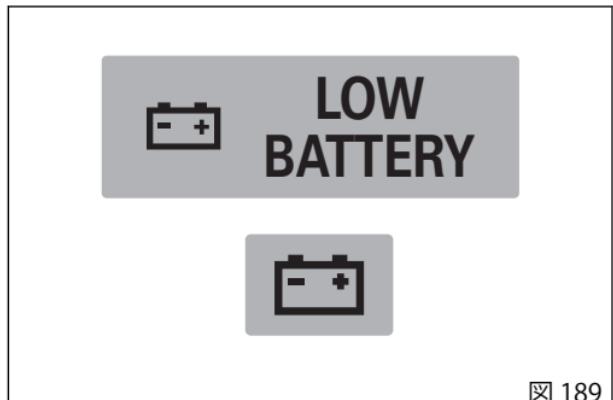


図 189

日付の入力

この機能は設定メニューから日付を入力する必要があることを通知します。



参考

この場合は一旦停車し、"日付の設定 (Date and Clock)" 機能から日付を入力してください。

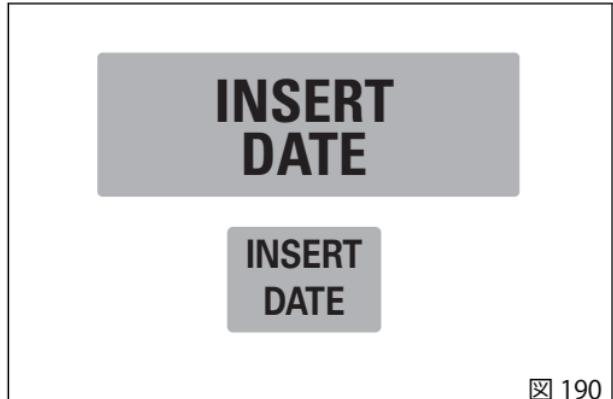


図 190

ABS Front Only (ABS フロントのみ)

この警告は、ABS が前輪のブレーキングのみを制御する設定になっているため、運転には細心の注意を払う必要があることを示します。

ABS を介入レベル1に設定した場合に、この警告が点灯します。



警告

この場合、運転およびブレーキングに細心の注意を払うようしてください。



図 191

エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。

車両のKey-ON時にエラーが検知されると、インストルメントパネルには MIL ランプ (A) もしくは一般的エラー警告灯 (B) が点灯します。

車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルには MIL (B) ランプもしくは一般的エラー警告灯 (A) が点灯します。



警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

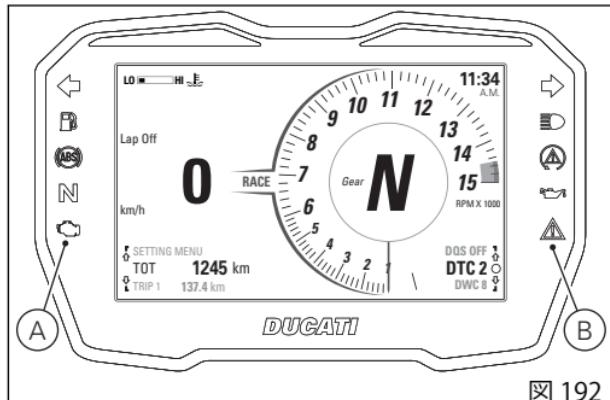


図 192

サイドスタンドの状態の表示

インストルメントパネルはスタンドの状態に関するデータを受信し、サイドスタンドが下りている/開いている場合には赤色の背景に "SIDE STAND" アイコンをディスプレイに表示します。

サイドスタンドセンサーにエラーが発生した場合は、インストルメントパネルにスタンドエクステンド/オープンが表示され、MIL ランプ(ランプ 9、“インストルメントパネル”参照)が点灯します。

インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない場合、スタンドが下りている/開いている場合の "SIDE STAND" の表示が点滅し、不明の状態を表します。

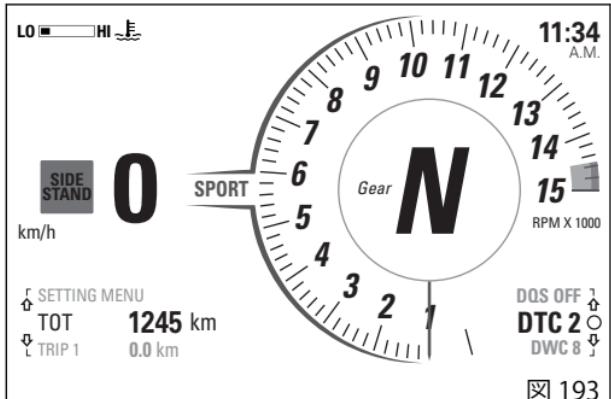


図 193

ライトコントロール

ロービーム/ハイビームランプ

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯(OFF)したまま、パーキングランプおよびDRLのみが点灯します(中国、カナダ、日本バージョンにはDRLは装備されません)。

エンジンを始動した時、AUTO モードに設定されておりインストルメントパネルが外光の弱い状況(NIGHT)を検出した場合はロービームランプが自動的に点灯します。一方、外光の強い状況(DAY)を検出した場合にはDRLが点灯を続け、ロービームランプは消灯したままになります。ボタン(9)を使用して、DRLとロービームランプの切り替えが可能です。

ロービームランプが点灯した場合、ボタン(3)のポジション(A)と(B)でハイビームランプも点灯することができます。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン(3)をポジション(C)に押してロービーム/ハイビームランプを起動することができます。

ロービーム/ハイビームランプを手動で起動してから60秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯(OFF)します。

エンジン始動時のライト消灯

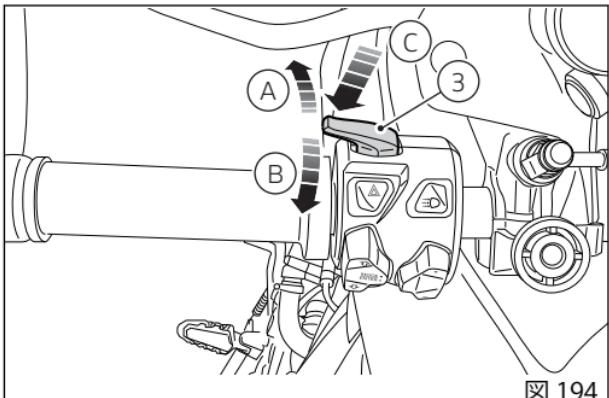


図 194

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプ、DRLのいずれかが点灯(ON)している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

DRL (デイタイムランニングライト)

Key-ONするたびに、DRLが点灯します(DRL操作：中国、カナダ、日本バージョンにはDRLは装備されません)。左側スイッチにあるボタン(9)を使用して、DRLを消灯することができます。ボタン(9)をもう一度押すと、DRLは再び点灯します。



ボタン(9)が押されると、DRLは自動的にMANUALモードに設定されます。AUTOモードに戻すにはKey-OFF / Key-ONを実行するか、設定メニューの"DRL CONTROL"機能からAUTOモードに設定します。

ボタン(3)を押すと、ハイビームランプとロービームランプが点灯し、DRLが消灯します。ボタン(3)を離すと、DRLが再び自動的に点灯します。

DRL AUTO モード

DRLがこのモードにある時、エンジン始動時にインストルメントパネルが外光が弱い状況(NIGHT)を検出した場合はDRLが自動的に消灯し、ロービームランプが点灯します。一方、インストルメントパネルが外光の強い状況(DAY)を検出した場合は、DRLが点灯し続け、ロービームランプが消灯したままになります。このモードでは、インストルメントパネルが検出した外

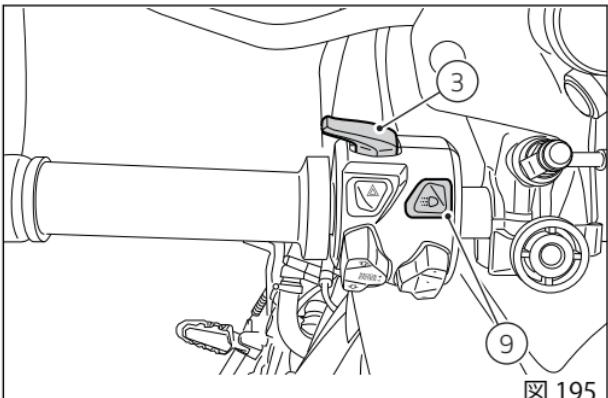


図 195

光の明るさに応じて、DRLとロービームを自動的に切り替えます。ディスプレイには緑色のロゴと"A"の文字が表示されます。



外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時にDRLをAUTO(自動)モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームランプを自動で点灯するようにしてください。

DRL MANUAL モード

DRLがこのモードにある時は、エンジンを始動してもDRLステータスは変更されません。DRLを停止/点灯するにはボタン(9)を押してください。ディスプレイには黄色のロゴと "M" の文字が表示されます。

警告

外光の特に弱い状況下(暗闇)でDRLを使用すると、運転中の視界を損なう危険だけでなく、対向車のドライバーの目をくらませるおそれがあります。

参考

日中であれば対向車のドライバーはロービームランプに比べてDRLの方が知覚しやすいため、DRLの日中の使用は視認性を高めます。

ターンインジケーター

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。

左ターンインジケーターを起動するにはボタン(10)をポジション(I)に押します。右ターンインジケーターを起動するにはボタン(10)をポジション(L)に押します。左側スイッチのボタン(10)を押してターンインジケーターを解除することができます。

自動解除：

車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感じて、ターンインジケーターが自動的に消灯します。

自動解除機能は、インジケーターボタンを操作することにより、車両速度が20 km/h(12.4 mph)を超えると作動します。

ターンインジケーターは、車両がかなりの長距離を走行している間作動したままになっている場合にも、自動的に消灯します。ターンインジケーターボタンが操作された時の車両速度に応じて、200~2,000 メートル(656~6,562 フィート)までの範囲で変化します。

ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーターボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

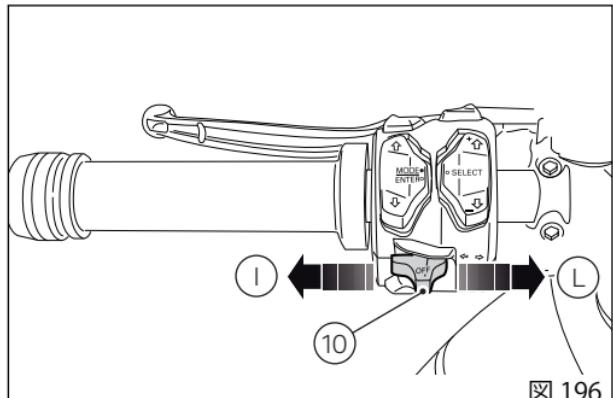


図 196

自動解除システムは設定メニュー(SETTING MENU)の専用メニューから停止することができます。詳しくは「ターンインジケーター自動解除の操作」(TURN INDICATORS)の章をご覧くださいページ 197。

警告

自動解除システムは、ライダーがターンインジケーターをより快適に操作できるように助ける、ライダースポーツ支援システムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケーターの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません（必要に応じて手動で作動/停止）。

ハザード機能(ターンインジケーターすべて点滅)

"ハザード"機能は、非常事態を知らせるために4つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。ボタン(11)を押して"ハザード"機能を作動することができます。この機能は車両が起動している場合(Key-ON)に限り起動することができます。"ハザード"機能の作動中は、4つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルのランプが同時に点滅します。"ハザード"機能は、車両が起動している状態(Key-ON)でのみボタン(11)を押して手動で解除することができます。

"ハザード"機能を起動してから車両を停止した場合は(キーを"OFF"位置に回す)、ハザード機能はその後2時間作動を続けます。バッテリーを保護するため、2時間後ターンインジケーターは自動的に消灯します。



"ハザード"機能の作動中に車両をKey-ONした場合、ハザード機能は作動し続けます(ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります)。

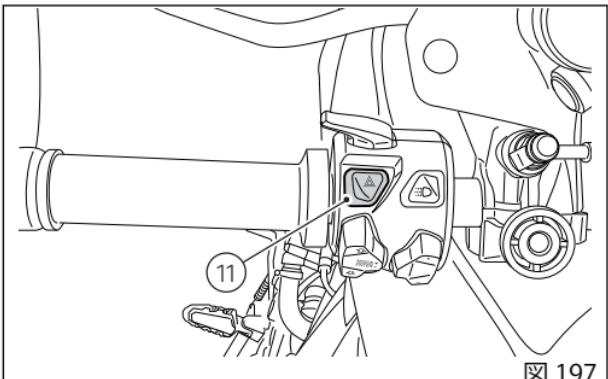


図 197

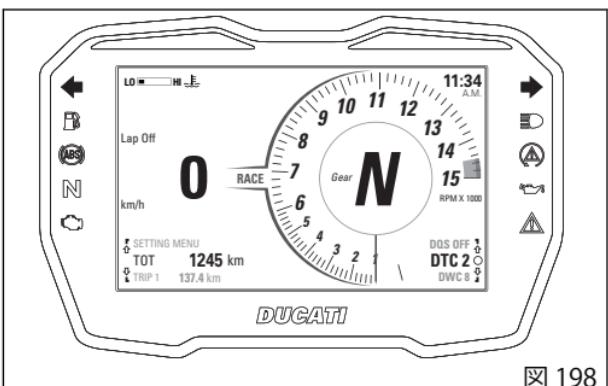


図 198



参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。



参考

"ハザード"機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、"ハザード"機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをロックする電子システム(イモビライザー)が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーには電子装置が内蔵されており、スイッチ内に組み込まれた特殊アンテナが起動時に発する信号を変調します。

変調された信号は起動毎に異なる"パスワード"から構成され、これによりコントロールユニットはキーを識別します。正常に識別された場合のみエンジンを始動させることができます。

キー

車両には2個のキーが付属しています。
キーには"イモビライザーシステムの暗号"が含まれています。
キー(B)は通常時に使用し、以下の操作に必要です。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除



警告

キーは別々に保管し、車両を使用する際は2本のキーのどちらか一方を使用してください。

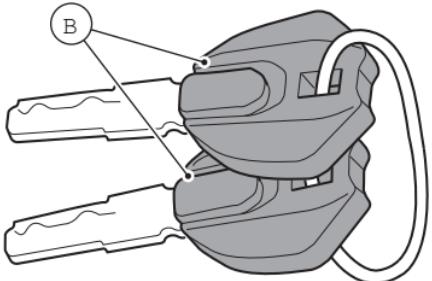


図 199

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。

Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。

Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。

登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくなるためです。

参考

車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

PIN CODE 機能が有効な場合は、インストルメントパネルに "Insert Pin" の文字と 4 衔の PIN CODE 入力スペース "0" と "—" が表示されます。

コードの入力：

- 1) ボタン(1)を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
- 3) ボタン(4)を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 衔すべての数字を決定します。

ボタン(4)を押して 4 衔すべての数字を決定した後、

- PIN CODE の検証中に問題が発生した場合は、インストルメントパネルに "ERROR" の文字が 2 秒間表示され、その後スタンダードスクリーンに戻ります。

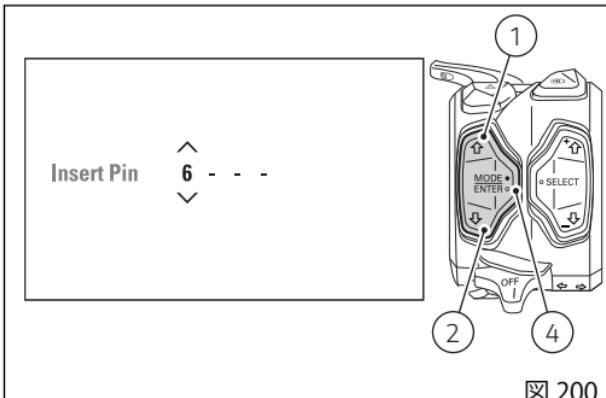


図 200

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG" を 2 秒間表示します。その後 "Insert Pin" の文字と 4 衔の入力スペースを再び表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "CORRECT" を 2 秒間表示し、その後画面はスタンダードスクリーンに戻ります。



重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置



警告

この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

- 1) インストルメントパネル
- 2) エンジニッシュンスイッチ / ステアリングロック
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチレバー
- 5) 右側スイッチ
- 6) スロットルグリップ
- 7) フロントブレーキレバー
- 8) リアブレーキペダル
- 9) ギアチェンジペダル

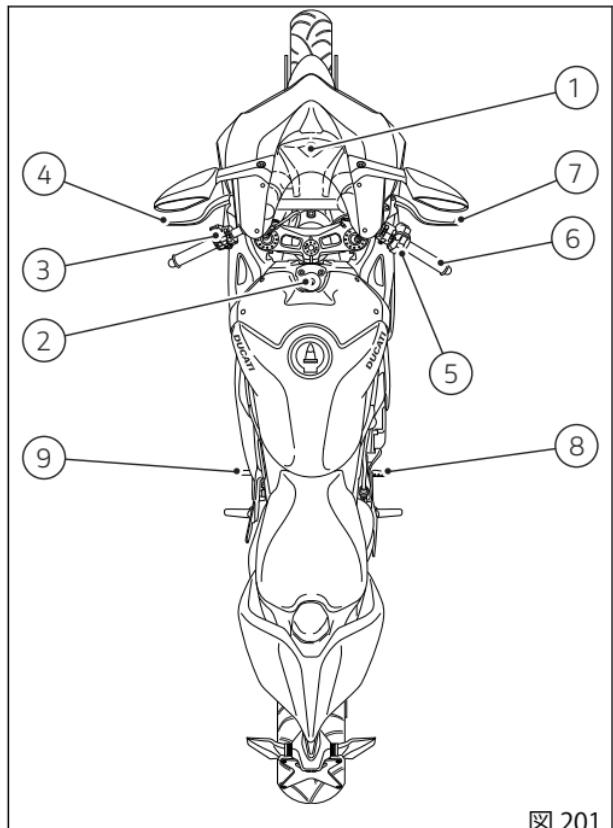


図 201

イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、3つのポジションがあります。

- A) ON : エンジンおよびランプを ON にする
- B) OFF : エンジンおよびランプを OFF にする
- C) LOCK : ステアリングロック状態
- D) P : パーキングランプおよびステアリングロック



参考

キーを最後のポジションに合わせるには、キーを押してから回してください。(B)、(C)、(D)の位置でキーを引き抜くことができます。

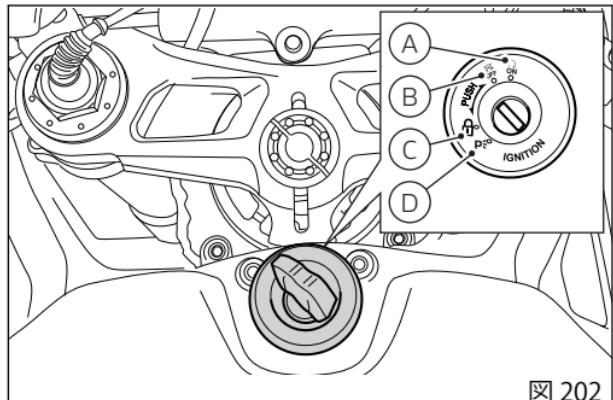


図 202

ハンドルバー左側スイッチ

- 1) ディマースイッチ、ライトの選択、2ポジション:
 - 上(A)に押すとハイビームランプが点灯(■○)、初期位置(B)に戻すとロービームランプが点灯(○■)
 - (C) 横方向に押すと、ハイビームランプ点滅(■○)
 - (FLASH)、"START-STOP LAP" 機能
- 2) ハザード ON/OFF ボタン(ターンインジケーターすべて)
- 3) DRL 起動 / 解除ボタン
中国、カナダ、日本バージョンには DRL は装備されません。

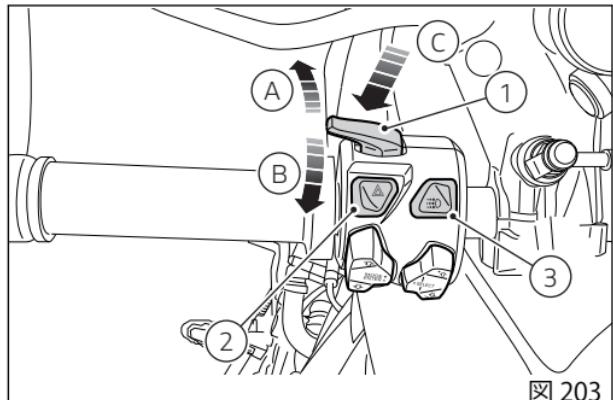


図 203

- 4) メニュー操作ボタン
 5) クイックセレクトボタン
 6) 3ポジション、ターンインジケーター ボタン(↔):
 - 中央 = OFF
 - ポジション(↑)= 左折
 7) ターンインジケーター解除ボタン
 8) ボタン(↓)= 警告ホーン

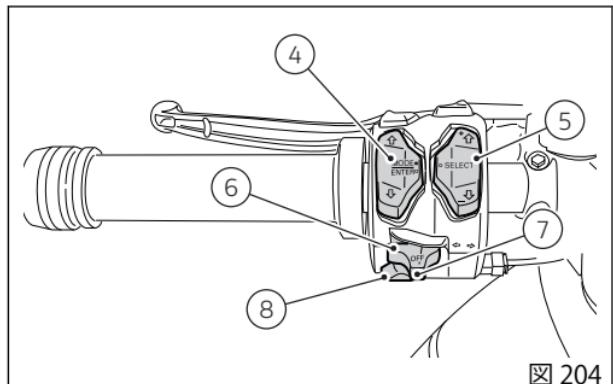


図 204

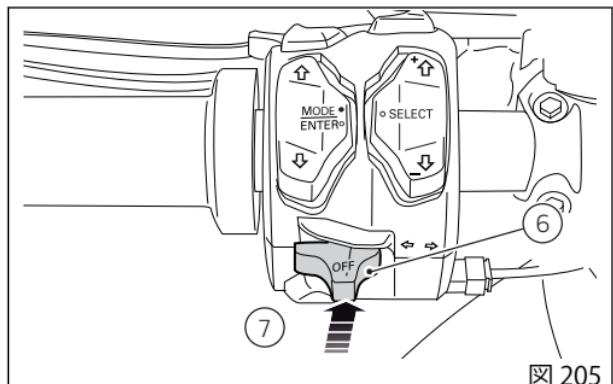


図 205

メニュー操作ボタン(4)には次の3つのポジションがあります。

- (D) メニュースクロール(メニューUP)
- (E) メニュースクロール(メニューDOWN)
- (F) メニュー決定

クイックセレクトボタン(5)には次の3つのポジションがあります。

- (G) クイックセレクトの決定
- (H) クイックセレクト "UP"(UP+)、選択した機能のレベルを上げます。
- (I) クイックセレクト "DOWN"(DOWN-)、選択した機能のレベルを下げます。

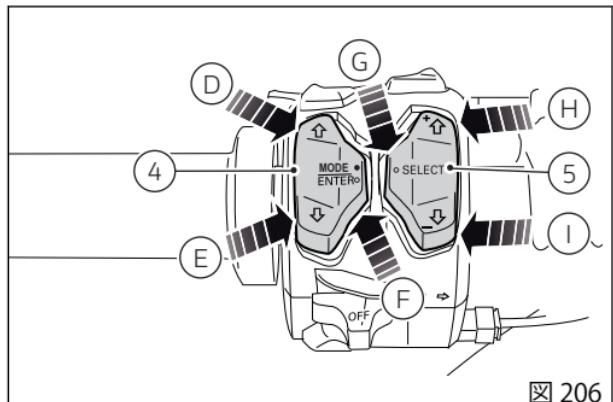


図 206

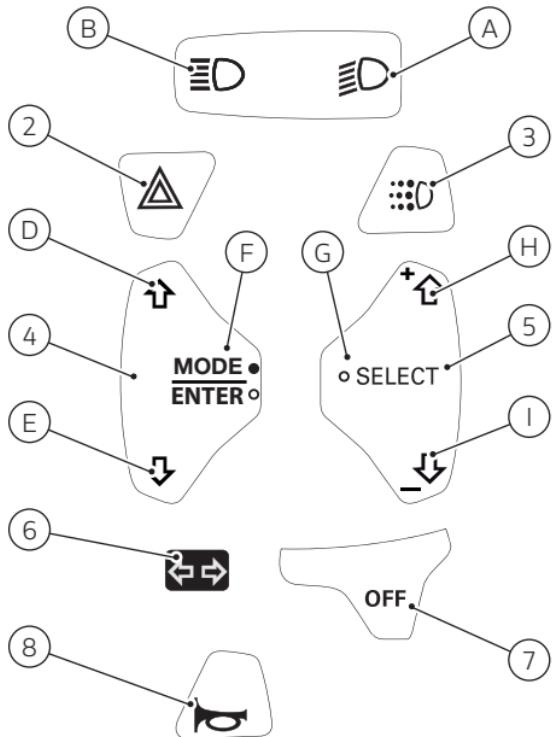


図 207

凡例

- A) ロービームランプ
- B) ハイビームランプ
- D) メニュー UP
- E) メニュー DOWN
- F) メニュー画面決定
- G) クイックセレクト決定
- H) クイックセレクト UP
- H) クイックセレクト DOWN
- 2) ハザード
- 3) DRL
- 4) メニュー操作
- 5) クイックセレクト
- 6) ターンインジケーター
- 7) ターンインジケーター OFF
- 8) ホーン

クラッチレバー

レバー(1)でクラッチの接続を操作します。レバーにはアジャスター(2)がついており、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。時計方向に回すとレバーはグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。レバー(1)を操作すると、エンジンの回転がトランスマッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。



警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。



重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスマッションの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

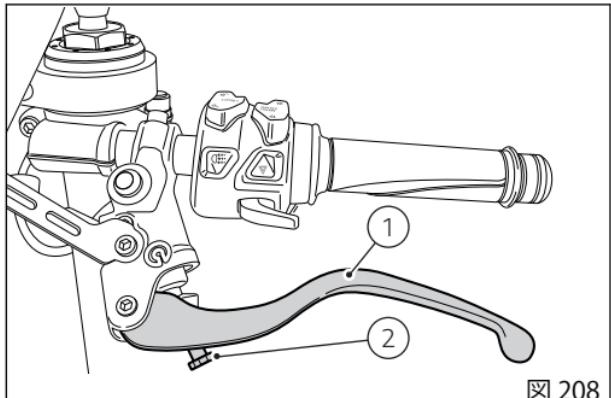


図 208



参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

ハンドルバー右側スイッチ

1) 赤色スイッチ エンジンの停止

2) エンジンの始動ボタン

3) DPL ボタン

スイッチ(1)には2つのポジションがあります。

B) 下に押した場合：エンジンの停止

A) 上に押した場合：RUN ON このポジションでのみ、ボタン(2)を押してエンジンを始動することができます。

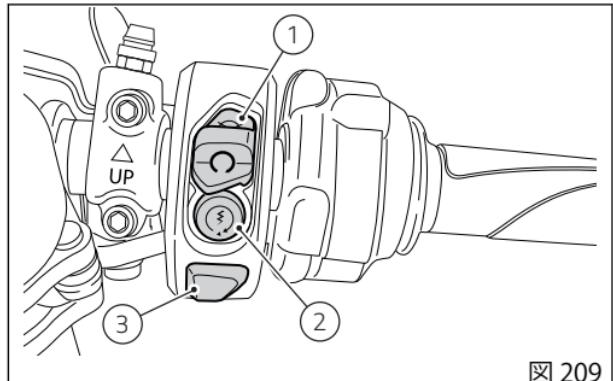


図 209

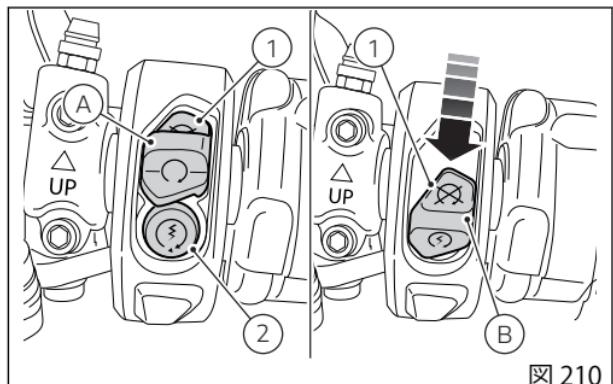


図 210

凡例

2) 電動エンジン始動

3) DPL

A) RUN ON

B) RUN OFF

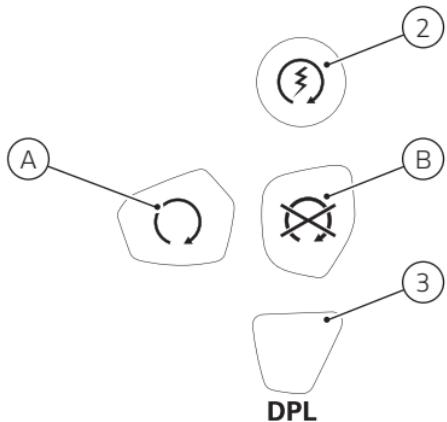


図 211

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ(1)は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。グリップを離すと、自動的に元の位置(アイドリング状態)に戻ります。

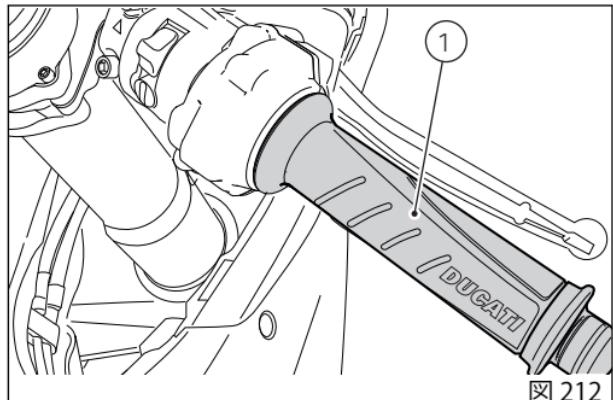


図 212

フロントブレーキレバー

レバー(1)をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

コントロールレバー(1)にはアジャスター(2)が付いており、レバーとグリップとの間隔が調整することができます。

レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

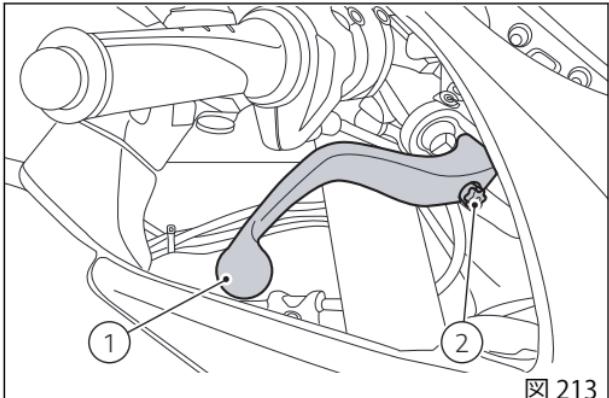


図 213

リアブレーキペダル

リアブレーキをかけるには、ペダル(1)を足で下に押してください。

制御システムは油圧式です。

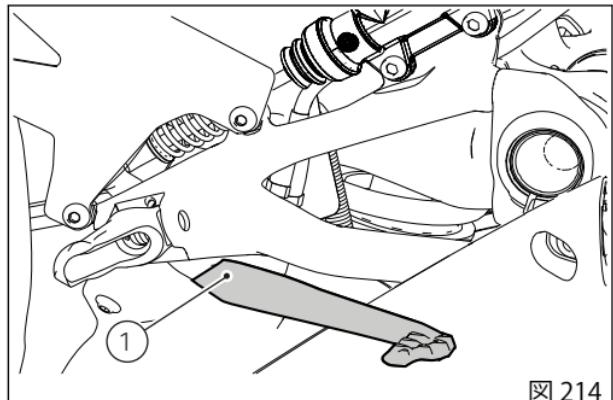


図 214

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダル(1)は中央のニュートラルのポジションNに自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプNで表示されます。

ペダルは次のように動かせます。

- 下へ=シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプNが消えます。
- 上へ=ペダルを上へ上げることで、2速から順次3速、4速、5速、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

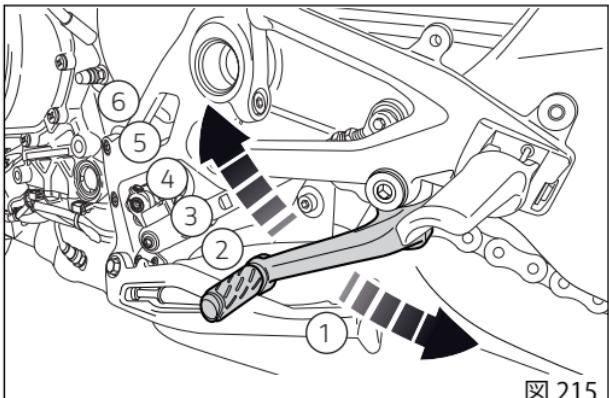


図 215

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。

これらの調整は以下の手順で行ってください。

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。

ロッドの操作を正しく行うために、サイドフェアリングを取り外してください。



警告 ギアチェンジロッドの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ロッド(1)を所定のキーソケット(A)で固定し、ナット(2)を緩めます。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、スパナでロッド(1)の六角部分を回します。

ロッドにナット(2)を締め付けます。

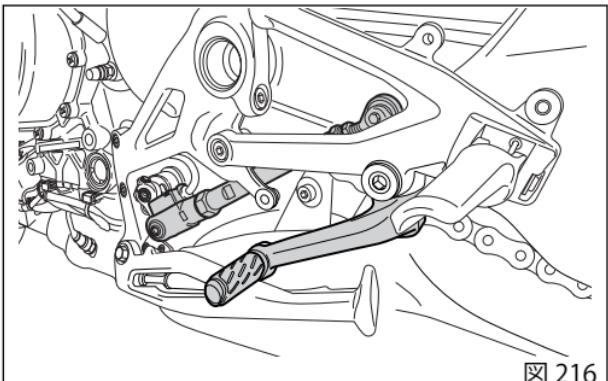


図 216

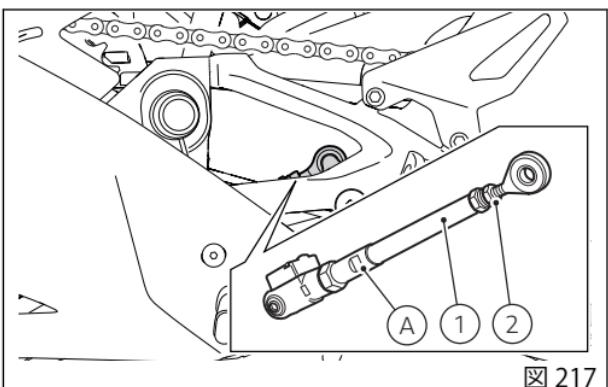


図 217

調整が完了したら、ユニボール(3)の緩み値(B)が正しいことを確認します。

ユニボール(3)の緩み値(B)は、最小B=0 mm (0 in) (ユニボールを完全にねじ込んだ状態)～最大B=6 mm (0.24 in) の間になければなりません。



警告

緩み値が規定の範囲内にない場合は、上記の調整作業を最初から繰り返してください。

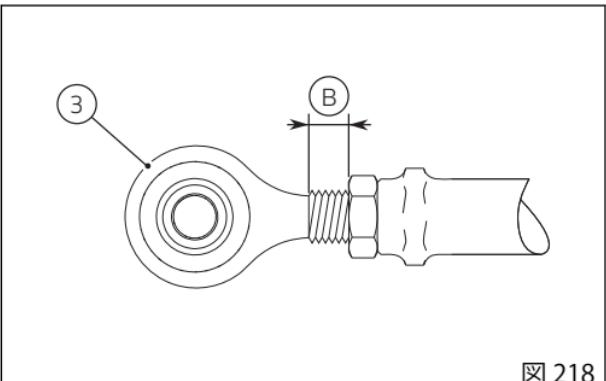


図 218

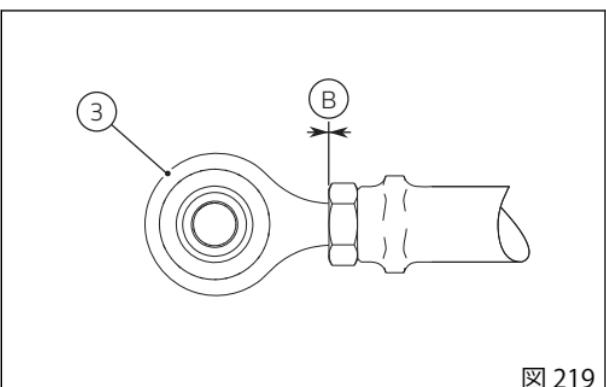


図 219

リアブレーキペダル

ナット(7)を緩めます。

ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー(6)を回します。ロックナット(7)を締め付けます。

ペダル(8)を手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約1.5~2 mm (0.06~0.09 in) の遊びがあることを確認します。

上記のような遊びが確認できない場合は、マスターシリンダーのロッドの長さを調整します。



警告

ペダルの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

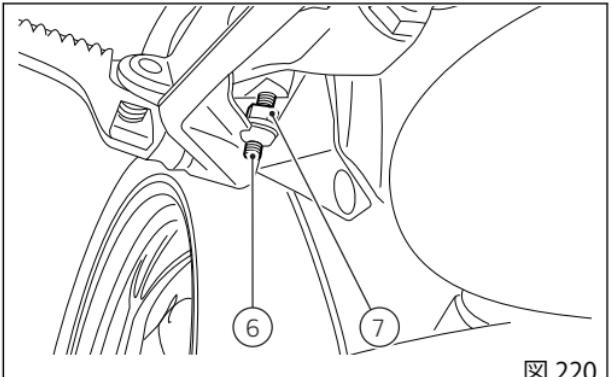


図 220

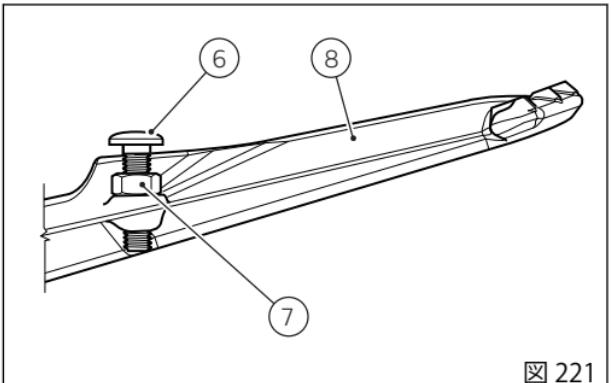


図 221

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

- 1) フィラープラグ
- 2) シートロック
- 3) サイドスタンド
- 4) リアビューミラー
- 5) フロントフォークアジャスター
- 6) リアショックアブソーバーアジャスター
- 7) 触媒システム (両側)
- 8) エキゾーストサイレンサー (両側)

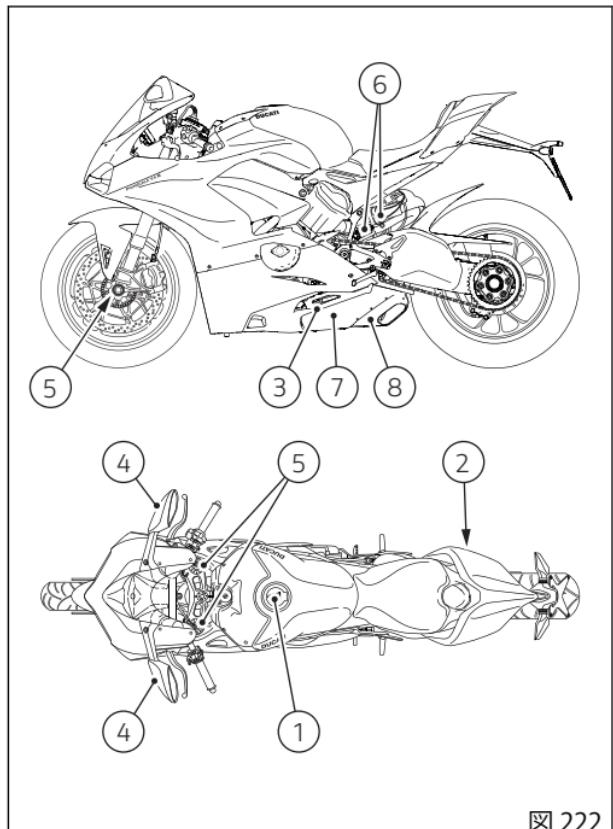


図 222

燃料フィラープラグ

開け方

保護カバー(1)を持ち上げ、キーをロックに挿入します。キーを時計回りに1/4回転させ、ロックを解除します。

プラグ(2)を起こします。

閉じ方

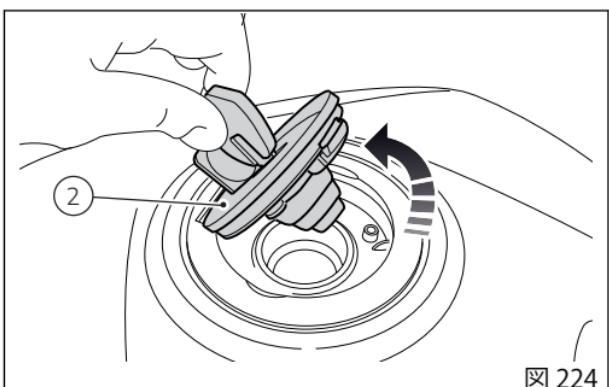
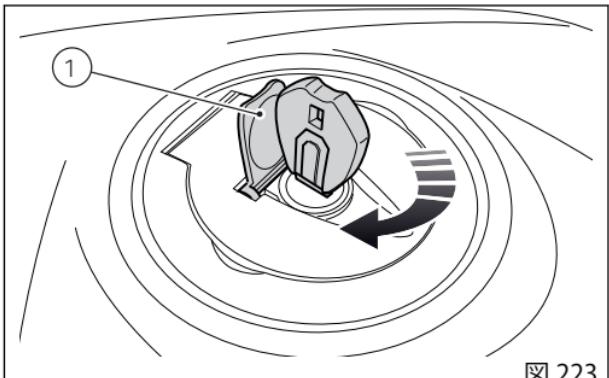
差し込んだキーでプラグ(2)を閉じ、プラグを押します。キーを抜き取り、保護カバー(1)を閉じます。



参考 キーが挿入された状態でのみキャップを開めることができます。



警告 燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。



シートロック

開け方

鍵穴(1)にキーを差し込み、パッセンジャーシート(2)のクリックという音が聞こえるまで回します。

パッセンジャーシート(2)を車両の前方に抜き取ります。

閉じ方

シート側からパッセンジャーシート(2)を挿入し、カバーを車両の後方に奥までスライドさせます。



警告

シートカバーを閉じる際は、車両前側からシートカバーを挿入し、カチッとロックの音が鳴るまで後方にスライドさせてください。

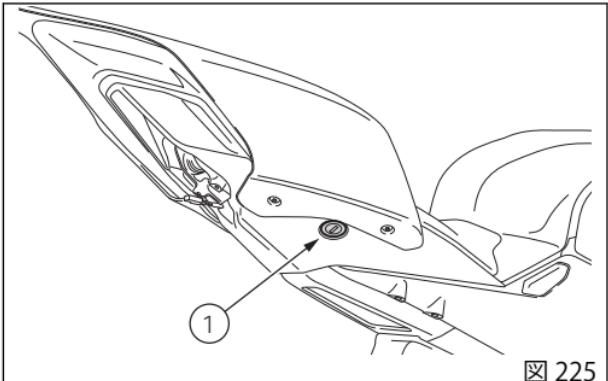


図 225

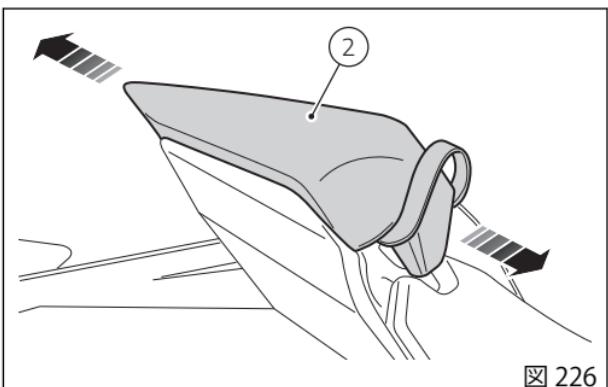


図 226

パッセンジャーシート(2)の取り付けを行う前に、パッセンジャーベルト(3)が正しい位置にあることを確認してください。

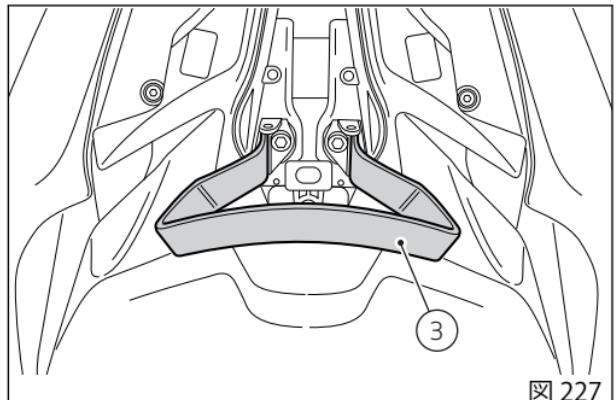


図 227

サイドスタンド



重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。

サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック(1)を足でいっぱいに押します。

次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。

開く段階でサイドスタンドを探しやすくするには、足でピン(3)を押します。



警告

車両をサーキットでスポーツ目的に使用する場合、レンチ(4)を使用してピン(3)を取り外すことをお勧めします。

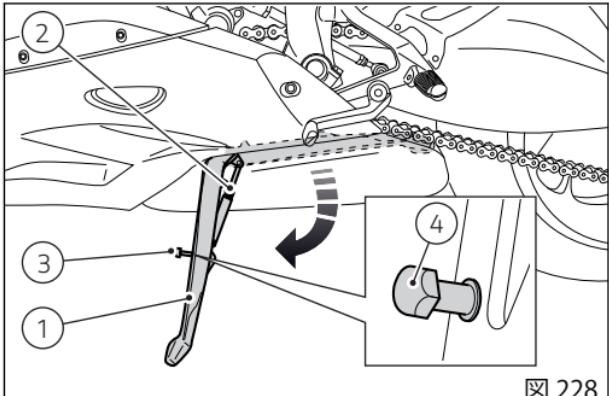


図 228

サイドスタンドを元の位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム(1)を持ち上げます。

サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。



警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

 **参考**

定期的にスタンド(内側と外側2つのスプリングの状態)と安全センサー(2)の作動を点検することをお勧めします。

 **参考**

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

Bluetooth コントロールユニット

車両にはBluetoothコントロールユニットを装備することができます。これによりBluetoothに対応する電子機器間での通信が可能になります。

Bluetoothコントロールユニットは本車両に装備されおりません。Bluetoothコントロールユニットは、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

⚠ 警告

Bluetoothヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

⚠ 警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更がBluetoothヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット(部品番号: 981029498)"に付属しないヘッドセット。
- 必要なBluetoothプロファイルに対応していないスマートフォン("Ducati キット 部品番号: 981029498"に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)

⚠ 警告

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット(部品番号: 981029498)ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます(詳しくはDucati キット(部品番号: 981029498)に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。



参考

Ducati キット (部品番号 : 981029498) は、
Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお
求めいただけます。

スマートフォン本体が以下のプロフィールをサポート
していることを確認します。

- MAP プロフィール : SMS および MMS 受信通知を
正しく表示する。
- PBAP プロフィール : スマートフォンの電話帳デ
ータを正しく表示する。



警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナ
ビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに
正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット



上記Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーま
たはサービスセンターにてお求めいただけます。

ステアリングダンパー

ステアリングダンパー(1)はハンドルバーの前にあり、ステアリングヘッドに固定されています。

このダンパーがステアリングのより正確で安定した操作に貢献し、あらゆるコンディションでの操縦性をアップします。

ショックアブソーバーの調整はインストルメントパネルからショックアブソーバー内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。

ライダーが選択したショックアブソーバーのレベルを調整する必要があるイベントは、通常次の2通りしかありません。

- 高頻度の振動 (Wobble) : バイクのステアリングは、衝撃による急激な動きの影響を受けます (例: ウィリー後の着地時)。
- ステアリングの減衰力を増加するには、ステアリングダンパーのクリック数を小さく設定します。
- 低頻度の横すべり (Weave) : バイクは蛇行運動し、通常大きく横すべりします (例: 高速スピードでの加速時)。
 - ステアリングの減衰力を減少するには、ステアリングダンパーのクリック数を大きく設定します。

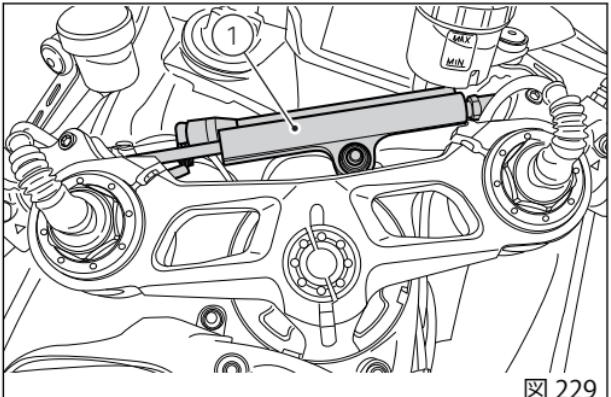


図 229

フロントフォーク調整

本車両のフロントフォークはフルアジャスタブルタイプです。

フロントフォークのリバウンドダンピングおよびコンプレッションダンピング調整は、インストルメントパネルからフォークレッグ内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。



警告

スプリングプリロードの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

フォークの調整は、ページ 0 の記載内容に従ってください。

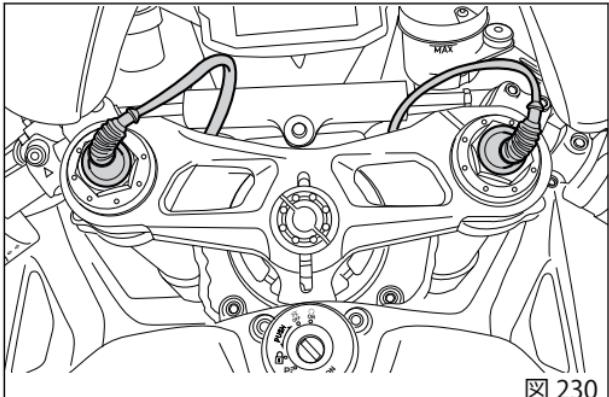


図 230

リアショックアブソーバーの調整

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

パッセンジャーと荷物を載せて走行する際は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを最大に設定すると、車両の操作性を高め、地面との接触を避けることができます（リングナットを操作してプリロードを調整します）。この場合、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。

ショックアブソーバーの調整はインストルメントパネルからショックアブソーバー内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。

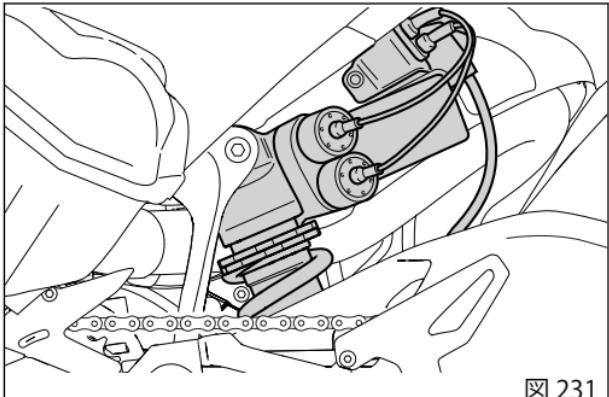


図 231

ショックアブソーバーの調整は、ページ 128 の記載内容に従ってください。

運転の方法

慣らし運転の方法

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：

- 1) 1,000 km (621 mi) まで
- 2) 1,000 km (621 mi) ~ 2,500 km (1,553 mi)

1,000 km (621 mi) まで

最初の 1,000 km (621.37 mi) まではタコメーターに注意し、5,500~6,000 回転 (rpm) を超えてはいけません。

最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

! 重要

走行距離が最初の 1000 km (621 mi)までの間(慣らし運転期間)、すなわちオドメーターが 1000 km (621 mi)以下の値を表示している期間は、6000 rpm に達するとディスプレイにはオレンジ色で表示される予告ゾーン(オレンジゾーン)が棒グラフの目盛りとそれに相当する数字で表示されます。慣らし運転期間中はエンジン回転数を 6000 rpm 以下に維持すること、すなわちインストルメントパネルに棒グラフの "オレンジゾーン" が表示されないようにすることが推奨されます。

エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。

最初の 100 km (62 mi) は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。

定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

1,000 ~ 2,500 Km (621 ~ 1,553 mi)

エンジンからよりパワーを引き出すことは可能ですが、7,000 rpmを決して超えないようにしてください。



重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項



警告

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与える、ライダーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量

タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください ("燃料の補給" をご覧ください)。

- エンジンオイル量

点検窓からオイルパン内のレベルを点検します。必要であれば補充してください ("エンジンオイルレベルの点検" をご覧ください)。

- ブレーキおよびクラッチフルード量

各フルードタンクのフルードレベルを点検してください ("ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検" をご覧ください)。

- クーラント量

リザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。必要であれば補充してください ("クーラントレベルの点検および補充" をご覧ください)。

- タイヤコンディション

タイヤ空気圧と摩耗度を点検します ("チューブレスタイヤ" をご覧ください)。

- コマンド機能

ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。

- ランプ類、インジケーター

ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください ("ヘッドライト電球の交換" をご覧ください)。

- ロック類

フィラープラグのロックを点検します ("燃料フィラープラグ" をご覧ください)。

- サイドスタンド

サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します ("サイドスタンド" をご覧ください)。



警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

エンジンウォーターポンプが正常に作動するためにはベントを必要とします。そのため、クランクケース上部のベント穴から微量の冷却液が漏れることがありますが、冷却システムやエンジン自体の正常な動作に影響を及ぼすことはありません。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプ (9) は点灯し続けます。
走行速度が 5 km/h を越えた時点でランプが消灯する
場合は、ABS システムが正常に作動していることを示
します。



警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、
Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連
絡ください。

ABS 装置

フロントフォニックホイール(1)とリアフォニックホイール(2)が汚れていないことを確認します。



警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時にはABSシステムがうまく機能しない場合があります。システムをOFFにしておくことをお勧めします。



警告

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

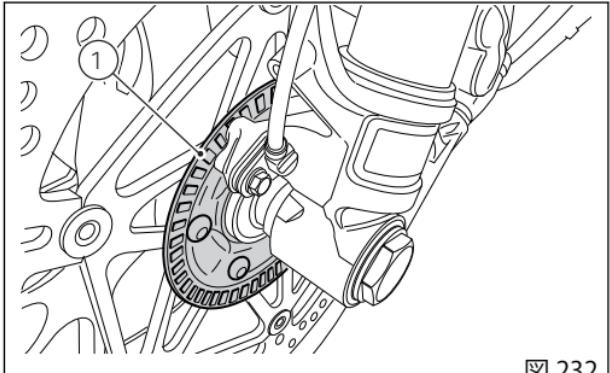


図 232

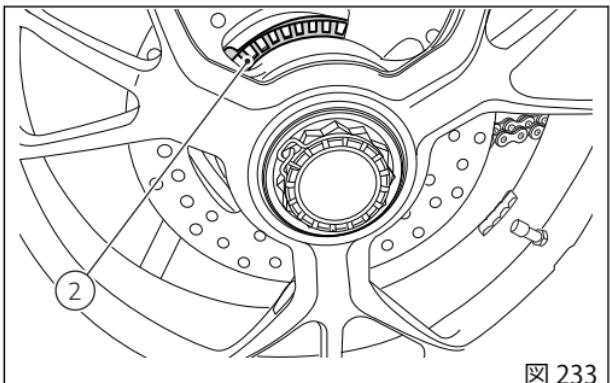


図 233

エンジンの始動



警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。



警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションキーをONの位置に回します。インストルメントパネルの緑のランプN(3)と赤のランプ ! (4)が点灯していることを確認してください。



重要

オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。

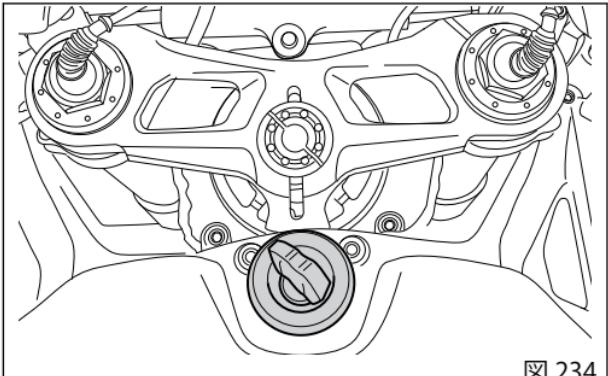


図 234

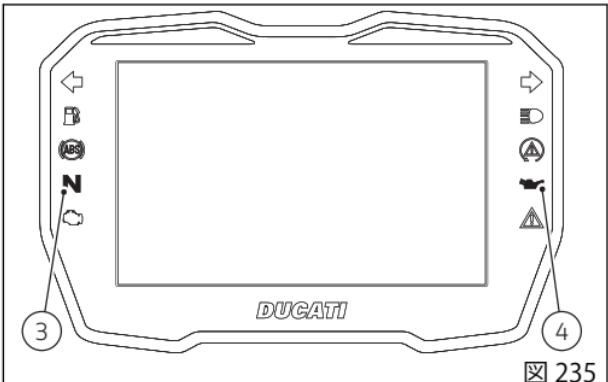


図 235

⚠ 警告

サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていないければなりません)。

ハンドルバー右側の赤色スイッチ(1)を上に押し上げ、ボタン(2)を押します。

スロットルコントロールを操作せず、車両が自然に起動するまで待ちます。

オイル圧警告灯の赤色ランプ(4、図 235)はエンジン始動後数秒で消灯します。

参考

バッテリーが上がっている場合、システムは自動的にスターターモーターの起動を停止します。

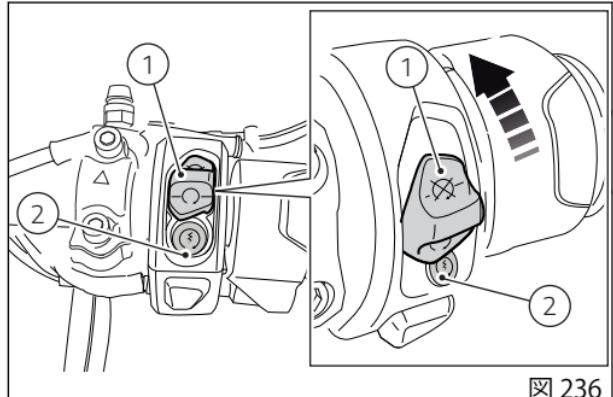


図 236

⚠ 重要

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

ハンドルの赤色スイッチ(1)を下に押してRUN OFFに合わせ、エンジンを停止します。

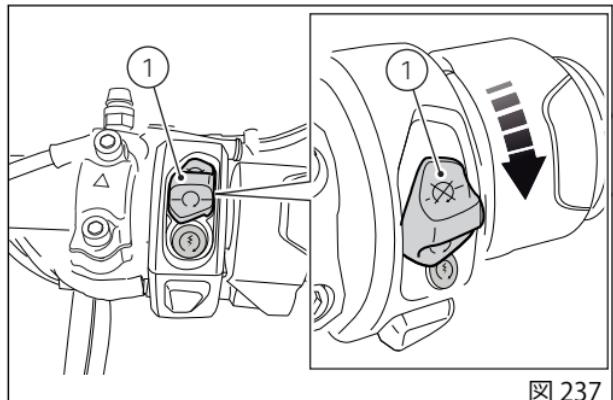


図 237

車両の発進

- 1) クラッチレバーを引いてクラッチを切れます。
- 2) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを1速に入れます。
- 3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと車両は発進し始めます。
- 4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
- 5) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。

これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノックングを避けてください。



警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスマッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。



警告

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABSは電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントローラユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントローラユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。ブレーキング時ABSが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABSもフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながら1速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

エンジンを停止するには、キーをOFF位置に回します
(ページ 243)。

パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーをLOCK位置に回します。

車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。

重要

監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック(ディスクロック、リアスプロケットロック等)は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグが収まる給油口より低くなければなりません。

警告

極端な場合には、キャップを開ける時にタンク内の圧力によって燃料が噴き出る可能性があります。

キャップを開ける時は十分注意して、ゆっくりと開けるようにしてください。

キャップを開けている時にシューという音が聞こいたら、音が聞こえなくなるのを待ってからキャップを完全に開けてください。

このノイズは燃料タンク内の圧力が外に逃げている時に鳴る音です。音がしなくなったということは、残っていた圧力が完全に外へ逃げたことを意味します。上記のような状況は、特に暑い気候の時に起こりやすくなります。



警告

オクタノール価が95以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

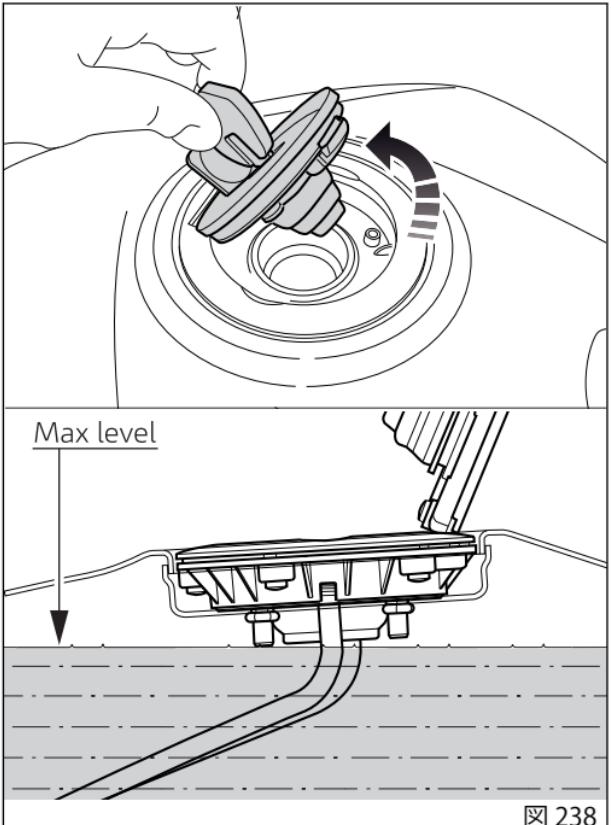


図 238



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

付属アクセサリー

パッセンジャーシート下に設けられている小物入れスペースには、付属のL型六角棒レンチ(1) 4 mm (0.16 in)が収納されています。

このスペースにアクセスするには、パッセンジャーシートを取り外し(ページ261)、背もたれ(A)を前方に引き抜いてください。

以下の付属部品の取り付けは、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。
- パッセンジャーシート
- 左右リアフットペグ

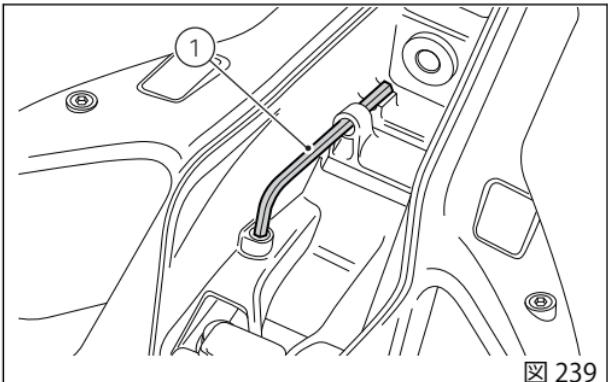


図 239

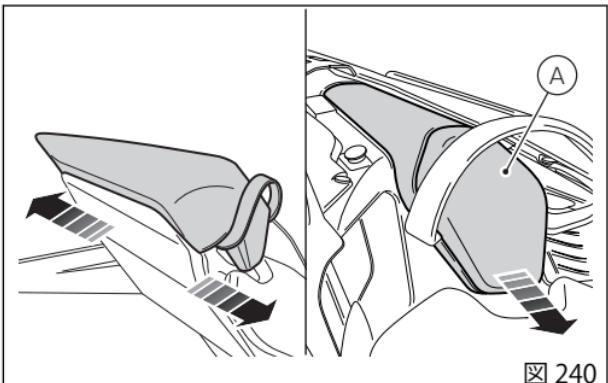


図 240

主な整備作業とメンテナンス

フェアリングの取り外し

メンテナンスまたは修理作業を実施するために、モーターサイクルのいくつかのフェアリング部品を外すことが必要になる場合があります。

⚠ 警告

取り外した部品を再度取り付けていなかったり、正しく取り付けられていないと、走行中に突然外れ、車両の制御がきかなくなるおそれがあります。

⚠ 重要

ヘッドライトフェアリングの塗装済み部品およびウインドスクリーンを破損しないよう、取り付けの際には必ずナイロンワッシャーを固定スクリューの位置に合わせて配置してください。

⚠ 重要

フェアリングの取り外し作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

エアフィルターの交換



重要

エアフィルターのメンテナンスは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

クーラントレベルの点検および補充

フロントホイールのスペースから内側の点検用開口部から、車両右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。

クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN (1) 及び MAX (2) の目盛の間にあることを確認します。クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。



警告

この作業はエンジン冷間時に、水平な場所で車両を垂直に立てた状態で実施してください。



重要

クーラントの補充は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

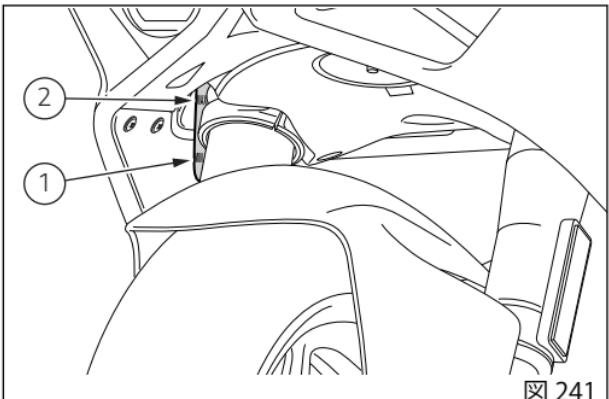


図 241

ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検

ブレーキ/クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバータンクの MIN 目盛以下になってはいけません。

フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。

また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

!**警告**

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えますので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。

これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

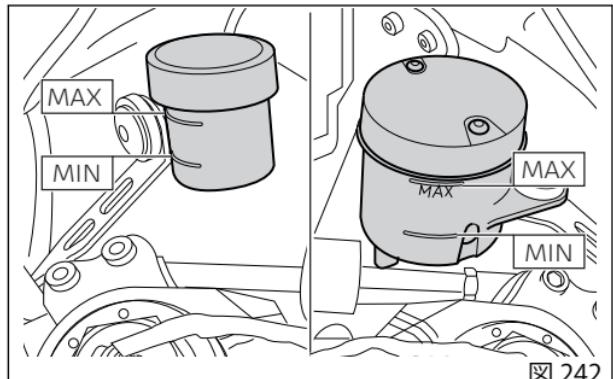


図 242

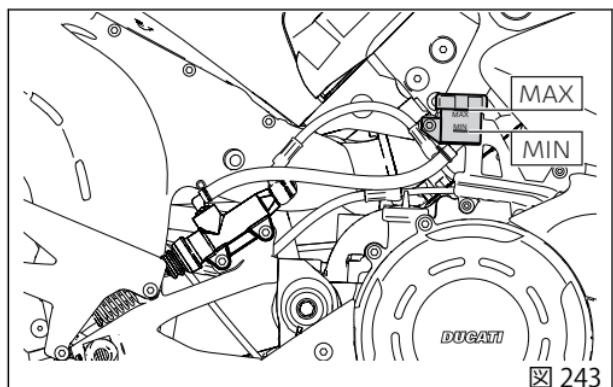


図 243

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノックングしたり止まったりする時は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。



警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください(最低レベル上3 mm (0.12 in))。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。どちらか片方でもパッドの厚さが約 1 mm (0.04 in) になっている場合は、両方のパッドを交換します。



警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。



重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

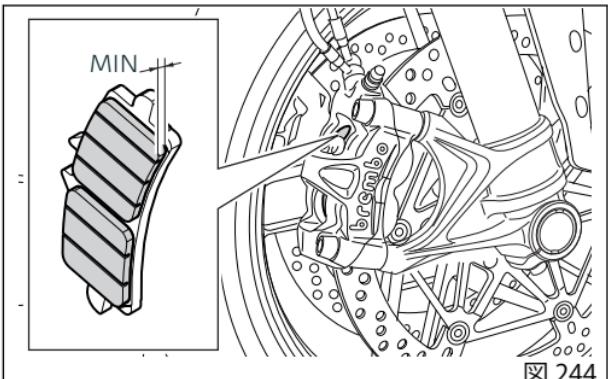


図 244

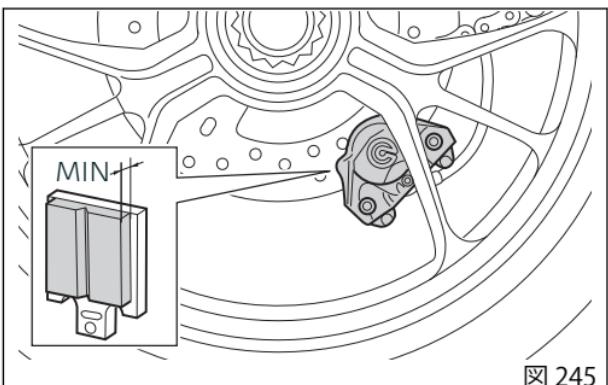


図 245

バッテリーの充電

準備作業

リチウム電池の充電は、リチウム電池のプラス極とマイナス極に専用バッテリー充電器をクリップ付きケーブルで直接つないで行ってください。

これを行うには、以下に記載する各手順を実施してください。

4本のスクリュー(1)をワッシャーと一緒に外し、タンクカバー(2)を取り外します。

キーブロックカバー(4)を固定する側面2本のスクリュー(3)と上側2本のスクリュー(5)を緩めて外します。

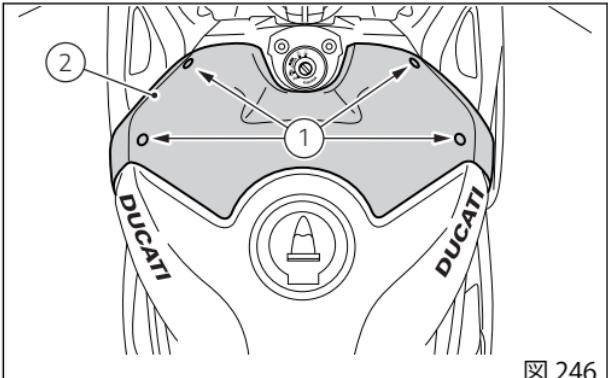


図 246

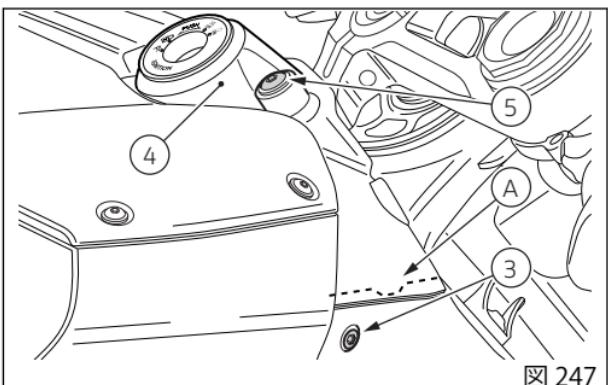


図 247

サイドフェアリングに接合する両側にある内側タブ(A)に注意して、キーブロックカバー(4)を後方上側に引き抜きます。

スクリュー(6)を緩めて外し、バッテリー固定用カバー(7)を取り外します。

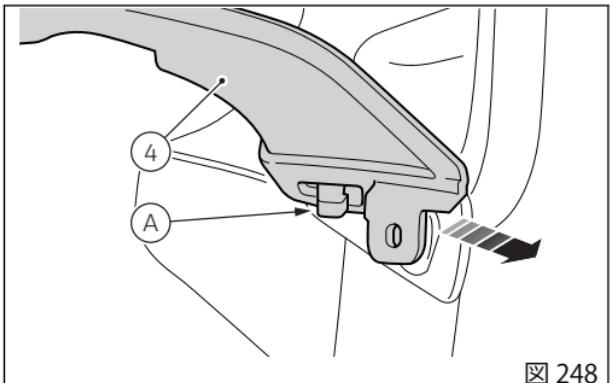


図 248

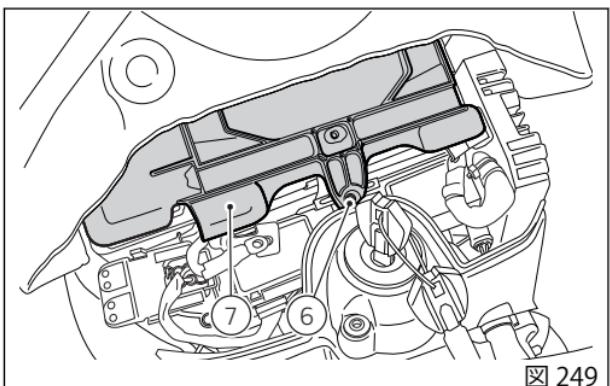


図 249

バッテリー充電器をバッテリーに接続する

電源につないでいないバッテリー充電器(A)の赤色クリップ(8a)をプラス極(8)にしっかりと接続します。黒色クリップ(9a)をマイナス極(9)にしっかりと接続します。

バッテリー充電器(A)の電源プラグを壁のコンセントに差し込みます。



警告

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーの充電には、必ずドゥカティ純正リチウム電池用バッテリー充電器(A)を使用してください。

鉛蓄電池用バッテリー充電器や純正以外のバッテリーメンテナーや充電器は絶対に使用しないでください。バッテリーの充電は、気温40°C(104°F)以下の場所に車両を駐車して行ってください。

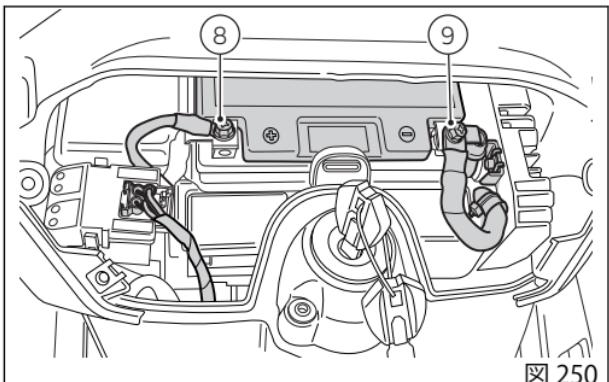


図 250

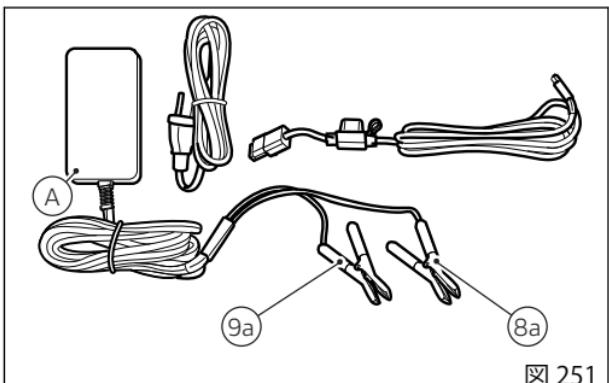


図 251

バッテリー充電器をバッテリーから外す

充電が完了したら、接続時と逆の手順でバッテリー充電器 (A) を外します。
まず、バッテリー充電器 (A) の電源プラグを壁のコンセントから抜きます。

黒色クリップ (9a) をマイナス極 S (9) から外し、赤色クリップ (8a) をプラス極 (8) から外します。

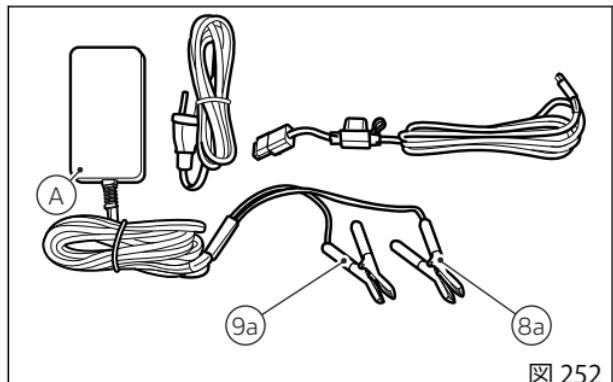


図 252

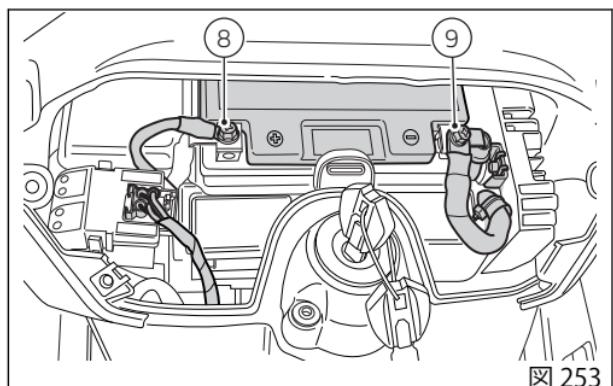


図 253

バッテリー固定用カバー(7)を取り付け、スクリュー(6)を締め付けます。

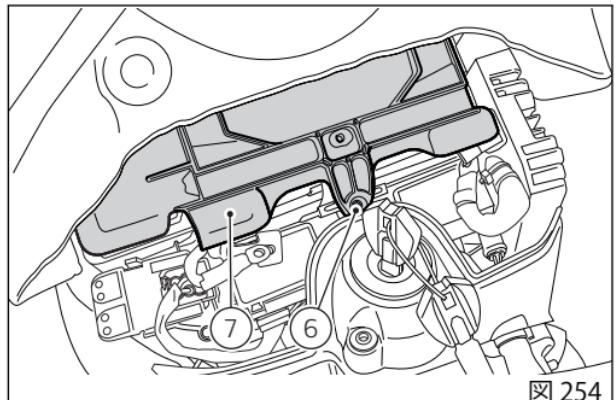


図 254

サイドフェアリングに接合する両側にある内側タブ(B)に注意して、イグニッションスイッチカバー(4)を前方に向かって取り付けます。

キーブロックカバー(4)を固定する側面2本のスクリュー(3)と上側2本のスクリュー(5)を締め付けます。タンクカバー(2)を配置し、4本のスクリュー(1)を締め付けます。

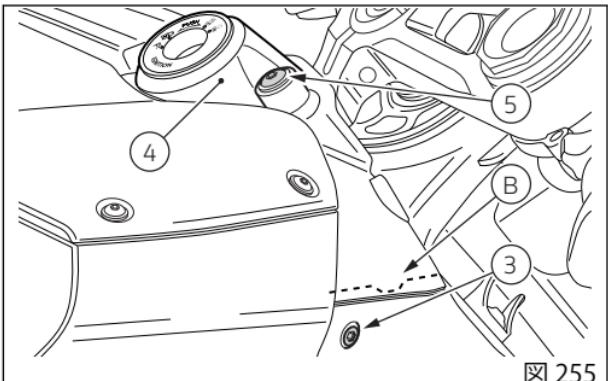


図 255

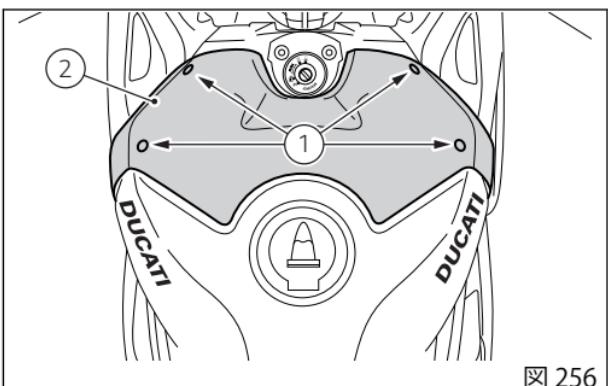


図 256

長期間の保管

車両を長期間(例:連続30日間)使用していない場合は、バッテリーチャージャー/メンテナーをケーブルで診断ソケットに接続するようにしてください。詳しくは“冬季のバッテリー充電およびメンテナンス”を参照してください。

冬季のバッテリー充電およびメンテナンス



警告

本車両のエレクトリカルシステムは、エンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は車両を使用していない期間や環境条件によって変化します。

バッテリー充電器/メンテナーを使用してバッテリー電圧の最小値が維持されず電圧値が8Vを下回ると、バッテリーが影響を受けるおそれがあります。

コネクター(1)はライダーシート(2)下、車両左側に設けられています。

作業を行うには、両側から2本のスクリュー(3)を外してライダーシート(2)を取り外してください。

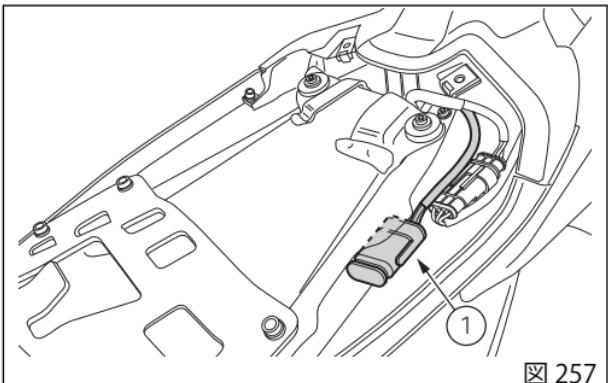


図 257

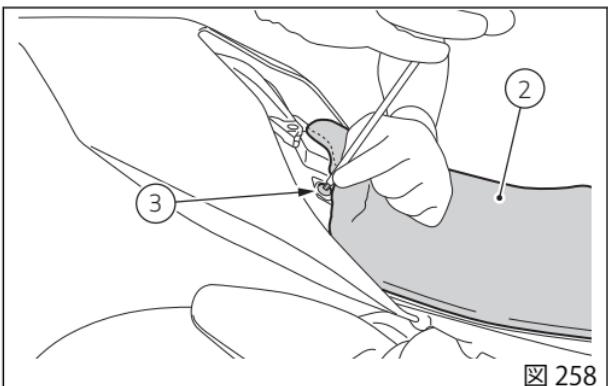


図 258

警告

バッテリーメンテナーとして使用する場合にも、必ずドゥカティ純正リチウム電池用バッテリー充電器(A)を使用してください。

バッテリーメンテナーキット(部品番号: 69924601A (各國) またはバッテリーメンテナーキット(部品番号: 69924601AX (日本、中国、オーストラリア) は鉛バッテリー専用ですので、絶対に使用しないでください。

メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続します。

参考

Ducati 純正リチウム電池用バッテリー充電器以外のバッテリーメンテナーや充電器を使用すると、車両のエレクトリカルシステムやリチウムバッテリーに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

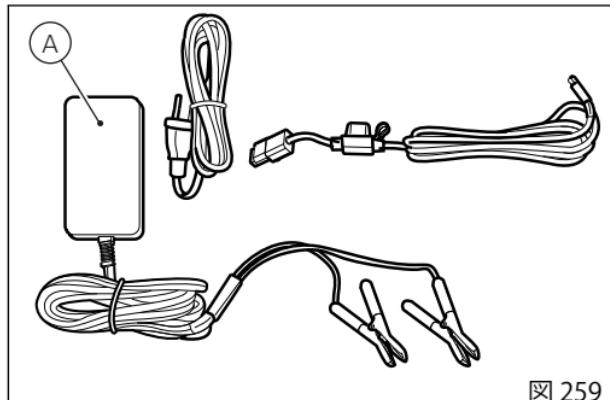


図 259

重要

リチウム電池を搭載する車両については、エンジンを始動できないレベルまでリチウム電池が放電した場合に、ジャンプスターター やリチウム電池に並列に接続する補助バッテリーなどの装置は絶対に使用しないでください。ジャンプスターとの接続や充電されたバッテリーとの並列接続などのように無制限の電流で充電すると、深放電を起こしているリチウム電池のセルに修復不可能な損傷を与えるおそれがあります。

必ずドゥカティ純正リチウム電池用バッテリー充電器
(A) を使用してください。

トランスミッションチェーン張力の点検



重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で下に押して放します。チェーンピンの中心とチェーンスライダーのプラスチックとの間の距離 (A) を測定します。A = 23 ~ 25 mm (0.90 ~ 0.98 in) でなければなりません。



重要

この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

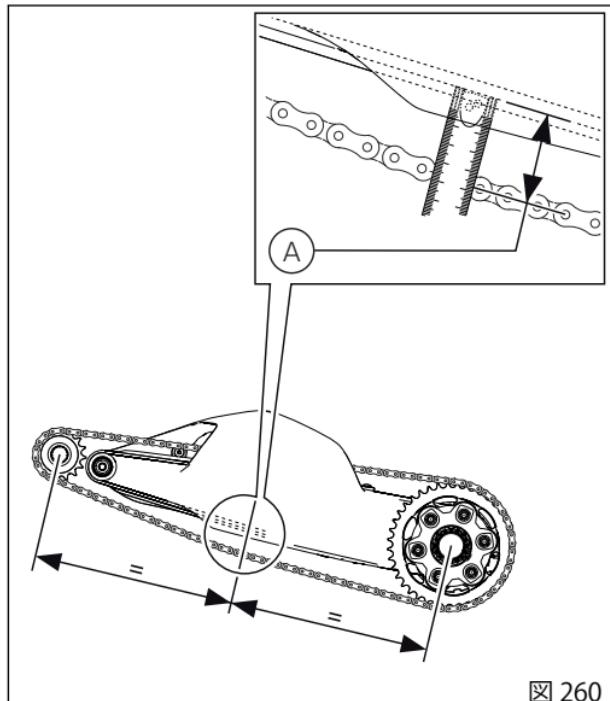


図 260

! 警告

安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー(1)を正しく締め付けることが重要です。

! 重要

チェーンの張りが不適切だとトランスマッショングループ品の磨耗を早めます。

! 重要

チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするようにするために、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。

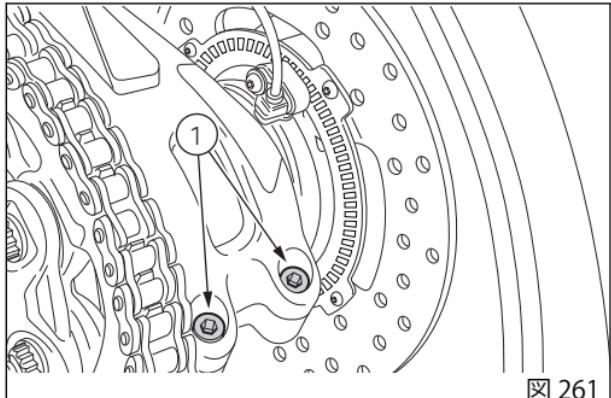


図 261

チェーンの潤滑



重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ドライブチェーンの清掃および潤滑

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つOリングガスケット付きチェーンが装着されています。

チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。従って、チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、それらの汚れをウォータージェットで取り除き、その後すぐに30cm(11.81インチ)以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。

! 警告

蒸気やガソリン、溶剤、硬いブラシやその他、Oリングを傷つけるものは使用しないでください。さらにバッテリー電解液との接触を避けてください。図のように、リンクに小さなひび割れができるおそれがあります。

! 警告

特にバイクをオフロードで使用する場合は、チェーンガイドスライダーとの接触により、リンクが過度に摩耗することがあります。摩擦によりチェーンが過熱し、チェーンの熱処理が損なわれ、その結果特にリンクがもろくなるおそれがあります。

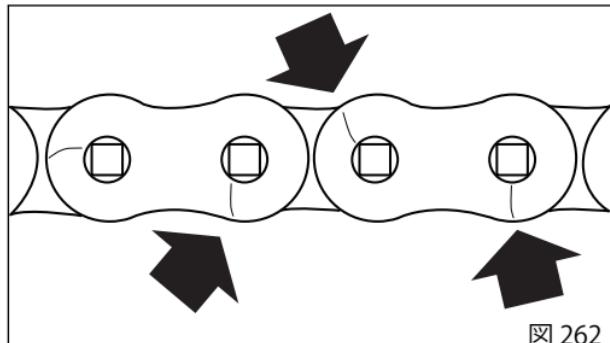


図 262

ドライブチェーンの潤滑



重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。



警告

潤滑にはSHELL Advance Chainを使用してください。規定以外の潤滑剤を使用するとOリングや、それに伴ってトランスミッションシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行ってください。

リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。

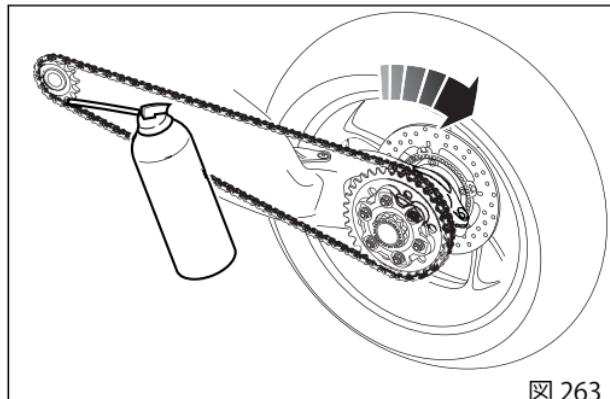


図 263

チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所(2)で、潤滑剤(1)のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保証します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部(5)に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング(4)および外側のプレート(6)を潤滑します。

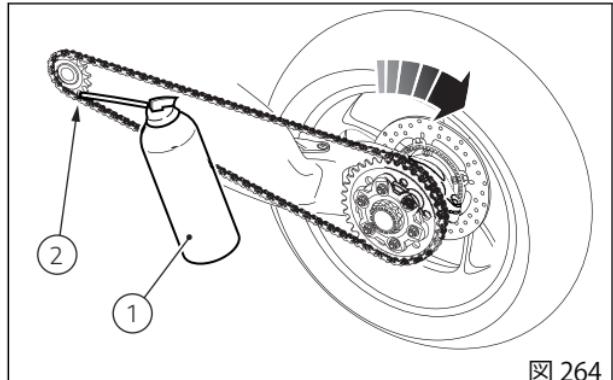


図 264

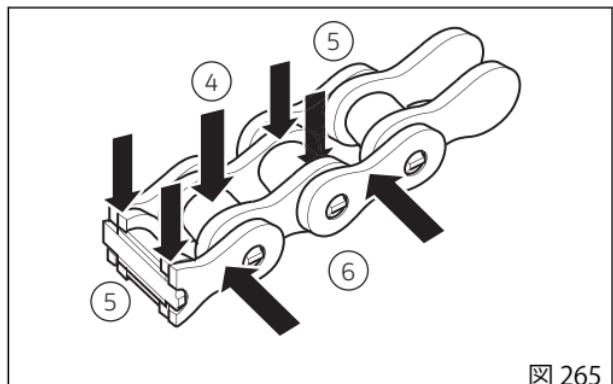


図 265

潤滑の終了後 10～15 分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

!**重要**

チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

!**重要**

チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも 1000 km (621 マイル) 每に行ってください。外気温度が高い(40° C) 土地での使用時、または長距離におよぶ高速道路での走行の後は、より頻繁(約 400 km (248 マイル) 每) に潤滑を行ってください。

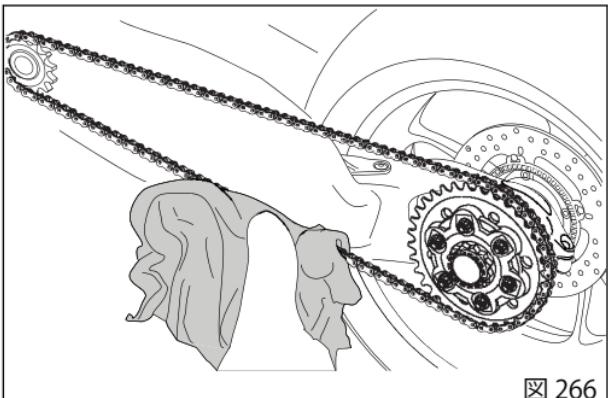


図 266

ハイビーム/ロービーム電球の交換

ヘッドライトユニットはフルLEDですので、メンテナンスの必要はありません。図ではハイビームランプ(HI)、ロービームランプ(LO)、パーキングランプ(1)の位置を示しています。ランプの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアターンインジケーター

ターンインジケーターライトはLED電球なのでメンテナンスの必要はありません。

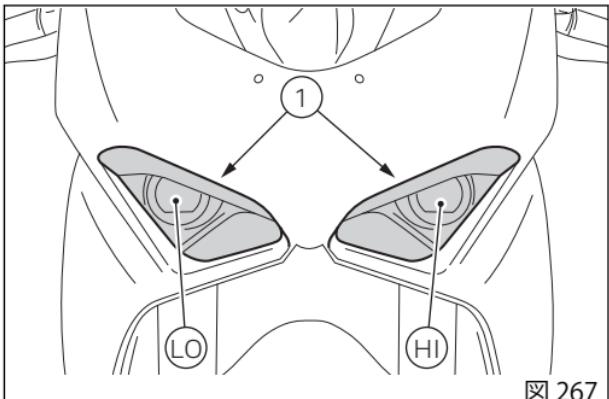


図 267

ヘッドライトの光軸調整

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員1名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前10メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯し、左右の光軸調整を行います。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの9/10以下でなければなりません。

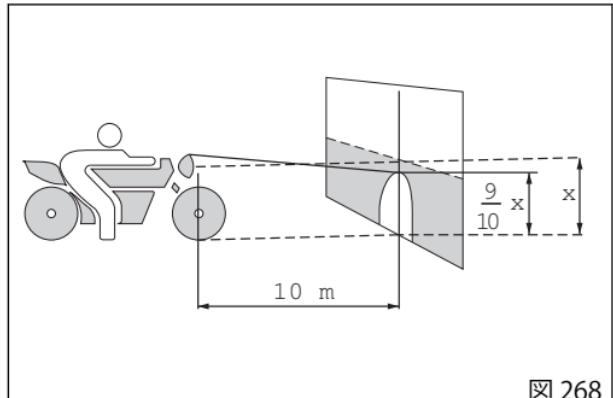


図 268

参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したもので、車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

ヘッドライトの光軸調整を行うには、車両前部、左右に設けられたスクリュー(1)または(2)を回します。

左側のスクリュー(1)でハイビームランプを調整します。

- 時計回りに回すと光軸が下がります。
- 反時計回りに回すと光軸が上がります。

右側のスクリュー(2)でロービームランプを調整します。

- 時計回りに回すと光軸が下がります。
- 反時計回りに回すと光軸が上がります。

警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

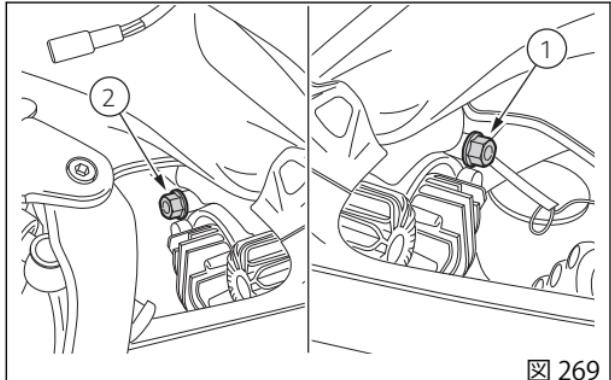


図 269

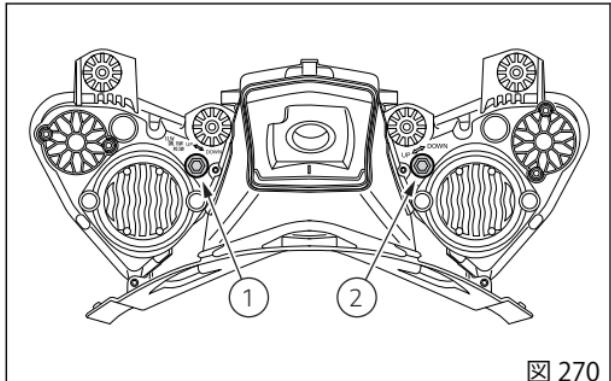


図 270

リアビューミラーの調整

ポイント(A)を押しながらミラーを手動で調整します。

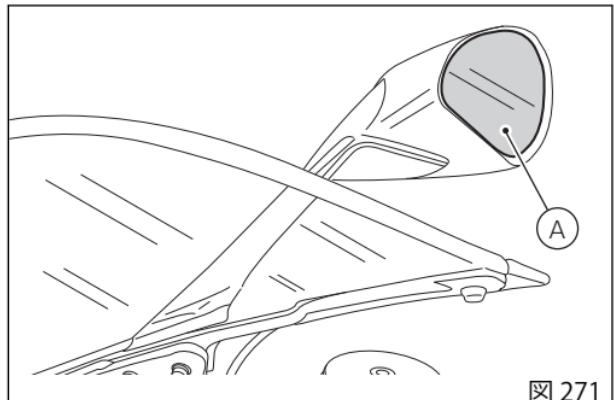


図 271

チューブレスタイヤ

公道(ライダーのみ)：

2.3 bar (33.36 PSI) (フロント)- 2.1 bar (30.46 PSI) (リア)

公道(ライダー+パッセンジャー)：

2.5 bar (36.26 PSI) (フロント)- 2.9 bar (42.06 PSI) (リア)

サーキット(ライダーのみ)：

2.3 bar (33.36 PSI) (フロント)- 1.8 bar (26.10 PSI) (リア)

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

警告

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を0.2~0.3 bar (2.90 ~4.35 PSI) 上げてください。

タイヤの修理、交換(チューブレス)

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

警告

パンクが見つかった場合は、タイヤを交換してください。タイヤの交換には、標準装備と同じメーカーとタイプのタイヤを選択してください。走行中に空気が漏れるのを防ぐために、バルブの保護キャップが確実に締まっていることを確認してください。エアチャンバーのあるタイヤを装着すると、突然タイヤが破裂してライダーが危険に晒されるおそれがありますので、エアチャンバーを有するタイヤは絶対に使用しないでください。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。



参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどのABSシステム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所(S)の溝の深さを測定します。溝の深さは2 mm (0.08 in)以上でなければならず、また現地法で定めた規定値以下であってはなりません。



重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

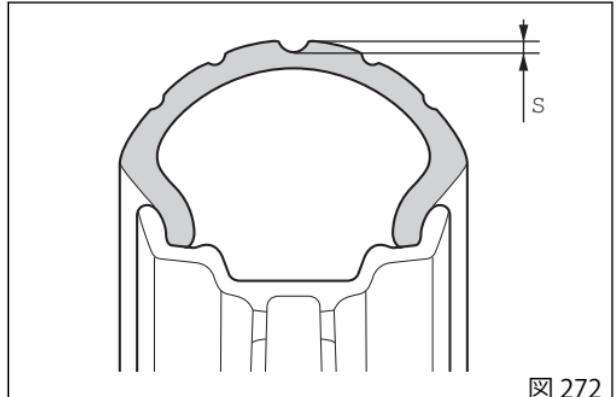


図 272

エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、エンジンブロック左側にある点検窓(1)から見ることができます。

オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。

ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です (JASO : MA2、API : SN)。

車両右側にあるフィラーキャップ(2)を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。フィラーキャップ(2)を取り付けます。

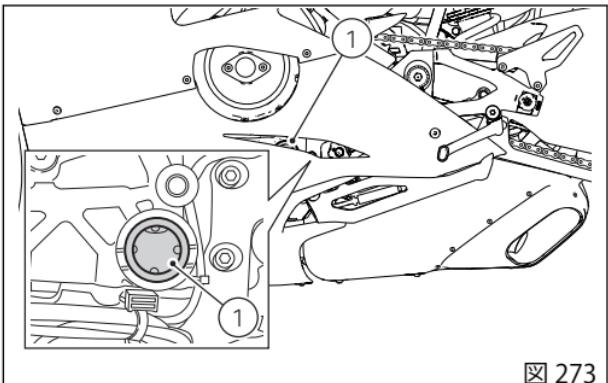


図 273

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルレベルの正確な点検を実施するには、以下に記載する作業をよく読んで指示に従ってください。

1) ヘッドに溜まったオイルがオイルパンに戻るには時間が必要です。そのため、オイルレベルの点検はエンジンを切ってから少なくとも 2 時間が経過した後に実施してください。

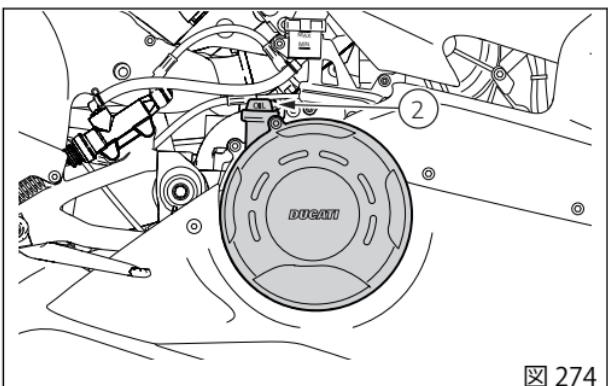


図 274

- 2) 平坦な場所に両方の車輪を地面に着け、直立に駐車します。
- 3) この時点で、エンジンオイル点検窓からオイルレベルを点検します。
- 4) オイルレベルが MIN と MAX 目盛りの中央より下であれば、MAX 目盛りまでオイルを補充してください。



警告
MAX 目盛りは絶対に超えないようにしてください。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格：SN
- JASO 規格：MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API(米国での分類)および JASO(日本標準)は、オイルが有する特徴を表します。

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。

プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。

アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨材付きスポンジやスチールワールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象なりません。

重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。洗車には温水ジェットや高压洗浄機を使用しないでください。

洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露(くもり)を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。

エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統(チェーン、フロント/リアスプロケット等)に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドラランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンターを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けしてください。

警告

インストルメントパネルのクリアカバーにオイルや燃料が直接付着しないようにしてください。シミや損傷の原因となり情報を読み取りにくくなるおそれがあります。この部分の清掃にはアルコール系洗剤、溶剤や研磨剤入りの洗剤を使用しないでください。表面の硬いザラついたスポンジや布はキズが付くおそれがありますので使用しないでください。

参考

インストルメントパネルのクリアカバーは、やわらかい布を使用して水と中性洗剤、もしくはクリアプラスチック部品専用の洗剤で清掃してください。

参考

インストルメントパネルの清掃には、アルコールやアルコール由来の製品を使用しないでください。

ホイールリムにはアルミニウム加工が施されていますので、清掃には十分に注意してください。車両を使用するたびに、ホイールリムを清掃して乾燥させてください。

重要

ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。

スパークプラグの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

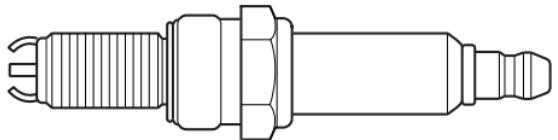


図 275

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- 接続を切り離し、バッテリーを取り外します。バッテリーメンテナーで定期的に充電します。
- 結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。車体力バーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、ヨーロッパ、イス等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。

法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム：ディーラーでおこなうメンテナンス

■ 警告

このメンテナンスプログラムは Panigale V4 の公道での使用を想定しています。サーキットで使用する場合、競技でなくても車両のすべてのシステムに多大な負荷がかかりますので、定期点検をより頻繁におこなう必要があります。

■ 警告

Panigale V4 を競技で使用するためのパーソナルアドバイスをお受けになられたい場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	12	24	36	48	期間(月)
		0.6	7.5	15	22.5	30	
DDS 2.0による不具合メモリー読み取り、コントロールユニットのソフトウェアバージョン更新の確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコードの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークメッシュフィルターアセンブリの交換				●		●	-
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	-

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	12	24	36	48	期間(月)
		0.6	7.5	15	22.5	30	
チェーンタイミングシステムおよびオイルポンプコマンド チェーンの摩耗の目視点検						●	-
スパークプラグの交換			●		●		-
エアフィルターの清掃		●		●			-
エアフィルターの交換			●		●		-
クラッチカバー、クラッチプロテクションカバー、ジェ ネレーターカバー、オイルパン固定スクリューの交換			●		●		-
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●	●	●	●	●	12	
ブレーキ/クラッチフルードの交換						24	
ブレーキパッドの点検必要な場合は交換	●	●	●	●	●	12	
ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリ ューの締め付け点検	●	●	●	●	●	12	
フロント、リアホイールナットの締め付け点検	●	●	●	●	●	12	
ホイールハブベアリングの点検			●		●		-
リアホイールシャフトの点検と潤滑			●		●	24	
リアスプロケットのダンパーの点検			●		●		-
ファイナルドライブのリアスプロケットのナット、フロ ントスプロケットのナット締め付け点検	●	●	●	●	●	12	

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000	1	12	24	36	48	期間(月)
	マイル x1000	0.6	7.5	15	22.5	30	
ドライブチェーンスライダーの摩耗点検		●	●	●	●	●	12
ドライブチェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ステアリングペアリングの点検と潤滑				●		●	24
フロントフォークオイルの交換							36
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12
フレーム-エンジン、スイングアームの締め付け点検			●	●	●	●	-
サイドスタンドの作動、締め付け点検		●	●	●	●	●	12
フューエルホースの目視点検			●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り回しの点検		●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー、ペダルレコマンドの潤滑			●	●	●	●	12
クーラントの交換						●	48
クーラントレベルの点検		●	●	●	●	●	12
電動ファンの作動点検		●	●	●	●	●	12
タイヤ空気圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12
バッテリー充電レベルの点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	12	24	36	48	期間(月)
		0.6	7.5	15	22.5	30	
アイドリング点検		●	●	●	●	●	12
DDS 2.0 を使用したエキゾーストバルブオープニングボーデンケーブルの調整		●		●		●	-
セカンダリーエアシステムの機能点検				●		●	-
電気安全装置の作動点検(サンドスタンドセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー)		●	●	●	●	●	12
DDS 2.0 を介した可変長エAINテークファンネル(VIS)のリセット				●		●	-
ランプ、インジケーター類の機能点検		●	●	●	●	●	12
DDS 2.0 を介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	-
セーフティデバイス(ABS、DTCなど)のテストを兼ねた路上でのテスト走行		●	●	●	●	●	12
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車載書類(サービスブック)への記入		●	●	●	●	●	12

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

メンテナンスプログラム：お客様がおこなうメンテナンス



重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスマッショーン、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000 マイル x1000	月
エンジンオイルレベルの点検	1 0.6	●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑必要であれば正規ディーラーにお越しいただき調整を行ってください。		●
ドライブチェーンおよびリアスプロケットの摩耗点検。必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカル仕様

重量

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠) : 195 kg (429.90 lb)
車両重量 (液体類、バッテリーを含まない) : 174 kg (383.60 lb)
車両総重量 (最大負荷) : 370 kg (815.71 lb)

! 警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

サイズ

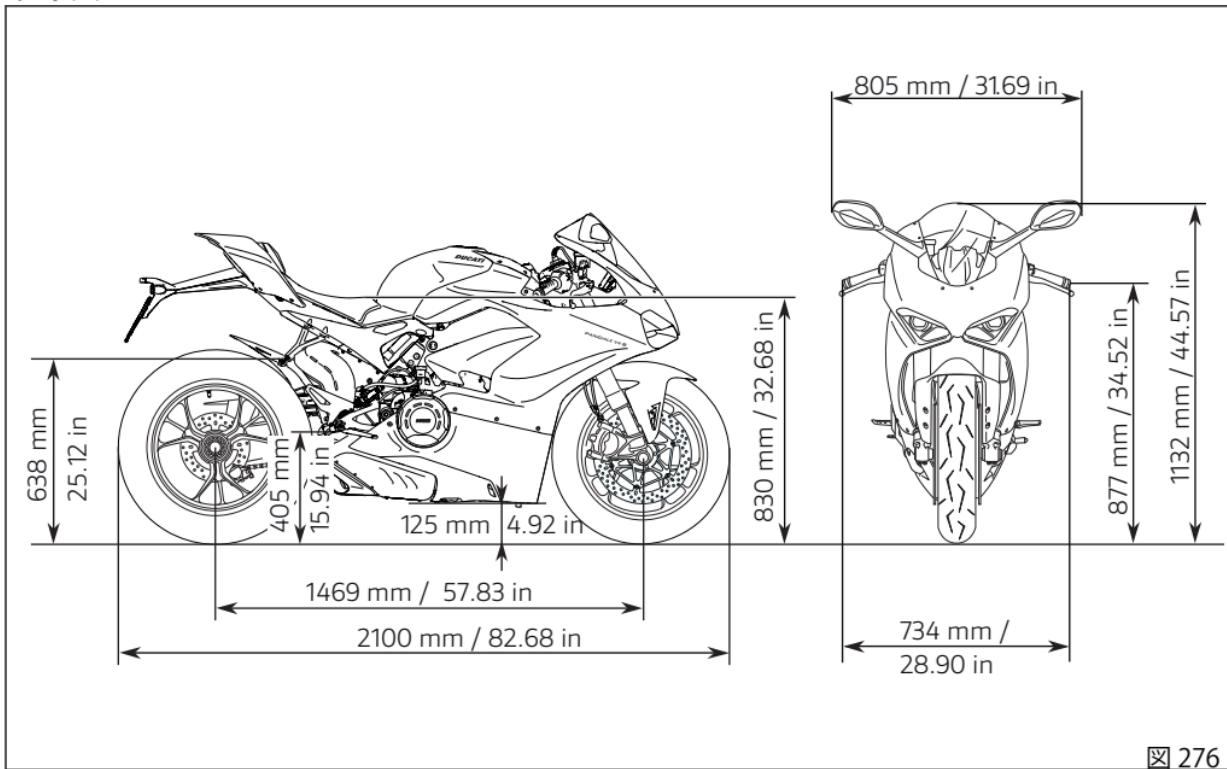


図 276

補給

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4.5 リットル(0.99 オクタン価が 95 以上の無鉛ガソリン SHELL 16 リットル UK ガロン)を含む	V-Power を使用してください。	(3.52 UK ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルタ -	ドゥカティ社推奨オイルは SHELL Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API : SN) です。	3.4 リットル (0.75 UK ガロン)
フロント/リアブレーキシステム、クラッ チ	-	-
電極保護液	電気系統の保護スプレー	-
フロントフォーク	SHELL Donax TA	230 mm (9.05 in) $382 \pm 4 \text{ cm}^3$ (23.31 ± 0.24 cu in)
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄めず に使用)	2.05 リットル (0.45 UK ガロン)



重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

デスマセディチ・ストラダーレ：90°、V型4気筒、逆回転クラランクシャフト、シリンダーごと4バルブのデスマドロミックタイミングシステム、水冷式。

ボア：81 mm (3.19 in)

ストローク：53.3 mm (2.1 in)

総排気量：1103 cm³ (67.31 cu in)

圧縮比：14.0 ± 0.5:1

クラランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014
添付 X、kW / HP：

157.5 kW/214.0 HP / 13000 rpm

クラランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014、
添付 X、kW / HP、フランスバージョンのみ：

84 kW/114.2 HP / 10500 rpm

クラランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014
添付 X：

124 Nm / 12.6 Kgm / 10000 rpm

クラランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No.
134/2014、添付 X、フランスバージョンのみ：

99 Nm - 10.1 Kgm / 7500 rpm

最高回転数、rpm : 14,500 rpm / 15,000 rpm (6速ギア)

参考

エンジンがアイドリング中でスロットルグリップが完全に戻っている時に、ECUはリアバンクの2本のシリンダーを停止します。この停止は、特にエンジン温度、ギア位置、クラッチレバー（ギアがニュートラル以外に入っている場合はクラッチを切っている必要がある）の状態に応じ、一定の条件を満たした場合にのみ実行されます。このストラテジーはライダーのサーマルコンフォートと燃費の点で有利に働きます。

重要

走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。

参考

記載されている出力 / トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

タイミングシステム

シリンダーごとに4バルブのデスモドロミックタイミングシステム

デスモドロミックタイミングシステム

- 1) オープニング(アッパー)ロッカーアーム
- 2) オープニングロッカーシム
- 3) クロージング(ロア)ロッカーシム
- 4) ロッカーアームリターンスプリング
- 5) クロージング(ロア)ロッカーアーム
- 6) カムシャフト
- 7) バルブ

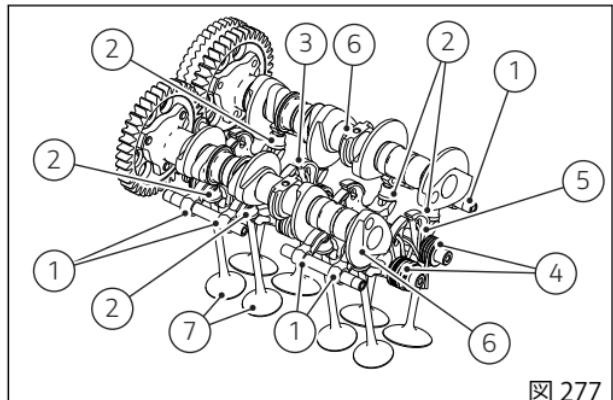


図 277

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

! 重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーター ホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK

タイプ：LMDR10A-JS

燃料供給

電子制御式間接燃料噴射装置、誘導放電式、可変長ダクトによるエアインテークシステム

スロットルボディ：フルライドバイワイヤシステム搭載
軸円型 (相当径) :

52 mm (2.05 in)

シリンダーごとのインジェクター数：2

ガソリン燃料：95-98 RON



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

穴付きセミフローティングダブルディスク

ブレーキシュー材質：ステンレススチール

ハウジング材質：アルミニウム

ディスク径：330 mm (12.99 in)

ブレーキディスク厚：5 mm (0.2 in)

右側ハンドルレバーによる油圧コントロール

ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO

タイプ：Stylema^(R) M4.30 モノブロックラジアルマウント (コーナリング ABS EVO)

キャリパーのピストン数：4

ブレーキパッド材質：BRM10H

ポンプタイプ：PR16/21

リア

穴あき固定ディスク、スチール製

ディスク径：245 mm (9.6 in)

ブレーキディスク厚：5 mm (0.2 in)

車体右側ペダルによる油圧コントロール

キャリパーメーカー：BREMBO

キャリパーのピストン数：2

コーナリング ABS 標準装備

ブレーキパッド材質：Ferodo Ferit I/D 450 FF

ポンプタイプ：PS 13

ポンプ径：13 mm (0.51 in)

警告

ブレーキフルードは腐食性があります。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でし
っかりと洗い流してください。

トランスミッション

湿式多板、油圧式制御、左ハンドルレバーによる操
作、セルフサーボ機構およびスリッパークラッチ機構
付き。

エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝
達。

一次減速比：1.80:1

6速ギア、ドゥカティクイックシフト (DQS) UP/
DOWN EVO、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：16/41

変速比：

1速 38/14

2速 36/17

3速 33/19

4速 32/21

5速 30/22

6速 30/24

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動
伝達

メーカー：DID 525HV3 KAI ZB

リンク数：114

重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなる
ことがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更を望まれるお客様に、
Ducati モーターホールディング社から特別なギア比に
関する情報を提供することが可能です。Ducati 正規デ
ィーラーまたはサービスセンターにお問い合わせくだ
さい。



警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

この部品の誤った交換は、ライダーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与えるおそれがあります。

フレーム

アルミニウム合金フレーム

アルミニウム合金リアサブフレーム

キャスター角：24.5°

ステアリングアングル：左側 26° / 右側 26°

トレール：100 mm (3.93 in)

ホイール

フロント

鍛造アルミニウム合金 3 本スポークリム

寸法：MT3.50x17"

リア

鍛造アルミニウム合金 3 本スポークリム

寸法：MT6.00x17"

タイヤ

フロント

チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Supercorsa SP

寸法：120/70-ZR17

リア

チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Supercorsa SP

寸法：200/60-ZR17

サスペンション

フロント

ÖHLINS 製 NIX3 TiN コーティング、フルアジャスタブル倒立フォーク。

Öhlins Smart EC 2.0 制御によるリバウンドダンピングとコンプレッションダンピングのセミアクティブモード制御。

インナーチューブ径：

43 mm (1.7 in) TiN コーティング

ホイールトラベル：

120 mm (4.7 in)

リア

ÖHLINS 製 TTX36 モノショックアブソーバー、フルアジャスタブル。

Öhlins Smart EC 2.0 制御によるリバウンドダンピング
とコンプレッションダンピングのセミアクティブモー
ド制御。

アルミニウム製片持ち式スイングアーム

ホイールトラベル：

130 mm (5.1 in)

ステアリングダンパー

ÖHLINS 製ステアリングダンパー

エキゾーストシステム

“4-2-1-2” レイアウト：4 in 2 in 1 in 2 構造のエキゾー
ストシステム

ラムダセンサー 2 個、触媒コンバーター 2 個

カラーバリエーション

Ducati アニバーサリーレッド 部品番号：473.101
(PPG)

ベース (アクリフレックス ホワイト)、部品番号：

LMC06017 (LECHLER)

グレーフレーム、ブラックホイール

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

ヘッドライトタイプ：

LED Luxeon Altilon 1 個 + LED Luxeon F Plus (ロービーム) 2 個

LED Luxeon Altilon (ハイビーム) 1 個

LED Luxeon F ES (パーキングライト/DRL) 4 個

ハンドル上スイッチ

LED フロントターンインジケータータイプ：

LED OSRAM LYE65F 15 個

LED リアターンインジケーター (ヨーロッパバージョン) タイプ：

LED PHILIPS LXM2-PL01 1 個

リアターンインジケーター電球(USAバージョン) タイプ：

RY10W (12V-10W) オレンジ色

テールライトタイプ：

LED OSRAM LSA67F 18 個

LED ストップランプタイプ：

LED OSRAM LAE6SF 18 個

LED ナンバープレートランプタイプ：

LED CREE CLA1A-WKW 3 個

警告ホーン

ストップランプスイッチ

リチウムイオンバッテリー：

12.8V - 4Ah (LiFePO4 バッテリー)

ジェネレーター (Denso) :

14V - 425W

電子レギュレーターは、バッテリー横のスターターコンタクター上に設けられた30Aヒューズで保護されています。

スターターモーター：

BA06 12V - 0.6 kW



参考

電球の交換は、"ハイ/ロービーム電球の交換" を参照してください。

ヒューズ

電装品の保護ヒューズはフロントヒューズボックス内に12個、スターターコンタクター上に1個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが1個あります。

ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

左フロントヒューズボックス(A、図278)および右フロントヒューズボックス(B、図279)は、バッテリー上に配置されています。

ヒューズの作業を行うには、“バッテリーの充電”の記載に従いタンクカバーを取り外します。

ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。

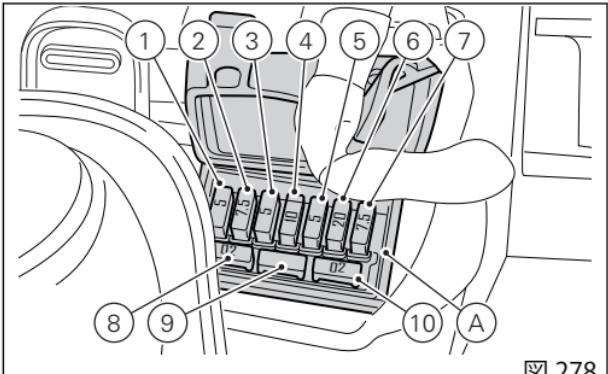


図 278

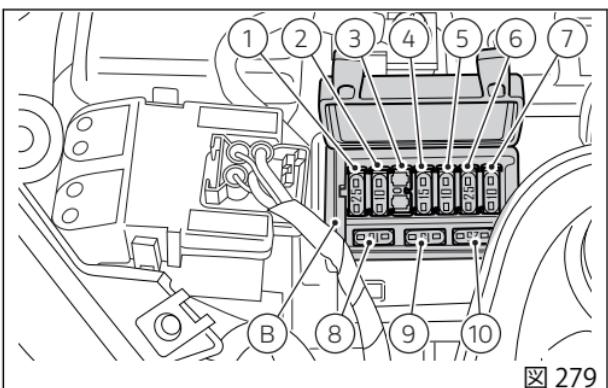


図 279

左フロントヒューズボックス凡例(A)		
配置	保護装置	容量
1	EMS / ABS / IMU	5 A
2	DASH / BBS / SMEC	7.5 A
3	ヘッドライトユニット	5 A
4	SBS	-
5	アクセサリー(SW)	5 A
6	インジェクションリレー	20 A
7	診断 / 充電	7.5 A
8	スペア	20 A
9	スペア	15 A
10	スペア	5 A

右フロントヒューズボックス凡例(B)		
4	インストルメントパネル	15 A
5	Black Box システム(BBS)	15 A
6	ABS 1	25 A
7	ABS 2	10 A
8	スペア	25 A
9	スペア	15 A
10	スペア	10 A

右フロントヒューズボックス凡例(B)		
配置	保護装置	容量
1	EMS 負荷リレー	25 A
2	燃料ポンプリレー	10 A
3	スターターリレー	-

メインヒューズ(C)はヒューズボックス(B、図279)右側、スターターコンタクター(D)上に設置されています。

ヒューズで作業を行うには、“バッテリーの充電”の記載に従いタンクカバーと保護キャップ(E)を取り外す必要があります。切れたヒューズは、インナーフィラメント(F)が溶断しているかどうかで確認することができます。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーをOFFにしてください。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすことがあります。

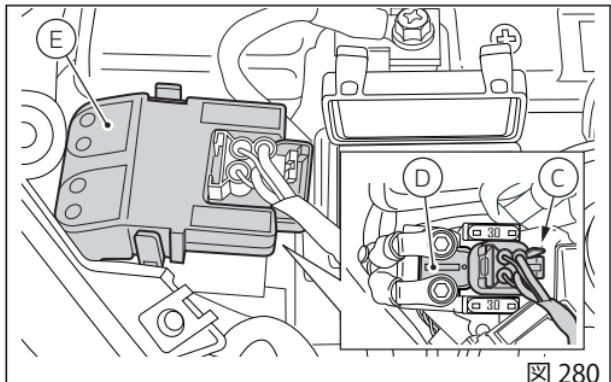


図 280

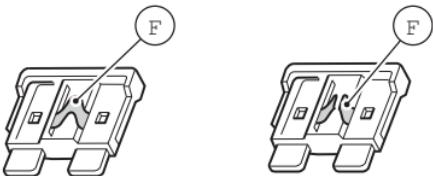


図 281

インジェクション/エレクトリカルシステム配線 図凡例

- 1) ハンドルバー左側スイッチ
- 2) ハンドルバー右側スイッチ
- 3) フロントストップスイッチ
- 4) イモビライザー
- 5) イグニッションシステム(キーブロック)
- 6) 左ファン
- 7) 右ファン
- 8) フロントスピードセンサー
- 9) ABS コントロールユニット
- 10) リアスピードセンサー
- 11) mart EC コントロールユニット
- 12) 車両コントロールユニット(BBS)
- 13) テールライト
- 14) 診断
- 15) 主要配線 / リア配線ワイヤーハーネス接合
- 16) 主要配線 / リア配線ワイヤーハーネス
- 17) リア配線
- 18) 右リアターンインジケーター
- 19) ナンバープレートランプ
- 20) 左リアターンインジケーター
- 21) エンジンコントロールユニット
- 22) アッパーインジェクター(シリンダー4)
- 23) アッパーインジェクター(シリンダー3)

- 24) アッパーインジェクター(シリンダー2)
- 25) アッパーインジェクター(シリンダー1)
- 26) リアインジェクター(シリンダー4)
- 27) リアインジェクター(シリンダー3)
- 28) フロントインジェクター(シリンダー2)
- 29) フロントインジェクター(シリンダー1)
- 30) リアコイル4
- 31) リアコイル3
- 32) フロントコイル2
- 33) フロントコイル1
- 34) パージバルブ
- 35) セカンダリーエアアクチュエーター
- 36) エアインテークファンネルモーター(VIM)
- 37) リアポテンショメーター
- 38) フロントポテンショメーター
- 39) リアラムダセンサー
- 40) フロントラムダセンサー
- 41) リアノックセンサー
- 42) フロントノックセンサー
- 43) サイドスタンドスイッチ
- 44) クイックシフト
- 45) ギアセンサー
- 46) エンジン温度
- 47) エンジン回転数/タイミングセンサー
- 48) リアストップスイッチ
- 49) リアMAPセンサー4

- | | | | |
|-----|---------------------------|-----|-------------|
| 50) | リア MAP センサー 3 | 76) | 左ヒューズボックス |
| 51) | フロント MAP センサー 2 | 77) | 右ヒューズボックス |
| 52) | フロント MAP センサー 1 | 78) | エンジンアース |
| 53) | リア TPS | 79) | ヒューズコンタクター |
| 54) | フロント TPS | 80) | スターターモーター |
| 55) | アクセサリー機器 | 81) | レギュレーター |
| 56) | 外気温 | 82) | IMU 1 |
| 57) | クラッチスイッチ | 83) | IMU 2 |
| 58) | 左フロントターンインジケーター | 84) | APS センサー |
| 59) | GPS (オプション) | 85) | リリースコネクター 1 |
| 60) | ヘッドライト | 86) | リリースコネクター 2 |
| 61) | インストルメントパネル | 87) | バッテリー |
| 62) | 右フロントターンインジケーター | | |
| 63) | オイル圧センサー | | |
| 64) | 警告ホーン | | |
| 65) | ファンリレー | | |
| 66) | ステアリングダンパー | | |
| 67) | フロントサスペンション コンプレッション | | |
| 68) | フロントサスペンション リバウンド | | |
| 69) | EX-UP モーター | | |
| 70) | リアサスペンション コンプレッション | | |
| 71) | リアサスペンション リバウンド | | |
| 72) | フューエルポンプ | | |
| 73) | コントロールユニットリレー (LOADS EMS) | | |
| 74) | キーセンスリレー | | |
| 75) | フューエルポンプリレー | | |

配線カラー表

- B 青
- W 白
- V 紫
- Bk 黒
- Y 黄
- R 赤
- Lb ライトブルー
- Gr グレー
- G 緑
- Bn 茶
- O オレンジ

P ピンク



参考

配線図はマニュアルの最後部にあります。

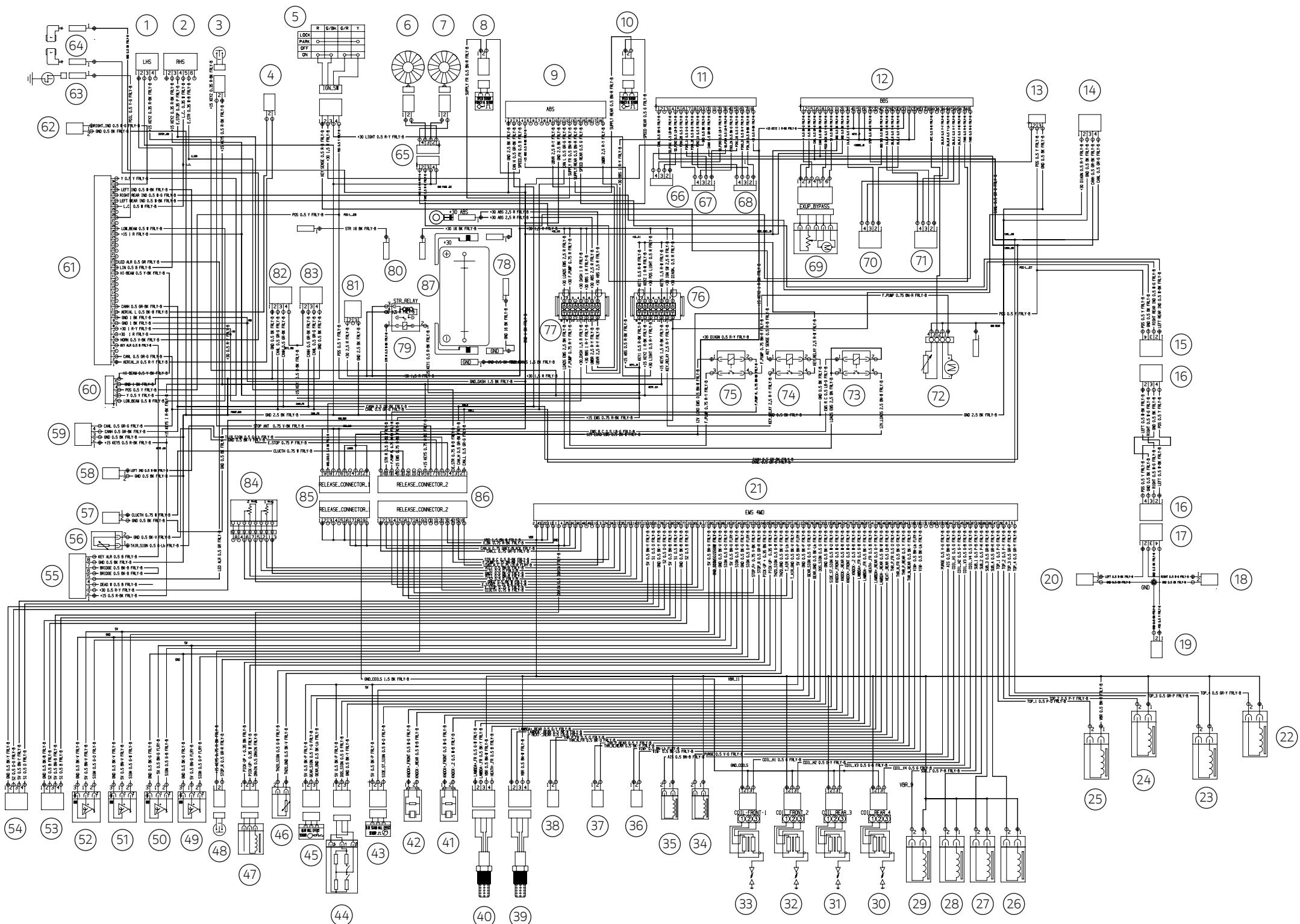
定期点検メモ

定期点検メモ

KM	DUCATI SERVICE 名	走行距離	日付
1000			
12000			
24000			
36000			
48000			
60000			

Stampato 07/2019

Cod. 913.7.448.1B Rev. 01



cod. 913.7.448.1B

Ducati Motor Holding spa
ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
A Company subject to the Management
and Coordination activities of AUDI AG